償スル責任アルモノトス

○婚姻ノ豫約ヲ爲スニハ民法第七百七十二條所定ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ要セサルモノトス　八　七六〇

○婚姻ノ豫約ハ事實上或種ノ儀式ヲ伴フコトナキニ非スト雖其儀式ハ豫約ノ成立要素ニ非サルハ勿論效力發生ノ條件ニモ非スシテ唯豫約ノ締結ヲ表彰スル社交的典禮タルニ過キス從テ何等ノ儀式ヲ擧ケスシテ婚　八　一〇一〇

○婚姻ノ豫約ヲ爲シタル場合ニ於テモ其豫約ハ適法ニシテ有效ナリトス　八　一〇一〇

○婚姻ノ豫約ト其目的タル婚姻トハ法律上同一性質ヲ有スルモノニ非サレハ婚姻ニ適用スヘキ法規ハ當然婚姻ノ豫約ニ適用スヘキモノニ非ス　八　一〇一〇

（第七百六十五條）

『第七百六十五條』

○婚姻ノ豫約ハ婚姻ノ成立スル前提事項タルニ止マリ婚姻其モノトハ全ク別箇ノ契約ナレハ民法第七百六十五條ノ婚姻年齡ニ達セサル者ノ爲シタル婚姻ノ豫約ト雖モ當時既ニ年齡十五年五ヶ月ノ未成年ニシテ意思能力ヲ有スル者ナル以上ハ自己ノ行爲ノ何タルヤヲ辨識シテ爲シタルモノナルヲ以テ其契約ハ無效ニ非ス　八　六九二

（第七百七十二條）

『第七百七十二條』

○婚姻ノ豫約ヲ爲スニハ民法第七百七十二條所定ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ要セサルモノトス　八　一〇一〇

（第七百七十五條）

『第七百七十五條』

○婚姻ハ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生スルモノナルカ故ニ當事者ニ於テ毫モ婚姻ヲ爲スノ意思ナク第三者カ擅ニ當事者ノ名ヲ以テ其届出ヲ爲シタル場合ハ其婚姻ノ無效タルヘキハ言ヲ俟タサル所ニシテ其專擅行爲ヲ爲シタル第三者カ當事者ノ親權者ナルト否トニ依リテ其結果ヲ左右スルモノニ非ス　九　一三七五

第四節　離婚

第一款　協議上ノ離婚

（第八百十條）

『第八百十條』

○協議上ノ離婚ハ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生スルモノニシテ既ニ夫婦カ其協議ヲ以テ離婚ヲ爲シタル旨ノ届出アリタル場合ニ於テハ其一方カ實際離婚ノ協議ナカリシコトヲ理由トシテ離婚届出ノ無效ナルコトヲ主張スルモ他ノ一方カ之ヲ爭フ以上ハ訴ニ因リ其離婚届出ノ無效トスル判決確定スルニ非サレハ其離婚ノ届出ハ依然トシテ效力ヲ有シ夫婦關係ハ存在セサルモノトス　九　三〇

（第八百十三條）

『第八百十三條』

○甲ハ乙ニ對シ消費貸借ニ因ル債務アルニ拘ハラス其債務ヲ免カルル爲メ乙ノ親權者ニシテ社會上ノ身分地位中流ノ程度ニ在ル丙ニ欺カレ虚僞ノ債權證書ヲ作成交付シタリト主張シ丙ニ對シ證書無效確認ノ訴ヲ提起シ且取消ノ意思表示ヲ爲シタルハ丙ノ社會上有スル身分地位ニ對スル名譽ヲ毀損スルコト大ニシテ同人ニ對シテ重大ナル侮辱ヲ與ヘタルモノトス　八　三二八

第四章　親子

第一節　實子

第二款　庶子及ヒ私生子

（第八百二十七條）

『第八百二十七條』

○婚姻外ニ於テ生レタル子ハ生理的ニハ親子ナリト雖モ法律上ハ未タ以テ親子關係ヲ發生スルニ至ラス斯ル關係ハ其父又ハ母ニ於テ認知ヲ爲スニ依リテ始メテ生スルモノトス　一〇　二一〇

（第八百三十二條）

『第八百三十二條』

○母ハ父ノ認知以前ニ於テ私生子ニ對シ親權若クハ戸主權ヲ有スルコトアルヘシト雖モ此等ノ權利ハ父ノ認知ニ因リ當然遡及的ニ消滅スルモノニシテ民法第八百三十二條但書ノ保護ヲ受クルモノニ非サレハ私生子ノ母カ一時親權若クハ戸主權ヲ取得シタル事實ハ私生子カ父ノ認知ニ因リ其家ニ入ルノ妨ト爲ルモノニ非ス　九　一六三

（第八百三十五條）同主旨判例三八年四二九頁

○私生子カ認知セラルル以前既ニ一家ノ家督ヲ相續シテ戸主ト爲リタル場合ニ於テハ認知ノ遡及效ニ關スル原則ハ制限セラレ其私生子ハ父ノ認知ニ因リ前ニ遡リテ他家ナル父ノ家ニ入ル可キモノニ非スシテ依然家督ヲ相續シタル家ニ在リテ其戸主ト爲リタル地位ニ變更ヲ生セサルモノト解スルヲ相當トス　九　一五〇〇

『第八百三十五條』

○民法第八百三十五條ハ法定代理人カ自己ノ資格若クハ權利ニ依リ認知ヲ求ムルニ非スシテ未成年者タル子又ハ直系卑屬ヲ代表シテ認知ヲ求ムルノ意義ナリトス　八　二二三

同主旨判例三八年四二九頁

○父又ハ母カ未成年者ナル其子ヲ代表シテ認知ヲ請求スルハ即チ親權ノ效力ニ外ナラサルモノトス　八　二二三

○子ノ其父ニ對スル認知請求ノ訴ニ付キテハ父死亡ノ場合ニ檢事ヲ以テ相手方トスル旨ノ規定ナキヲ以テ該訴ハ其父ノ生存中ニ限リ之ヲ提起

スルコトヲ得ヘク其死亡後ハ子ノ認知請求權ハ當然消滅スルモノト解スルヲ相當トス　一〇

○認知請求ノ訴ハ子ノ父ニ對スル其子タルコトヲ認ムル意思表示ヲ求ムルモノニシテ親子タルコトノ確定ヲ目的トスルモノニ非サルカ故ニ斯ル意思表示ハ生存者ニ於テノミ之ヲ爲シ得ヘク他人ニ於テ代リテ之ヲ爲シ得ヘキモノニ非サルヲ以テ婚姻又ハ緣組ノ無效取消等ノ訴カ當事者ノ意思表示ヲ求ムルニ非スシテ確定又ハ創設ノ宣言ヲ求ムルトハ其性質上差異アルヲ以テ人事訴訟手續法第二條第三項ハ認知請求ノ訴ニ類推シテ父死亡シタル場合ニ檢事ヲ以テ相手方ト爲シ得サルモノトス　一〇　一二四

（第八百三十六條）

『第八百三十六條』

○父母ノ婚姻中ニ生レタル子ハ縱令其婚姻前ニ懷胎シタルモノト雖モ苟モ其父ニ於テ否認セサル限リハ嫡出子ニ他ナラサルモノトス　八　一七五六

第二節　養子

第一款　緣組ノ要件

○明治初年ニ於テ平民間ニ在リテハ婦女カ父母ノ婚姻ヲ承諾セサル以前ニ他人ト私通シテ分娩シタル子ハ往往之ヲ其生母ノ屬スル戸籍ニ子トシテ編入セス他家ニ遣ハシ之ヲ貰受ケタル者ハ自己ノ子トシテ届出テ其家ニ入籍セシムルコトノ慣行カ一般ニ行ハレタルモノニシテ或地方ニ行ハレサリシモノトスルモ其慣行ハ當時ノ法制上適法ノモノナリトス　八　一八九

○如上ノ慣ハ純行然タル養子緣組ニ非サルモ養子制度ニ準據スルモノト謂ヒ得ヘク私通ヲ幇助シ實親子ノ事實關係ヲ不明ナラシムルモノニ非ス　八　一八九

（第八百三十九條）同主旨判例三三年二卷三二頁

『第八百三十九條』

○民法施行以前ニ於テハ法定ノ推定家督相續人アル場合ト雖モ養嗣子ト爲スニ非スシテ單純ナル養子ト爲スハ毫モ妨ケナカリシモノトス　九　二七四

○民法第八百三十九條ニ所謂法定ノ推定家督相續人トハ何人ニモ其優越ナル相續權ヲ害セラルルコトナキ相續人ヲ謂フモノト解スヘキヲ以テ局限セラレタル相續權ヲ有スルニ過キサルモノト認ムヘキ場合ニ於テハ同條ニ所謂法定ノ推定家督相續人タル男子アル場合ニ該當セサルモノト解スルヲ相當トス　九　一六八八

（第八百四十三條）

『第八百四十三條』

○民法施行前ト雖モ養子ト爲ルヘキ者カ十五年未滿ノ幼者ナルトキハ父母ハ其法定代理人トシテ子ニ代リ緣組ヲ承諾スルコトヲ得タリシモノ

トス

第三款　縁組ノ效力

（第八百六十條）

『第八百六十條』

○民法施行前ニ於テ養嗣子ニ指定セラレタルトキハ其指定ノ效力ハ民法施行後モ變更ナキモノトス

○一旦養嗣子ニ指定セラレタル以上ハ其指定ニ因リ養嗣子タル身分ヲ取得シタルモノナルヲ以テ廢嫡其他ノ事由生セサル限ハ其後實男子出生シ又ハ養子ヲ迎フルモ養嗣子ノ地位ニ何等ノ變更ナク此關係ハ養嗣子ノ男子タルト女子タルトニ依リ差異ナキモノトス

第四款　離縁

（第八百七十四條）同主旨判例三年一一〇七頁

『第八百七十四條』

○離縁ノ訴訟中戸主タル養父死亡シ養子カ家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタルトキハ民法第八百七十四條ノ規定ニ依リ養子ヲ離縁スルコトヲ得サルノ結果トシテ養母ノ離縁ヲ訴フル權利モ消滅スルモノトス

（第八百七十五條）同主旨判例三五年一〇卷一一八頁

『第八百七十五條』

○民法施行ノ前後ニ拘ハラス養子カ離縁復籍シタルトキハ第三者ノ既ニ取得シタル權利ヲ害セサル限リハ其實家ニ於テ有シタル身分ヲ回復スルモノトス

○家督相續開始前ニ推定家督相續人ノ有スル相續權ノ如キハ如上第三者ノ既得權ニ屬セサレハ民法施行前ニ養嗣子ノ身分ヲ有スル者ト雖モ其養家ニ離縁復籍シタル者アルカ爲メニ右養家ノ家督相續ヲ爲スヲ得サルニ至ルコトアルモノトス

第五章　親權

第二節　親權ノ效力

（第八百七十九條）同主旨判例七年六〇九頁

『第八百七十九條』

○十三歳ノ幼兒カ親權者タル甲ノ意思ニ反シテ乙方ニ居住シ又乙ニ於テ甲ノ意思ニ反シテ之ヲ認容スルノ事實ハ甲ノ親權ノ行使ヲ妨害スルコト自明ナルヲ以テ右幼者ノ辨別力ノ有無又ハ其自由意思ニ出テタルト否トニ拘ハラス甲ハ其親權行使ノ妨害ヲ除去スル手段トシテ乙ニ對シ右幼兒ノ引渡ヲ求ムル權利ヲ有スルモノトス

（第八百八十四條）

『第八百八十四條』

○民法第八百八十四條ハ親權者カ未成年ノ子ヲ代表シテ法律行爲ヲ爲スニ當リ其財産ニ關スルモノニ付テハ自ラ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシ

テ其子ノ行爲ヲ目的トスル債務ヲ生スヘキモノニ付テハ本人ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノト解スルヲ相當トス　八　三五二

○如上本人ノ同意ハ自己ノ行爲ノ何タルヤヲ辨識スル意思能力アルヲ以テ足リ其行爲ニ因リ財產上發生スヘキ效果ヲ辨識スル能力アルコトヲ要セサルモノトス　八　三五二

○甲ノ親權者乙カ甲ニ代リ丙方ニ大工見習トシテ一定ノ期間住込ムヘキ雇傭契約ヲ締結シ同時ニ違約ノ場合ニ於ケル白米支拂ノ義務ヲ約シタルトキト雖モ其雇主方ニ住込ミ大工見習ニ從事スヘキ債務ヲ生スヘキモノニ付テハ甲ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモ他ノ制裁的約款ハ純然タル財產關係ニ止マルカ故ニ甲ノ親權者乙ハ甲ノ同意ヲ要セスシテ甲ニ代リ之ヲ約スルコトヲ妨ケサルモノトス　八　三五二

○時效中斷ノ效力ヲ生スヘキ承認ヲ爲スニハ單ニ管理ノ能力又ハ權限アルヲ以テ足ルモノナレハ親權者タル母ハ未成年ノ子ノ法定代理人トシテ子ノ負擔セル債務ニ付キ親族會ノ同意ナクシテ相手方ニ對シ有效ニ承認ノ意思表示ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　八　六四三

（第八百八十八條）

『第八百八十八條』

○親族會カ其決議ヲ以テ未成年者ノ爲メニ特別代理人ヲ選任シ之ニ訴訟提起ノ權限ヲ授與シ第三者ノ爲メニスル契約ノ履行ヲ求メシムルハ其前提タル未成年者カ利益享受ノ意思表示ヲ爲スヘキ代理權ノ授與ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス　八　四八一

同主旨判例三年六九〇頁

○民法第八百八十八條ニ所謂利益相反スル行爲トハ單ニ親權者ト未成年ノ子トカ各一方ニ當事者ト爲リ其間ニ爲ス行爲ノミニ限ラス親權者カ未成年者タル子ヲ代理シテ他人ニ對シ有スル代金債權ヲ拋棄シ他面同人ニ對シ親權者カ負擔セル同額ノ債務ノ免脫ヲ得ル如キ親權者ノ爲メニ利益ニシテ未成年者ノ爲メニ不利益ナル場合ヲ包括指稱スルモノト解スヘキモノトス　一〇　一四七六

（第八百八十九條）

『第八百八十九條』

○親權ヲ行フ父ハ未成年ノ子ノ財產ニ對スル管理權ヲ有シ之ヲ行フニ當リテハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ爲スヘキ責ニ任シ又子ノ成年ニ達シタルトキハ遲滯ナク其管理ノ計算ヲ爲スヘキ義務ヲ負ヘルコト民法第八百八十九條第一項第八百九十條ニ依リテ明カナルヲ以テ恣ニ子ノ財產ヲ處分スルコトヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス　一〇　五九五

○親權者カ其子ノ財產ニ付キ適當ナル管理ヲ爲シ親權者タルノ責任ヲ盡シタルノ事實ハ親權ヲ行フ父ニ於テ之ヲ立證スルノ責ヲ負フモノトス　一〇　五九五

（第八百九十條）

『第八百九十條』

○親權ヲ行フ父ハ未成年ノ子ノ財産ニ對スル管理權ヲ有シ之ヲ行フニ當リテハ自己ノ爲メニスルト同一ノ注意ヲ爲スヘキ責ニ任シ又子ノ成年ニ達シタルトキハ遲滯ナク其管理ノ計算ヲ爲スヘキ義務ヲ負ヘルコト民法第八百八十九條第一項第八百九十條ニ依リテ明カナルヲ以テ恣ニ子ノ財産ヲ處分スルコトヲ得サルモノト謂ハサルヘカラス　一〇　五九五

○親權者カ其子ノ財産ニ付キ適當ナル管理ヲ爲シ親權者タルノ責任ヲ盡シタルノ事實ハ親權ヲ行フ父ニ於テ之ヲ立證スルノ責ヲ負フモノトス　一〇　五九五

第三節　親權ノ喪失

（第八百九十九條）

『第八百九十九條』

○財産管理權ノ行使ヲ禁スル假處分アルモ財産ノ管理ヲ辭スルコトヲ妨ケサルモノトス　一〇　一八三五

第六章　後見

第一節　後見ノ開始

（第九百條）

『第九百條』

○民法第九百條第一號ニ所謂親權ヲ行フ者カ管理權ヲ有セサルトキトアルハ親權者カ管理權ノ喪失ヲ宣言セラレ又ハ親權ヲ行フ母カ管理權ヲ辭シタル爲メ之ヲ有セサルニ至リタル場合ヲ指スモノナルヲ以テ親權者カ假處分命令ニ因リ管理權ノ行使ヲ禁止セラレタル場合ハ單ニ該命令ノ效力ヲ有スル間管理權ヲ行使スルコトヲ得サルニ止マリ之ヲ有セサルニ至リタルモノニ非サルヲ以テ後見ハ開始セサルモノトス　一〇　八四一

（第九百十七條）

『第九百十七條』

○後見人カ民法第九百十七條ニ從ヒ就職ノ際財産目錄ヲ調製セサルトキハ親族會ニ於テ之ヲ免黜スルコトヲ得ルニ止マリ被後見人ノ親族又ハ親族會ノ一員ヨリ免黜ノ事由トシテ之ヲ主張シ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘキモノニ非ス　九　三四五

○選定後見人ハ民法第九百二十八條ニ依リ毎年少クトモ一回被後見人ノ財産ノ狀況ヲ親族會ニ報告スルコトヲ要スト雖モ後見人カ單ニ其義務ヲ怠リタルニ止マリ他ニ被後見人ノ財産ニ損害ヲ及ホシタル事實ナキ限ハ此一事ニ因リ免黜ノ事由タルヘキモノニ非ス　九　三四五

（第九百二十三條）

『第九百二十三條』

○離婚届出無效確認ノ訴訟ハ禁治産者ノ後見人カ禁治産者ノ爲メニ代リ

テ之ヲ提起シ之ニ關スル一切ノ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス（十三判）

（第九百二十九條）

『第九百二十九條』

○後見人ハ被後見人ニ代リテ時效ノ中斷ヲ生スヘキ債務ノ承認ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ要セサルモノトス　九　三〇

○時效完成後ニ於ケル債務ノ承認ハ時效ノ利益ノ拋棄ニシテ完成シタル時效ノ效力ヲ消滅セシメ既ニ消滅シタル權利ヲ未タ消滅セサルモノト爲スモノナレハ借財ヲ爲スト同視スヘキ行爲ナリ故ニ民法第十二條第一項ニ揭クル行爲ノ何レニモ該當セサルモ其第二號ヲ類推適用シ後見人カ被後見人ニ代リ時效完成後ノ債務ノ承認ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スト解スルヲ相當トス　八　八五一

（第九百三十六條）同主旨判例四一年二四一頁

『第九百三十六條』

○同上ノ規定ニ依リ相續ノ單純承認アリタルモノト看做サルル場合ト雖モ之ニ關シ要スヘキ親族會ノ同意ヲ缺如スルカ如キ取消ノ原因存スルトキハ其單純承認ヲ取消シ得ヘキモノトス（民法第千二十四條九年二四三頁參照）　九　二〇四三

同主旨判

○相續人カ民法第千二十四條第二號ノ規定ニヨリ單純承認ヲ爲シタルモノト看做サレタル場合ニ其者カ未成年者ニシテ其後見人カ單純承認ニ關シ親族會ノ同意ヲ得サリシトキハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトス　一〇　一七六五

○如上ノ場合ニ於テ相續人ハ更ニ單純若クハ限定承認又ハ拋棄ノ意思ヲ表示シ得ヘク之カ意思表示ヲ爲ス期間ニ付キテハ民法ニ規定スル所ナキモ同法カ第千十七條第千二十二條第千二十四條ニ於テ相續人ノ爲スヘキ承認拋棄又ハ其取消ニ付キ夫夫一定ノ期間ヲ定メタル律意ニ鑑ミ承認又ハ拋棄ノ意思表示ハ取消後遲滯ナク爲サシムル旨趣ナリト解スルヲ相當トス　一〇　一七六五

（例四一年二四一頁）

第七章　親族會

○家督相續人選定ノ爲メノ親族會決議ハ被選定者ノ意思如何ニ拘ハラス發表ト同時ニ其效力ヲ生スルモノニシテ被選定者ハ其決議ノ目的タルヘキモ之カ相手方タルヘキモノニ非ス　八　三七五

○家督相續人選定ノ親族會決議ヲ一種ノ法律行爲ナリトシ親族會決議ニ對シ民法第九十三條ニ準據シタルモ相手方ナキ有效ノ意思表示ナリト爲シ同條但書ヲ準用セサル判決ハ相當ナリ　八　三七五

（第九百四十四條）

『第九百四十四條』

○親族會員カ裁判所ノ招集シタル日時場所ニ參集シタルモ或事情ノ爲メニ會議ヲ開クコトヲ得スシテ其儘其日ヲ徒過シタル場合ノ如キハ即チ裁判所ノ爲シタル招集決定ハ全ク之カ執行ヲ見スシテ終リタルモノナレハ民法第九百四十四條ニ列擧スル者ヨリ更ニ裁判所ニ對シテ之カ招集ヲ申請スヘク會員自ラ擅ニ日時場所ヲ定メ親族會ヲ招集スヘキモノニ非ス　一〇

同主旨判例四年一八三四頁

○單ニ一回ノ目的タル事項ノ決議ヲ爲スニ因リテ當然其任務ノ終了スヘキ親族會ト雖モ親族會ノ全員カ裁判所ノ招集シタル日時場所ニ參集シテ親族會ヲ開會シ其目的タル事項ニ付キ議事ヲ進メタルトキハ當日其事項ヲ議了スルニ至ラサリシ場合ト雖モ親族會招集決定ハ該親族會ニ依リテ適法ニ執行セラレタルモノト謂フヘク而シテ法令又ハ性質上之ヲ許ササル場合ノ外會員全部ノ同意アルトキハ當該議事ヲ他日ニ續行シ得ヘク又其續行期日ニ開會スヘキ場所ニ付キテモ會員全部同意ヲ表スルトキハ招集決定ニ揭ケタル以外ノ場所ニ於テスルモ妨ケナキモノトス　八

○如上ノ場合ニ於テ親族會ノ續行期日トノ間ニ親族會員ノ一人カ死亡シテ他ノ者カ親族會員ニ選定セラルルモ其補缺ノ生シタル事實ハ叙上親族會ノ議事及ヒ期日續行並ニ場所選定ニ對スル全會員同意ノ效力ニ影響ナキモノトス　一〇

○被相續人ト事實上ノ夫婦關係アリタルノミニテハ民法第九百五十一條同法第九百四十四條ニ所謂利害關係人ニ該當セサルモノトス　一〇

同主旨判例四年一五一一頁

○相續人選定ノ爲メニ招集セラレタル親族會カ一旦相續人選定ノ決議ヲ爲シタルトキハ其任務終了スルト同時ニ決議ノ有效ナルト否トヲ問ハス當然解散スルモノトス　一〇

○如上ノ決議カ後日許可セラレサルトキ若クハ被選定者カ相續ノ拋棄ヲ爲シタルトキ等ノ如キハ更ニ相續人選定ノ必要生シタル場合ナルヲ以テ新ニ親族會ヲ招集スヘキモノニシテ從前ノ親族會員ニ於テ又ハ之ヲ增加シテ決議ヲ爲スヘキモノニ非ス　一〇

（第九百四十五條）同主旨判例七年一五九〇頁

『第九百四十五條』

○裁判所ハ一度親族會員ノ選定招集ノ決定ヲ爲シタル後ト雖モ尙ホ之カ增員ノ必要アルコトヲ認メタルトキハ申請ニ依リ又ハ職權ヲ以テ前決定ヲ變更シ之カ增員ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　八

○民法第九百四十五條ニ本人又ハ其家ニ緣故アル者トアルハ縱令本人ノ親族ニ非サルモ本人ノ友人雇人若クハ本家分家等苟クモ本人又ハ其家

ニ緣故ヲ有スル者ヲ謂フモノニシテ果シテ如何ナル者ヲ以テ緣故者ト稱スヘキヤニ付テハ法律上格段ナル規定アルコトナク一ニ裁判所ノ認定ニ依ルノ外ナキモノトス

○裁判所カ親族會員選定後增員ヲ相當ト認ムルトキハ非訟事件手續法第十九條ニ據リ選定決定ヲ變更シテ之カ增員ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ後見人ヲ指定スルコトヲ得ル者カ民法第九百四十五條第二項ニ從ヒ遺言ヲ以テ親族會員ヲ選定シタル場合ニ於テハ裁判所ハ申請ニ依リ親族會員ヲ增加スルコトヲ得サルモノトス　九　一〇　二二六八　三〇三

（第九百五十一條）

『第九百五十一條』

○親族會カ法定又ハ指定ノ家督相續人ナク且其家ニ被相續人ノ父母在ラサルカ爲メ家督相續人ヲ選定シタル決議ハ民法第九百五十一條ノ規定ニ依ル不服ノ訴ヲ以テ取消サレサル以上ハ縱令同第九百八十三條及ヒ同第九百八十五條第三項ニ違背スルモ其效力ヲ有セサルモノニ非ス

○民法第九百八十三條及ヒ同第九百八十五條第三項ニ規定セル許可ノ裁判ニ對スル抗告ハ親族會ノ決議カ同第九百五十一條ニ規定セル期間ノ徒過ニ依リ不服ノ訴ヲ提起スルコトヲ得サルニ至リタルトキハ全然法律上ノ利益ナキニ歸スルモノトス　八　八　一六五五　一六五五

○親族會員カ裁判所ノ招集シタル日時場所ニ參集シタルモ其場所ノ主人ヨリ會議ヲ開クコトヲ拒絕セラレタル爲メ空シク引取リ其後親族會員ノ一人カ擅ニ日時場所ヲ定メテ他ノ會員ニ招集ノ通知ヲ爲シ而モ其內一人カ該日時場所ニ異議ヲ唱ヘテ出席セサリシニモ拘ハラス他ノ會員ト共ニ親族會ヲ開キ決議ヲ爲シタル場合ノ如キハ親族會ノ招集手續ニ違背シタルモノナルヲ以テ之ニ基ク決議ハ單ニ民法第九百五十一條ニ依ル不服ノ訴ニ於テ裁判所ノ宣言ニ依リ無效ト爲ルヘキ素質ヲ有スルニ止マリ絕對無效ノ決議ニ非ス　八　一八八三

（同主旨判例四二年三三二頁）

○親族會ノ決議ハ其決議手續ニ違法ノ點アリテ法律上無效タルヘキ素質ヲ有スル場合ノ如キハ當然無效ニ非サレハ民法第九百五十一條ニ從ヒ之カ取消ヲ請求スルモ違法ニ非サルモノトス

○被相續人ト事實上ノ夫婦關係アリタルノミニテハ民法第九百五十一條同法第九百四十四條ニ所謂利害關係人ニ該當セサルモノトス　九　一七六一

○民法第九百五十一條ノ規定ニ從ヒ親族會ノ決議ニ對シテ不服ヲ主張スルニハ啻ニ其親族會ノ招集又ハ其決議ノ方法カ法規ヲ遵守セサルコトヲ理由ト爲スヘキモノノミニ止ラス未成年者ノ爲メニ其所有不動產ヲ賣却スルノ必要ナキコトヲ理由トスル場合モ亦不服ノ理由ト爲シ得ヘ　一〇　三九五

キモノトス

○親族會ノ決議ヵ當然無效ナルトキトハ其決議ヲ以テ左右スルコトヲ得サル法律ノ規定ニ違背シ又ハ親族會ノ構成不適法ニシテ決議ナキニ均シキ場合ヲ指稱スルモノニ係リ民法中相續順位變更又ハ不選定ニ關シ遵守スヘキ同法第九百八十三條ノ規定ニ違背シタル決議ノ如キハ單ニ過キサルモノトス　一〇　一六一七

同主旨判例十年一五九四頁

○同法第九百五十一條ノ規定ニ基キ不服ノ訴ニ依リ取消スコトヲ得ルニ　一〇　二〇二三

『第九百五十二條』（第九百五十二條）

○親族會員カ親族會ノ決議ニ代ルヘキ裁判ヲ請求スルコトヲ得ルハ民法第九百五十二條ノ明定スル所ナレハ親族會員タル者ハ親族會招集ノ期日ニ出席シタルト否トヲ問ハス右請來ヲ爲スノ資格ヲ有スルモノトス　九　一四一七

○民法第九百五十二條ニ所謂「親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサルトキ」トハ親族會ノ決議カ絕對不能ノ場合ノミニ限ラス親族會員三名ニシテ其一名ハ民法第九百四十七條第二項ノ規定ニ則リ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス又他ノ二名ハ意見一致セス爲メニ決議ヲ爲スコト能ハサル場合ヲモ包含スト解スルヲ相當トス　一〇　三一

第五編　相續

第一章　家督相續

第二節　家督相續人

○廢嫡ハ法定ノ推定家督相續人ノ相續權ヲ剝奪シ其家ノ戶主タル地位ニ就カシメサルコトヲ目的トスルモノニシテ單ニ或特定セル被相續人ニ對スル相續權ノ剝奪ヲ目的トスルモノニ非ス　八　四二一

○一旦廢嫡セラレタルトキハ縱令被廢嫡者カ其後其家ノ戶主ト爲リタル者トノ間ニ如何ナル身分關係ヲ生スルモ其廢嫡ノ取消サレサル限リハ當然相續權ヲ回復スルモノニ非ス　八　四二一

（聯）○相續人カ嘗テ相續權ヲ有シタルヤ否ハ相續開始前ニ存シタル狀態ニ據リ其當時ノ法律ニ依リテ之ヲ判斷スヘキモノトス　八　五〇七

『第九百六十八條』（第九百六十八條）

○民法第九百六十八條ハ家督相續ノ順位ニ付キ長幼ノ順序ヲ定ムル標準ヲ規定シタルモノニ非スシテ家督相續開始ノ當時胎兒タル者ニ適用セラルルモノナルカ故ニ相續開始ノ當時既ニ出生シタル者ニ對シテハ適

同主旨判例六年八三一頁

用スヘキモノニ非サルモノトス

（第九百六十九條）『第九百六十九條』

○廢嫡ト民法第九百六十九條ニ因ル缺格ト異ナル所ハ後者ハ全然家督相續ヨリ除斥セラルルモノナルニ反シ前者ハ唯法定ノ推定家督相續人タル順位ヲ剝奪セラルルニ過キサルモノニシテ從テ被廢嫡者ハ其後家督相續人トシテ指定又ハ選定セラルルコトヲ妨ケサルモ廢嫡ノ效力ハ單ニ特定セル被相續人ニ對スル關係ニ於テノミ生スルモノニ非ス

（第九百七十條）『第九百七十條』

○相續ノ順位ハ相續開始ノ時ヲ標準トシ其當時ノ法規ニ從フヘキモノナレハ民法施行後ニ生シタル隱居ニ因リ家督相續人ト爲ルヘキ者ハ民法ノ規定ニ依リテ定マルヘキモノトス

○民法施行前ニ甲家ニ入籍シ民法施行ノ際同家ノ戶主乙ノ家族タル丙ハ民法第七百三十八條ニ依リテ家族ト爲リタル者ニ非スシテ民法施行法第六十二條ニ依ル家族ナレハ家督相續ノ順位ヲ定ムルニハ民法第九百七十二條ノ適用アルコトナク一ニ同第九百七十條ヲ適用スヘキモノトス

同主旨判例三一年

○民法實施前ノ法規ニ於テハ養嗣子ニ非サル養子カ養親ノ家督相續ヲ爲スヘキヤ否ヤハ養親ノ意思如何ニ因リテ定マルヘキ事實上ノ問題ナリトス

（第九百七十二條）『第九百七十二條』

○民法施行前ニ甲家ニ入籍シ民法施行ノ際同家ノ戶主乙ノ家族タル丙ハ民法第七百三十八條ニ依リテ家族ト爲リタル者ニ非スシテ民法施行法第六十二條ニ依ル家族ナレハ家督相續ノ順位ヲ定ムルニハ民法第九百七十二條ノ適用アルコトナク一ニ同第九百七十條ヲ適用スヘキモノトス

（第九百七十三條）（聯）『第九百七十三條』

○相續開始前ニ於ケル相續人ノ地位ハ單純ナル希望ニ非スシテ權利ナリ

（第九百七十四條）（聯）『第九百七十四條』

○民法第九百七十四條第九百九十五條民法施行法第八十五條ニ所謂「相續人タルヘキ者カ其相續權ヲ失ヒタル場合」トハ相續人カ相續開始前ニ於テ或事情ニ因リ其相續人タル地位ヲ失ヒタル場合ヲ指稱スルモノトス

（聯）

○推定家督相續人又ハ推定遺產相續人カ相續權ヲ失ヒタル當時直系卑屬ナク其後ニ至リ直系卑屬現出シタルトキハ其直系卑屬ハ既ニ推定家督

同主旨判例七年一

相續人又ハ推定遺產相續人ノ直系卑屬ニ非サレハ承祖相續ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○民法第九百七十條及ヒ同第九百七十二條ノ規定ニ依リ家督相續人タルヘキ者カ相續開始前死亡其他ノ原因ニ因リ相續權ヲ失ヒタル場合ニ於テ其者ニ直系卑屬アルトキハ其直系卑屬ハ其者ト同順位ニ於テ家督相續人タルコトヲ得ヘキ旨ヲ定メタルモノナルカ故ニ代襲相續ノ場合ニ於テハ代襲者ハ被代襲者カ相續開始ノ時マテ相續權ヲ失ハサリシトキト相續上同一ノ地位ヲ得ルニ止マリ其相續權ヲ失ハサリシモノト假定シタルヨリ以上ノ利益ヲ享受スルコトヲ得サルモノトス

八

『第九百七十五條』（第九百七十五條）

○廢嫡ト民法第九百六十九條ニ因ル缺格ト異ナル所ハ後者ハ全然家督相續ヨリ除斥セラルルモノナルニ反シ前者ハ唯法定ノ推定家督相續人タル順位ヲ剝奪セラルルニ過キサルモノニシテ從テ被廢嫡者ハ其後家督相續人トシテ指定又ハ選定セラルルコトヲ妨ケサルモ廢嫡ノ效力ハ單ニ特定セル被相續人ニ對スル關係ニ於テノミ生スルモノニ非ス

九

○一旦廢嫡セラレタル者ハ其廢嫡ノ取消サレサル限リハ爾後ノ相續ニ於テ當然推定家督相續人タル資格ヲ得有シ相續權ヲ回復スルモノニ非ス

八

五〇七

一六八八

四二一

ト雖モ被廢嫡者ハ家督相續人トシテ指定又ハ選定セラルルコトヲ妨ケサルト同シク被廢嫡者ト後ノ戸主トノ間ニ養親子ノ身分關係ヲ生スルトキハ同時ニ法定ノ順位ニ從ヒ推定家督相續人タル資格ヲ得有シ新ニ相續權ヲ取得スルモノトス

九

○民法實施前ニ於テハ家督相續人ノ廢嫡ハ必スシモ被相續人ノ生存中ニ之ヲ爲スコトヲ絕對的ニ必要トスルモノニ非スシテ戸主死亡後嗣子幼年且病弱ニシテ家業ヲ承繼スルニ堪ヘサルカ如キ已ムヲ得サル事情アルトキハ當該官廳ニ廢嫡ノ許可ヲ出願スルコトヲ得タルモノトス

九

○甲カ死亡シ其戸籍內ニハ一ノ直系卑屬ナク傍系親トシテ甲ノ弟ナル乙一名存スル場合ニハ乙ニ於テ相續スヘキハ普通ノ順序ナレトモ一家ノ事情已ムヲ得サルモノアルトキハ官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ廢嫡スルコトヲ得タルモノトス

九

○一旦廢嫡セラレタル者ハ更ニ之ヲ家督相續人トシテ指定又ハ選定スルコトヲ妨ケスト雖モ被相續人ニ變更ヲ生シタルカ爲メ當然相續權ヲ回復スルモノニ非サレハ如上ノ場合ニ於テ甲死亡後祖父丙カ乙ヲ廢嫡シテ自ラ再相續ヲ爲シタルトキハ乙ハ丙ノ死亡シタルカ爲メ當然丙ノ相續人タルノ地位ニ在ルモノニ非ス（第九百七十條九年三三一頁參照）

九

三三一

三三一

三三一

（第九百七十六條）

『第九百七十六條』

○法定ノ推定家督相續人タリシ者カ被相續人ノ死亡ニ因リ戸主ト爲リタル以上ハ縱令前戸主ノ遺言ニ依リ遺言執行者カ推定家督相續人廢除請求ノ訴ヲ提起シタリトスルモ該訴ノ確定ニ至ルマテハ依然戸主タル身分ヲ喪失スルコトナク遺言執行者カ假處分命令ヲ以テ戸主權ノ行使ヲ禁止シタルト否トニ依リ影響ナキモノトス

（第九百七十七條）

『第九百七十七條』

○法定ノ推定家督相續人廢除ノ取消ハ被廢除者ヲシテ廢除ノ請求者タル被相續人ノ推定家督相續人タル地位ヲ回復セシムルヲ目的トスルモノナレハ被廢除者カ他日他ノ被相續人ノ推定家督相續人トナリ又ハ他ノ被相續人ノ相續人ニ指定若クハ選定セラルルニハ廢除ノ取消サレタルコトヲ必要トセサルモノトス

（第九百八十二條）

『第九百八十二條』

○絶家ノ場合ニハ戸主權ヲ承繼スル家督相續ナルモノナケレハ其場合ニ家督相續人ヲ選定スルコトハ法律上不可能ナリトス

○相續人曠缺ノ場合ニ關スル民法ノ規定ハ絶家シタル場合ニ家督相續人ヲ選定スルコトヲ得ルヤ否ニハ沒交渉ナリトス

一〇　八三

九　五二四

八　一八〇一

八　一八〇一

（第九百八十三條）

○民法第九百八十二條第四號ニ該當スル配偶者ハ被相續人ノ父又ハ母ヨリ家督相續人ニ選定セラルヘキ期待權ヲ有スルニ過キサルヲ以テ未タ家督相續人ニ選定セラレサルニ先チ其家ノ家督ヲ相續セサルコトヲ父又ハ母ニ對シテ約スルハ同第九十條ニ該當スル契約ニ非ス

『第九百八十三條』

○民法第九百八十三條ニ所謂正當ナル事由アル場合トハ親族會カ家督相續人ヲ選定スルニ當リ因テ以テ不選定ノ決議ヲ爲スニ至レル理由ノ正當ナルトキハ勿論決議ノ理由ハ不當ナルモ他ニ之ヲ支持スルニ足ル正當ノ理由ノ存スル場合ヲ指稱スルモノトス

○原裁判所カ甲ハ家督相續人トシテ家名ヲ維持シ家政ヲ整理スルニ付キ乙ヨリモ遙ニ適當ナル旨ヲ判示シタルハ乙ヲ家督相續人ニ選定セサル正當ノ事由アルコトヲ判示シタルニ外ナラサルモノトス

○親族會カ法定又ハ指定ノ家督相續人ナク且其家ニ被相續人ノ父母在ラサルカ爲メ家督相續人ヲ選定シタル決議ハ民法第九百五十一條ノ規定ニ依ル不服ノ訴ヲ以テ取消サレサル以上ハ縱令同第九百八十三條及ヒ同第九百八十五條第三項ニ違背スルモ其效力ヲ有セサルモノニ非ス

○民法第九百八十三條及ヒ同第九百八十五條第三項ニ規定セル許可ノ裁

九　三八八

八　二〇五

八　二〇五

八　一六五五

○判ニ對スル抗告ハ親族會ノ決議カ同第九百五十一條ニ規定セル期間ノ徒過ニ依リ不服ノ訴ヲ提起スルコトヲ得サルニ至リタルトキハ全然法律上ノ利益ナキニ歸スルモノトス　八　一六九…

○被相續人甲ハ法定又ハ指定ノ相續人ナクシテ死亡シ其家族中ニ於テ之カ選定ヲ受クヘキ者ハ同人ノ妻乙ノミナルモ甲ハ其生前實姉丙ト丙ノ夫丁間ニ生レタル三男戊ヲ養子ト爲シ之ニ家督相續ヲ爲サシムル意思ヲ有シ既ニ丙等ノ承諾ヲ得乙ニ於テモ亦之ニ同意シ養子緣組届出手續ヲ爲サントシテ其準備中死亡シ又乙ハ甲生存中之ト同棲スルコト僅ニ二年餘ニ過キスシテ同家ノ爲メ功勞ヲ積ミタルモノトモ認メ難ク殊ニ當年尙ホ壯齡ニシテ一旦戸主ト爲ルモ他日入夫婚姻ヲ爲スカ如キコトアリテ甲ノ遺志ニ適セサル結果ヲ生スル虞ナキヲ保シ難キ場合ニ在リテハ此際戊ヲ家督相續人ト爲ス方法トシテ先ツ以テ乙ニ對スル選定不許可ノ手段ヲ執ルコトハ寧ロ被相續人甲ノ遺志ニ適合スル處置ニシテ此等ノ事情ハ家督相續人ノ選定ヲ爲サヽルニ付キ民法第九百八十三條ノ正當ノ事由アルモノニ該當スルモノトス　一〇　一九九七

（第九百八十四條）

『第九百八十四條』

○家督相續權ノ有無ハ家督相續開始ノ時ニ確定スルモノナレハ法定又ハ指定ノ家督相續人ナキ場合ニ於テ其家ニ被相續人ノ母及ヒ姉アルニ過キサルトキハ被相續人ノ母ハ被相續人ノ姉カ民法第九百八十二條ニ依リ選定ノ家督相續人ト爲ラサル限リハ同第九百八十四條ノ規定ニ依リ當然家督相續人ト爲ルモノトス　八　一八四一

○被相續人ノ姉カ民法第九百八十二條ニ依リ家督相續人ニ選定セラルル以前ニ死亡シタルトキハ被相續人ノ母ハ同第九百八十四條ニ依リ當然家督相續人ト爲ルモノニシテ此關係ニ基ク相續ハ他家ニ養子ト爲リタル被相續人ノ妹カ離緣ニ因リ家督相續開始後右姉ノ死亡前ニ復籍シタル事實ニ依リ妨ケラルヘキモノニ非ス　八　一八四一

（第九百八十五條）同主旨判例四年七四一頁

『第九百八十五條』

○他家ノ戸主ハ之ヲ家督相續人ニ選定スルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス　一〇　一七二〇

○親族會カ他家ノ戸主ヲ家督相續人ニ選定シタル場合ニ於テハ被選定者カ他家ノ戸主タル地位ヲ脫却スル迄ハ選定ノ效力發生セサルモノト謂ハサルヘカラス　一〇　一七二〇

○親族會カ法定又ハ指定ノ家督相續人ナク且其家ニ被相續人ノ父母在ラサルカ爲メ家督相續人ヲ選定シタル決議ハ民法第九百五十一條ノ規定

ニ依ル不服ノ訴ヲ以テ取消サレサル以上ハ縱令同第九百八十三條及ヒ同第九百八十五條第三項ニ違背スルモ其效力ヲ有セサルモノニ非ス　八　一六五九

○民法第九百八十三條第三項ニ規定セル許可ノ裁判ニ對スル抗告ハ親族會ノ決議カ同第九百五十一條ニ規定セル期間ノ徒過ニ依リ不服ノ訴ヲ提起スルコトヲ得サルニ至リタルトキハ全然法律上ノ利益ナキニ歸スルモノトス　八　一六五五

第三節　家督相續ノ效力

『第九百八十六條』

（第九百八十六條）同主旨判例二年九一〇頁

○精神上ノ苦痛ニ對シ金錢ノ賠償ヲ以テ其心神ヲ慰藉スルヲ得ヘキヤ否ヤハ專ラ被害者其人ノ決定スヘキモノナレハ其請求權ハ被害者ノ死亡ト共ニ消滅シ相續人ト雖モ之ヲ承繼シ得サルヲ原則トスルモ被害者カ加害者ニ對シ慰藉金請求ノ意思ヲ表示シタル以上ハ該請求權ハ金錢ノ給付ヲ目的トスルモノナレハ移轉性ヲ有スルニ至ルモノトス　八　九六三

○家督相續人ハ前戸主ノ一身ニ專屬セル權利義務又ハ隱居者カ確定日附アル證書ニ依リテ特ニ留保シタル財產ヲ除クノ外前戸主ノ有シタル一切ノ權利義務ヲ承繼スルモノトス　八　九九一

『第九百八十七條』

（第九百八十七條）

○民法第九百八十七條ハ被相續人ニ屬シタル系譜祭具及ヒ墳墓ノ所有權カ家督相續人ニ當然移轉スヘク遺贈ノ目的ト爲ラサルコトヲ定メタルニ過キサルヲ以テ同條ノ規定ヲ援テ以テ家族ノ遺骨カ戸主ノ所有ニ屬シ若クハ戸主ノ管理ニ屬スルモノト解スルヲ得サルモノトス　一〇　一四〇八

『第九百八十八條』

（第九百八十八條）同主旨判例四年八七三頁

○民法施行前隱居ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ隱居者カ家名ノ維持ニ必要ナル財產ヲ遺留セス全部ノ財產ヲ留保シタル場合ニ於テモ其留保ハ全部無效ト爲ルニ非スシテ家名維持ニ必要ナルヲ限度トシ家督相續人ノ減殺請求權ニ服セシメタルニ過キサルモノトス　八　一九四四

第二章　遺產相續

第一節　總則

『第九百九十三條』

（第九百九十三條）同主旨判例五年二六七頁

○遺產相續回復ノ請求ハ遺產相續人タルコトヲ主張シテ相續財產ノ回復ヲ求ムモノニシテ其財產中ニハ債權アリ物權アリ或ハ其他ノ財產權アルヘシト雖モ此等ノ權利ヲ必スシモ箇箇ニ行使スルコトヲ要セスシテ包括的ニ行使スルコトヲ得ルモノナレハ其請求ノ訴訟ニ於テモ訴訟ノ

目的物トシテ遺産相續ノ目的タル財産ヲ必スシモ一一列擧スルコトヲ要セサルモノトス

第二節　遺産相續人

（聯）○相續人カ嘗テ相續權ヲ有シタルヤ否ハ相續開始前ニ存シタル狀態ニ據リ其當時ノ法律ニ依リテ之ヲ判斷スヘキモノトス

（第九百九十四條）

『第九百九十四條』

（聯）○民法施行前ニ在リテハ家族ノ財産ハ被相續人ト家ヲ同フスル直系卑族ニ於テ相續スヘキモノニシテ他家ニ在ル者ハ之ヲ相續スルコトヲ得サリシモノトス

同主旨判例五年二四八四頁

○家督相續人選定ノ爲メニ招集セラレタル親族會ハ其目的事項ノ決議ヲ終ラサル間ハ縱令親族會招集決定ニ定メタル日時カ經過スルモ尙ホ存續シ其後隨時開會決議ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ更ニ裁判所ノ招集手續ヲ必要トスルモノニ非ス

同主旨判例四年一八三四頁

（第九百九十五條）

『第九百九十五條』

（聯）○民法第九百七十四條第九百九十五條民法施行法第八十五條ニ所謂「相續人タルヘキ者カ其相續權ヲ失ヒタル場合」トハ相續人カ相續開始前ニ於テ或事情ニ因リ其相續人タル地位ヲ失ヒタル場合ヲ指稱スルモノトス

（聯）○推定家督相續人又ハ推定遺産相續人カ相續權ヲ失ヒタル當時直系卑屬ナク其後ニ至リ直系卑屬現出シタルトキハ其直系卑屬ハ既ニ推定家督相續人又ハ推定遺産相續人ノ直系卑屬ニ非サレハ承祖相續ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

同主旨判例六年一一一頁

（聯）○民法施行前他家ニ在リタルカ爲メ推定遺産相續人タルコトヲ得スシテ死亡シタル者ノ直系卑族ハ民法施行後遺産相續開始スルモ承祖相續ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第三節　遺産相續ノ效力

第一款　總則

（第千一條）

『第千一條』

○遺骨ハ有體物トシテ所有權ノ目的ト爲ルコトヲ得ヘキヲ以テ家族ノ遺骨ハ其遺産相續人ノ所有ニ歸シ其遺産相續人ニ於テ之カ管理ヲ爲ス權利アルモノト解スル相當トス

同主旨判例三年一〇九三頁

○被相續人カ死亡ノ當時權利ノミヲ有シタル場合ハ勿論義務ノミヲ負擔シタル場合ト雖モ苟モ財産權上ノ關係ニ屬スルモノナル以上ハ相續人ニ於テ遺産相續權ヲ拋棄シ又ハ限定承認ノ意思表示ヲ爲ササル限リ總

テ之ヲ承繼スヘキモノトス

第二款　相續分

（第千十七條）

『第千十七條』

○民法第千十七條ノ三个月ノ期間ハ他家ソ戸主ヲ家督相續人ニ選定シタル場合ニ於テハ被選定者カ戸主ノ地位ヲ脫却シ選定ノ效力ヲ生シタル時ヨリ起算スヘキモノト解スルヲ相當トス　一〇　一七二〇

第三章　相續ノ承認及ヒ抛棄

第一節　總則

（第千二十二條）

『第千二十二條』

○相續人カ民法第千二十四條第二號ノ規定ニヨリ單純承認ヲ爲シタルモノト看做サレタル場合ニ其者カ未成年者ニシテ其後見人カ單純承認ニ關シ親族會ノ同意ヲ得サリシトキハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノトス　一〇　一七六五

○如上ノ場合ニ於テ相續人ハ更ニ單純若クハ限定承認又ハ抛棄ノ意思ヲ表示シ得ヘク之カ意思表示ヲ爲ス期間ニ付キテハ民法ニ規定スル所ナキモ同法カ第千十七條第千二十二條第千二十四條ニ於テ相續人ノ爲スヘキ承認抛棄又ハ其取消ニ付キ夫夫一定ノ期間ヲ定メタル律意ニ鑑ミ承認又ハ抛棄ノ意思表示ハ取消後遲滯ナク爲サシムル旨趣ナリト解スルヲ相當トス　一〇　一七六九

第二節　承認

第一款　單純承認

（第千二十四條）

『第千二十四條』

○民法第千二十四條第一號ノ規定ハ相續人ニ代リテ同號前段所定ノ處分ヲ爲シタル相續人ノ親權者カ其實父タル場合ニ限ラス其繼父繼母又嫡母タル場合ト雖モ之ヲ適用スヘキモノト解スルヲ相當トス　九　二〇四三

○他家ノ戸主ヲ家督相續人ニ選定シタル場合ニ於テ其被選定者カ該選定ノ決議アルヲ知リタルニ拘ラス遲滯ナク戸主ノ地位ヲ脫却スルノ手續ヲ爲ササルトキハ相續人タルコトヲ欲セサルノ意思ヲ有スルモノト推測スルコトヲ得ヘキ場合ナキニ非サルヲ以テ若シ被選定者カ斯ル意思ヲ有スルコトヲ認メ得ルトキハ親族會ノ選定決議ハ實行不能トナリ其效力ヲ失ヒタルモノト謂ハサルヲ得サルモノトス　一〇　一七二〇

第三節　抛棄

（第千三十八條）同主旨判

『第千三十八條』

○遺産相續ノ抛棄ト遺産相續ニ依リ取得シタル權利ノ抛棄トハ全ク其觀

念ヲ異ニスルモノナレハ後者ノ場合ニ於テハ民法第千三十八條ノ手續ヲ履踐スルコトヲ必要トセス（例五年二五二四頁）

第五章　相續人ノ曠缺

○相續人曠缺ノ場合ニ關スル民法ノ規定ハ絶家シタル場合ニ家督相續人ヲ選定スルコトヲ得ルヤ否ニハ沒交渉ナリトス

『第千五十九條』（第千五十九條）

○舊幕時代ニ於ケル土地ニ付キテハ庶民ニ對シ完全ナル所有權ヲ享有セシメスシテ一種ノ制限的所有權ヲ認メタルニ過キサリシヲ以テ其當時斯ノ如キ土地所有權ヲ遺留シテ死亡シタル單身戸主ノ相續人ナキ場合ニ於テ之ニ付キ利害ノ關係ヲ有スヘキ受遺者親族債權者等ノ絶無ナルトキハ其遺留シタル土地ノ所有權ハ當然完全ニ國庫ニ歸屬スルモノト看做サレシモノニシテ當局者ノ處分ノ有無ニ拘ハラサリシモノトス

○如上ノ場合ニ於テ單身戸主死亡後其相續人ナカリシ爲メ遺留シタル土地カ國庫ニ歸屬シタルモノト看做スニハ之ニ付キ利害ノ關係ヲ有スヘキ受遺者親族債權者等ノ絶無ナリシヤ否ヤヲ判定セサルヘカラサルモノトス

九　一三〇七
八　一八〇一
一〇　四二二
一〇　四二三

第六章　遺言

第二節　遺言ノ方式

第一款　普通方式

『第千六十九條』（第千六十九條）

○遺贈ノ場合ニ於テ遺言者ハ遺贈物件表示ノ覺書ヲ朗讀シテ之ヲ口授シ得ヘキハ勿論民法ハ其口授ノ限度ニ關シ何等規定スル所ナケレハ苟モ其物件ヲ特定シ得ヘキ程度ニ於テ遺言ノ旨趣ヲ口授スルト共ニ之カ朗讀ヲ省畧シ其覺書ヲ公證人ニ交付シテ之ニ基キ物件ノ詳細ナル記載ヲ爲スヘキコトヲ委囑スルモ之ヲ以テ遺言ノ旨趣ヲ口授セサルモノト謂フヲ得サルモノトス

第三節　遺言ノ效力

『第千八十七條』（第千八十七條）

○債權ノ遺贈ハ遺言者死亡ノ時ヨリ債權移轉ノ效力ヲ生シ受遺者ノ遺贈承認ニ因リ其效力確定スルモノニシテ受遺者ヲシテ債權ヲ取得セシムルカ爲メニ遺言執行者カ債權讓渡ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要セサルモノトス

八　一二八七
一〇　九八三

（第千八十九條）

『第千八十九條』

○債權ノ遺贈ハ遺言者死亡ノ時ヨリ債權移轉ノ效力ヲ生シ受遺者ノ遺贈承認ニ因リ其效力確定スルモノニシテ受遺者ヲシテ債權ヲ取得セシムルカ爲メニ遺言執行者カ債權讓渡ノ意思表示ヲ爲スコトヲ要セサルモノトス

商法

商法

第一編　總則

第一章　法例

（第一條）

『第一條』

○合名會社ノ代表社員カ個人タル自己ニ宛テ約束手形ヲ振出シタルトキハ其代理關係ニ付テハ商法第百七十六條ノ如キ特別規定ナキカ故ニ商法第一條ニヨリ民法第百八條ヲ適用スヘク從テ右手形ハ代理權限ナキ者ノ振出シタル無效ノモノニシテ本人タル會社カ其追認ヲ爲スニ非サレハ本人ニ對シテ其效力ヲ生セス唯代理人ニ於テ其責ニ任スヘキノミナリ

○該手形カ會社ノ代表社員ヨリ個人其人ニ宛テ振出サレタルコトハ手形面ノ記載上明白ニシテ所持人ニ於テ之ヲ知了セサルヘカラサル關係ニ在ルモノナレハ所持人ハ本人タル會社ニ對シテ手形債權ヲ取得スルモノニ非ス

（第三條）同主旨判例二年四四四頁

『第三條』

○商法第三條ハ當事者ノ一方ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ付テハ相手方ニ對シテモ亦商法ノ規定ヲ適用スヘキ旨ヲ定メタルニ止マリ當事者ノ一方カ數人アル場合ニ其中一人ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ付キ當事者ノ全員ニ對シテ商法ノ規定ヲ適用スルノ旨趣ニ非ス

八　一九〇五

第二章　商人

（第四條）

『第四條』

○商法第四條ニ自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲ストハ自己カ法律上商行爲ヨリ生スル權利義務ノ主體ト爲ルヲ謂フモノニシテ營業者トシテ行政官廳ニ届出アルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス

八　八七五

第四章　商號

（第二十條）同主旨判例七年一六一頁

『第二十條』

○商人ニ對シ登記ニ依リ其商號ノ專用權ヲ附與スル所以ハ他人カ同一又ハ類似ノ商號ヲ使用スルコトニ依リ商號ノ混同誤認ヲ生センコトヲ防止スヘキ權利ヲ與ヘ取引市場ニ於ケル商人ノ地位ヲ保護セントスルニ外ナラサレハ二箇ノ商號カ果シテ相類似セルヤ否ハ取引上世人ヲシテ混同誤認ヲ生セシムル虞アルヤ否ヲ標準トシテ之ヲ判斷スヘキモノトス

九　七四九

同主旨判例七年一六一頁

○商號ノ類似セルヤ否ハ商號自體ニ付キ觀察スルコトヲ要スルハ勿論ナルモ必スシモ常ニ商號全體ニ付キテノミ之ヲ觀察セサルヘカラサルモノニ非スシテ寧ロ商號ノ主要部分カ何レニ存スルヤヲ見テ決スヘキモノトス

九　七四五

同主旨判例七年一六一頁

○如上ノ場合ニ於テ商號ニ使用セル文字ノ多數カ彼此相異ナル場合ト雖モ取引市場ニ於テ世人カ却テ少數ナル主要部分ヲ以テ當該商人ノ畧稱又ハ通稱トシテ之ヲ呼唱シ其主要部分ノミノ同一又ハ類似セルカ爲メニ世人ヲシテ商號ノ混同誤認ヲ生セシムル虞アル場合ニ於テハ之レ亦商號ノ相類似セルモノトスルコトヲ妨ケサルモノトス

九　七四五

○商人ハ未登記ノ商號ニ付キテモ法律上之カ使用權ヲ有スルヲ以テ之カ行使ニ關シ他人ヲシテ妨害ヲ加ヘサラシメンカ爲メニ他人ト約シ同市町村内ニ於テ同一營業ノ爲メニ同一商號ヲ使用セサル不作爲ノ義務ヲ負擔セシムルコトヲ得ヘク從テ其約ニ違反シ同一商號ヲ使用シ之カ登記ヲ爲シタル者ニ對シテハ之カ抹消ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

一〇　二〇八五

第六章　商業使用人

（第三十條）

『第三十條』

○支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有シ其代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルヲ得サルカ故ニ支配人カ主人ノ爲メニ其營業ニ關シ手形ノ裏書ヲ爲スニ當リ主人ノ爲メニスルコトヲ記載シテ自己ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲スト將タ又直接ニ主人ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲ストハ當然其權限內ニ屬シ其行爲ハ手形行爲トシテ直接主人ニ對シ其效力ヲ生スルモノトス

○支配人ハ主人ニ代ハリテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スルモ人格又ハ身分ニ關スル行爲ハ營業ニ關スル行爲ニ包含スヘキモノニ非ス而シテ取締役ノ辭任ノ如キハ法人タル會社ノ代表機關ニ變更ヲ生セシムルモノニシテ自然人ノ人格又ハ身分ニ關スル行爲ト同視スヘキモノナレハ會社ノ支配人ハ其營業ニ關スル行爲トシテ取締役辭任ノ意思表示ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一〇　九　六〇六　一

第二編　會社

第一章　總則

（第四十四條）

『第四十四條』

○生命保險會社ノ取締役カ他人ノ振出シタル約束手形ニ付キ手形法上ノ保證ヲ爲シタルトキハ其保證ハ保險事業ニ屬スル行爲ニ非スト雖モ其事業ノ遂行ニ必要ナル限リ會社權能ノ範圍ニ屬シ會社ノ保證トシテ有效ナルモノトス

○約束手形カ保證ヲ爲シタル取締役個人ノ資格ニ於テ振出サレタルトキハ其保證ハ當該保險事業ノ遂行ニ必要ナルモノニハ非スシテ寧ロ取締役個人ノ爲メニ爲サレタルモノト解スルヲ相當トス

○會社ハ其定款ニ定マリタル目的ノ範圍內ニ屬スル行爲ノミナラス其目的タル事業ヲ遂行スルニ必要ナル行爲ヲモ之ヲ爲ス能力ヲ有スルモノニシテ其目的タル事業ヲ遂行スルニ必要ナル行爲ナルヤ否ヤハ各場合ニ付キ判定スヘキ事實問題タルヘク會社カ或株主ニ其帳簿書類ヲ閱覽セシムルコトヲ約スルカ如キハ會社ノ目的タル事業ヲ遂行スルニ必要

一〇　一〇〇　一〇　一〇〇

ナルモノト謂ヒ得ヘク其閲覧ニ供スヘキ帳簿書類ハ必スシモ商法所定ノモノニ限ルヘキニ非サルモノトス

（第四十四條ノ三）

『第四十四條ノ三』

○取締役ノ爲シタル會社合併ノ豫約ハ縱令株主總會ニ於テ該豫約ヲ承認シタリト雖モ其承認ニ基キ相手方ニ對シテ追認ヲ爲ササル以上ハ該豫約ハ會社ニ對シ何等ノ效力ヲ生セサルモノトス

第二章　合名會社

第一節　設立

（第五十三條）

『第五十三條』

○資本增加ノ登記及ヒ取締役監査役ノ改選登記ヲ申請スル者ハ取締役ノ委任狀ヲ明確ナラシメ又監査役ノ人違ナキヲ證スル爲メ印鑑證明書ヲ提出セサルヘカラサルモノナレハ資本增加取締役監査役選任ノ決議アリタル日ヨリ二週間內ニ取締役ノ印章明確ナル委任狀及監査役ノ印鑑證明書ヲ添附シタル完全ナル登記申請書ヲ提出セサリシ以上ハ商法第百四十一條第二項第五十三條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタル者ト謂フモノトス

一〇　一八六一
九　八六三
九　二二〇九

○民事訴訟法第百六十七條ハ訴訟手續ニ付キ法律上定メタル期間ニ關スル規定ニシテ商法ニ其準用ナキヲ以テ商法第五十三條ニ定メタル二週間ノ期間ニハ民事訴訟法第百六十七條ニ定メタル猶豫期間ナキモノト解スルヲ相當トス

○商法第百四十一條第一項ニ株式會社カ登記スルヲ要スル事項ノ一トシテ「取締役及ヒ監査役ノ氏名住所」ヲ擧ケ同條第二項同第五十三條ヲ以テ右事項ニ變更ヲ生シタルトキハ更ニ其登記ヲ爲スヲ要スル旨規定シタルハ畢竟取締役監査役ノ選任解任ニ付キテハ其登記ヲ爲スヘク而シテ其選任解任ハ同法ノ規定ニ基キ適法ニ爲サレタル場合ヲ指稱スルモノニ外ナラス從テ假處分命令ニ基キ從來ノ取締役及ヒ監査役ヲ取締役職務假執行者及ヒ監査役職務假執行者ニ變更スル旨ノ登記ノ如キハ之ヲ許スヘカラサルモノトス

○商法第百四十一條第五十三條ノ登記期間ノ計算法ニ關シテ商法中他ニ別段ノ定ナク又商慣習法モ存セサルヲ以テ同法第一條ニ依リ民法ヲ適用スヘキモノニシテ會社ノ取締役變更ノ場合ニ於テ其登記ヲ爲スニ付テ全期間ノ利益ヲ享ケシメサル特別ノ理由アルニ非サレハ民法第百四十條第百四十二條ニ從ヒ選任ノ決議アリタル日ヲ二週間ニ算入セス又

九　二二〇九
一〇　一四三五

二週間ノ末日カ日曜日ニ當タルトキハ其翌日ヲ以テ期間ノ滿了スルモノト解スルヲ相當トス　一〇

第六節　清算

（第八十八條）

『第八十八條』　一五五六

○合名會社社員ノ債權者ハ清算ノ正當ニ行ハルルコトヲ期スル爲メ社員ト等シク清算人ノ選任ヲ申請スル利益ヲ有スルモノナレハ商法第八十八條ニ所謂利害關係人ノ中ニハ社員ノ債權者ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス　八

○合資會社ノ有限責任社員ノ全員及ヒ無限責任社員中ノ或者カ退社シ無限責任社員一人ト爲リ又ハ無限責任社員ノ全員及ヒ有限責任社員中ノ或者カ退社シテ有限責任社員一人ト爲リタルトキハ利害關係人ヲシテ清算人ノ選任ヲ裁判所ニ申請セシムルノ必要アルコトニ付テハ合名會社カ社員一人ト爲リテ解散シタル場合ト軒輊スル所ナケレハ商法第八十八條ハ合資會社ニ準用セラレ殘存社員ノ債權者モ利害關係人トシテ清算人ノ選任ヲ申請スルコトヲ得ルモノト解釋スヘキモノトス　九九七

第三章　合資會社

○合資會社ノ有限責任社員ノ全員及ヒ無限責任社員中ノ或者カ退社シ無限責任社員一人ト爲リ又ハ無限責任社員ノ全員及ヒ有限責任社員中ノ或者カ退社シテ有限責任社員一人ト爲リタルトキハ利害關係人ヲシテ清算人ノ選任ヲ裁判所ニ申請セシムルノ必要アルコトニ付テハ合名會社カ社員一人ト爲リテ解散シタル場合ト軒輊スル所ナケレハ商法第八十八條ハ合資會社ニ準用セラレ殘存社員ノ債權者モ利害關係人トシテ清算人ノ選任ヲ申請スルコトヲ得ルモノト解釋スヘキモノトス　八　九九七

（第百五條）

『第百五條』

（刑）○定款作成者カ眞實合資會社ヲ設立スルノ意思ナク唯外形上設立シタルカ如ク裝ハンカ爲メ定款ヲ作成シタルトキ雖モ其定款作成ハ合資會社設立行爲タルノ效力ヲ有シ合資會社ハ之ニ依リテ成立スルモノトス　八　三一九

○商法第六十二條及第百五條ニ依リ合資會社ニ準用シタル民法第四十四條第一項ノ規定ハ法人ノ代表機關タル理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル不法行爲上ノ損害ニ對シ法人自ラ其責ニ任スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ代表機關ノ不法行爲ノ效果カ代理ノ法則ニ依リ法人ニ歸屬スヘキコトヲ定メタルニ非サルハ勿論同條ハ代表機關ノ選任シタル代理人ノ不法行爲ヲ包含スルモノニ非サルノミナ

ラス又其代理人ノ不法行爲ノ效果カ代理ノ法則ニ依リ代表機關ノ不法行爲ト爲ルコトニ依リ其責ノ法人ニ歸スヘキ特例ヲ定メタルモノニ非サルモノトス

第四章　株式會社

（刑）○株式會社ノ設立カ當初ヨリ無效ナリトスルモ既ニ其設立ヲ登記シ事業ニ著手シ得ヘキ狀態ニ在ル以上ハ該會社ハ形式的ニ存在スルヲ以テ仍ホ人格ヲ保有スルモノトス　九

第一節　設立

（第百二十四條）

『第百二十四條』

○商法第百二十四條第一項ニ依ル檢査役選任ノ決定ニ對シテハ非訟事件手續法中即時抗告ヲ爲シ得ル旨ノ規定ナケレハ裁判所カ其裁判ヲ不當ト認メタルトキハ非訟事件手續法第十九條第一項ニ依リ何時ニテモ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ヘキモノトス　八　一〇五三

（第百二十七條）

『第百二十七條』

○株式ノ拂込ハ定款ニ別段ノ定ナキ限リ金錢ヲ以テ之ヲ爲スヘキモノニシテ小切手ハ法律上之ヲ金錢ト同視スヘキモノニ非サレハ小切手カ株式ノ拂込トシテ授受セラレタル場合ニ於テハ其小切手ノ支拂ナキ限リ株式ノ拂込ハ完了シタルモノト謂フヲ得サルモノトス　八　一五二

○小切手ニ對スル資金カ既ニ支拂人ニ送付セラレタルト所謂支拂保證ノ文言カ小切手面ニ記載セラレタルト將タ小切手ノ所持人カ第三者トノ特約ニ依リ之ヲ金錢ト看做シテ其第三者ニ交付シタル事實アルト否トハ株式拂込ノ成否如何ニ何等ノ影響ヲモ及ホササルモノトス　八　一三六〇

（第百四十一條）

『第百四十一條』

○商法第百二十條第七號及ヒ同第百四十一條ニ於テ株式會社ヲシテ其定款ニ會社ノ公告ヲ爲ス方法ヲ定メシメ且之ヲ登記スヘキモノト爲シタルハ株主又ハ第三者ヲシテ會社ノ爲ス公告事項ヲ容易ニ知得セシメ因テ其利益ヲ保護セシメンカ爲メニ外ナラサレハ其方法ハ必ス特定ノモノトシ取締役等理事者ヲシテ臨機他ノ方法ヲ選擇スルヲ得セシメサル法意ナリトス　八　一四八四

○公告ヲ爲ス方法トシテ本店所在地ニ於テ發行スル一種又ハ數種ノ新聞紙ト爲スカ如キハ其新聞紙ノ如何ナルモノナルカヲ特定セサルヲ以テ取締役ハ臨機隨意ニ公告新聞紙ヲ變更スルヲ得ルコトト爲リ株主其他第三者ヲシテ適從スル所ヲ知ルニ苦シマシムルノ不都合アルカ故ニ未

タ以テ會社ノ公告ノ方法ヲ定メタルモノト謂フヲ得サルモノトス　八　一四八九

○資本增加ノ登記及ヒ取締役監査役ノ改選登記ヲ申請スル者ハ取締役ノ委任狀ヲ明確ナラシメ又監査役ノ人達ナキヲ證スル爲メ印鑑證明書ヲ提出セサルヘカラサルモノナレハ資本增加取締役監査役選任ノ決議アリタル日ヨリ二週間內ニ取締役ノ印章明確ナル委任狀及監査役ノ印鑑證明書ヲ添附シタル完全ナル登記申請書ヲ提出セサリシ以上ハ商法第百四十一條第二項第五十三條ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リタル者ト謂ハサルヲ得ス　九　二三〇九

○商法第百四十一條第一項ニ株式會社カ登記スルヲ要スル事項ノ一トシテ「取締役及ヒ監査役ノ氏名住所」ヲ擧ケ同條第二項同第五十三條ヲ以テ右事項ニ變更ヲ生シタルトキハ更ニ其登記ヲ爲スヲ要スル旨規定シタルハ畢竟取締役監査役ノ選任解任ニ付キテハ其登記ヲ爲スヘク而シテ其選任解任ハ同法ノ規定ニ基キ適法ニ爲サレタル場合ヲ指稱スルモノニ外ナラス從テ假處分命令ニ基キ從來ノ取締役及ヒ監査役ヲ取締役職務假執行者及ヒ監査役職務假執行者ニ變更スル旨ノ登記ノ如キハ之ヲ許スヘカラサルモノトス　一〇　一四三五

○商法第百四十一條第五十三條ノ登記期間ノ計算法ニ關シテ商法中他ニ別段ノ定ナク又商慣習法モ存セサルヲ以テ同法第一條ニ依リ民法ヲ適用スヘキモノニシテ會社ノ取締役變更ノ場合ニ於テ其登記ヲ爲スニ付テ全期間ノ利益ヲ享ケシメサル特別ノ理由アルニ非サレハ民法第百四十條第百四十二條ニ從ヒ選任ノ決議アリタル日ヲ二週間ニ算入セス又二週間ノ末日カ日曜日ニ當タルトキハ其翌日ヲ以テ期間ノ滿了スルモノト解スルヲ相當トス　一〇　一五五六

○株主總會ノ決議ニ付キ之ヲ無效トスル判決アリタル以上ハ其決議ニ依リ取締役ニ選任セラレタル者ハ當初ヨリ取締役タル資格ヲ取得セサリシモノト謂フヘク從テ其者カ取締役トシテ爲シタル商業登記ハ不適法ナリトス　一〇　一八三〇

○株式會社監査役ノ住所變更ノ登記申請書ニハ非訟事件手續法第百四十九條第二項所定ノ事項ヲ記載スルヲ以テ足リ監査役ノ戶籍謄本ヲ添附スルヲ要セサルモノトス　一〇　二一一三

第二節　株式

同主旨判例五年二四七頁

○利益配當ニ關スル株主總會ノ決議以前ニ於ケル株主權ノ一內容タル利益配當請求權ハ獨立シタル一箇ノ權利ニ非サレハ之ヲ株主權ヨリ分離シテ讓渡スルコトヲ得サルモノトス　八　三〇

（刑）○株主ハ自己ノ株主權ヲ表彰スル株券ヲ保有スル權利ヲ有シ自己ノ意思又ハ法律ノ規定ニ依ルニ非サレハ其權利ヲ喪失スヘキ謂ハレナケレハ

○正當ノ權利ナクシテ之ヲ占有スル者ニ對シ之カ返還ヲ請求スル權利アルモノトス　八　四八九

○白紙委任狀附株式ノ賣買ハ買主又ハ轉得者カ隨時其委任狀ヲ使用スレハ故障ナク株式ノ名義書換ヲ爲シ得ヘキコトヲ豫期シ之ニ依リテ其完全ナル權利移轉ノ目的ヲ達セント欲スル當事者其通ノ意思ヲ以テ行ハルルヲ普通トス　八　七四七

○賣買ノ株券ニ添附セル白紙委任狀ノ株式名義人名下ノ印影カ其名義人ヨリ豫テ當該株式會社ニ届出テタル印鑑ト相違スルカ爲メ其名義書換ノ請求ヲ拒絶セラレタル場合ニ於テハ特別ノ事由ナキ限リ賣主ハ未タ其完全ナル權利移轉ノ義務ヲ盡ササルモノナルヲ以テ買主ニ對シ更ニ株式名義ヲ故障ナク書換ヲ爲スコトヲ得ヘキ白紙委任狀ヲ交付スルカ又ハ他ノ方法ヲ以テ其權利移轉ヲ完全ニスル義務アルモノトス　八　七四七

○白紙委任狀附ノ株式賣買ハ畢竟記名株式ノ讓渡ヲ目的トスルモノニ外ナラスシテ之ニ白紙委任狀ヲ添附スルハ隨時其白紙委任狀ヲ利用シテ名義書換ヲ爲スコトヲ得ルノ便宜ニ供センカ爲メニ過キサレハ其白紙委任狀ハ株式賣買ノ目的物中ニ包含スルモノニ非ス　八　七四七

○株式會社ノ清算人カ清算結了ノ登記ヲ爲スモ之ニ由リ會社ハ必スシモ直ニ消滅スルモノニ非スシテ殘餘財產尙ホ存在スルニ於テハ其間ハ會社ハ依然存續ス從テ會社ノ消滅ニ由ル株式ノ消滅ヲ來スモノニ非ス　八　二二九一

○新株ノ引受人カ新株券發行以前ニ於テ第一回株金拂込領收證ニ白紙委任狀ヲ添附スルトキハ白紙委任狀附記名株券ト同樣ニ看做サレ輾轉流通シ得ル慣習ハ公ノ秩序善良ノ風俗ニ反スルモノニ非サルカ故ニ有效ナリト謂ハサルヘカラス　九　五〇九

○株券ニ添附セラレタル名義書換ノ白紙委任狀ニ委任事項ヲ記入スルニ當リ脫字ヲ挿入シタルカ爲メ株式名義人ノ捺印ヲ要スル場合ニ株式名義人カ之ニ捺印スルコトハ名義書換ヲ爲スニ必要ナル行爲ニシテ株式ノ一般取得者ニ對シ名義書換ノ手續ヲ爲スヘキ義務アル株式名義人ノ爲スヘキ當然ノ義務ニ屬シ此義務ノ不履行ハ書換手續ヲ爲スヘキ義務ノ不履行ニ外ナラサルモノトス　一〇　一二三九

○白紙委任狀ニ記載スヘキ事項ハ本來株式名義人ニ於テ記載スヘキモノニシテ便宜上株式取得者ノ記入ニ任シタルモノナレハ委任狀ニ書損ヲ爲シタル者カ株式取得者タルノ故ヲ以テ株式名義人ハ捺印ノ義務ヲ免

カルヘキモノニ非サルモノトス

（第百四十四條）『第百四十四條』

○株主カ株式ヲ讓渡シタル場合ニ於テ其株主タル權利ハ讓渡契約ノ效力トシテ讓渡人ヨリ讓受人ニ移轉スルハ勿論ナリト雖モ株金拂込義務モ亦同時ニ之ニ因リ移轉スヘキモノニ非ス

○株金拂込義務ト雖モ普通ノ義務ト同シク其性質上義務者單獨ノ意思ニ依リテ之ヲ免ルルコトヲ得ルモノニ非サルヲ以テ株式讓渡人カ株金拂込義務ヲ免ルルニハ例ハ權利者タル會社ニ於テ之ヲ免除スルカ又ハ定款若クハ法律ノ規定ニ依リ其義務ヲ免除スルカ如キ特別ノ事由存スルコトヲ要スルモノトス

○株式讓受人ハ株主名簿ニ讓渡ヲ記載シタル時ヨリ原始的ニ株金拂込ノ義務ヲ負擔スルモノト解スルヲ相當トス

（第百四十七條）『第百四十七條』

○株式ノ移轉ニハ必ス株券ノ移轉ヲ伴フモノナルニ依リ株券ハ縱令記名式ノモノト雖モ之ヲ一箇ノ有價證券ト認ムルヲ相當トス

（第百四十九條）『第百四十九條』

○株券ヲ交付スルコトナク單ニ讓渡證及ヒ名義書換ノ爲メノ白紙委任狀ヲ交付シタルノミニテハ株式ノ有效ナル讓渡アリタルモノト認ムル慣習ナシト雖モ其讓渡ヲ以テ當然無效ト看做スヘキモノニ非ス

（第百五十條）『第百五十條』

○株主カ株式ヲ讓渡シ之ヲ株主名簿ニ記載シタルトキハ株金拂込ノ義務ヲ免レ單ニ商法第百五十三條第二項第三項ニ規定スル擔保的ノ義務ヲ負擔スルニ過キサルモノトス

○株金拂込ノ義務ヲ負擔スル者ハ必ス株主名簿ニ記載アル現在ノ株主ノミニシテ株式讓渡人ハ株金拂込ニ付キ既ニ催告ヲ受ケタル場合ナルト否トヲ問ハス其拂込ヲ爲ス義務ナキモノトス

（第百五十二條）『第百五十二條』

○會社カ株主ニ對シ商法第百五十二條第二項所定ノ期間ニ滿タサル株金拂込及ヒ失權ノ通知ヲ發シタル後株金拂込ニ關スル最終日ヲ訂正スル旨ノ通知ヲ發シタル場合ニ於テ後ノ通知書ニハ株金拂込ノ最終日ヲ訂正シタル旨ノ記載アルニ止マリ別ニ拂込及ヒ失權ノ通知文句ヲ掲ケサルトキト雖モ前ノ通知書ニ於ケル拂込及ヒ失權ノ通知文句代用ノ下ニ新ナル拂込期間ヲ以テ更ニ拂込及ヒ失權ノ通知ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トス

○商法第百五十二條ニ所謂株主トハ株金拂込催告當時株主名簿ニ株主トシテ記載セラレタル者ヲ指稱スルモノナレハ右株主ニ對シ適法ニ株金拂込ノ催告手續ヲ爲シタルトキハ之ニ依リ催告ノ效力ヲ生シ縱令其催告後ニ於テ株式ノ移轉アリ其取得者カ株主名簿ニ株主トシテ記載セラレタルトキト雖モ會社ハ新株主ニ對シ更ニ同種ノ催告手續ヲ爲スコトヲ必要トスルモノニ非ス

○株主名簿ニハ株主ノ氏名ヲ記載スルコトヲ要シ未成年ノ株主ニ付テモ必スシモ其法定代理人ノ氏名ヲ記載スヘキモノニ非ス而シテ會社ノ株主ニ對スル通知又ハ催告ハ株主名簿ニ記載シタル株主ノ住所又ハ其者カ會社ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足リ又其通知又ハ催告ハ通常到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做サルルヲ以テ商法第百五十二條ノ株金拂込ノ催告ニ付テモ會社カ株主名簿ニ記載シタル株主ニ對シ其住所ニ宛テ之ヲ爲シタル以上ハ其者カ意思能力ナキ未成年者タル場合ニ於テハ適法ノ代表者ニ依リテ受領セラルヘキモノナレハ其催告ハ有效ナリトス

○民法第九十七條第一項ハ商法ニ特別ノ規定存セサル限リ商事ニ關シテモ當然適用セラルルモノナルカ故ニ商法第百五十二條第二項ノ通知ハ

八　二一六五

九　八一二

現ニ其株主ニ到達シタル時又ハ同法第百七十二條ノ二ニ依リ其株主ニ到達シタルモノト看做サルル時ヨリ其期間ヲ起算スヘキモノト解釋スヘキモノニシテ其通知ヲ發シタル時ヨリ起算スヘキモノニ非サルモノトス

（第百五十三條）

『第百五十三條』

○株式讓渡人ハ商法第百五十三條第二項及ヒ第三項ニ定メタル義務ヲ負擔スルニ過キスシテ同條末項ノ損害賠償及ヒ違約金ノ支拂ヲ爲スカ如キハ株式讓渡人ノ義務ノ範圍ニ屬セサルモノトス

○商法第百五十三條第二項ノ滯納株金拂込ノ催告ハ發信主義ヲ採リタルコト明ナルノミナラス意思能力ナキ未成年ノ株式讓渡人ニ對スル右催告ノ有效ナルコトハ前示株主ニ對スル株金拂込ノ催告ト同一理由ニ基クモノトス

同主旨判例（五年六頁）

○商法第百五十三條第二項ニ規定スル株式讓渡人ニ對スル拂込ノ催告ハ二週間ヲ下ラサル期間内ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ通知ヲ發スルヲ以テ足ルモノナルカ故ニ催告ヲ發シタル翌日ヨリ起算シテ十四日ニ該當スル期日迄ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ爲スハ固ヨリ適法ナリトス

第三節　會社ノ機關

一〇　一八九八

八　二一五一

九　八一二

九　九五三

○株式會社ノ株式係カ株券ノ眞僞竝ニ之ニ添附ノ名義書換委任狀ニ於ケル名義人ノ印章ノ會社ニ届出ノモノニ符合スルカ否ヲ知ラントスル者ノ求メニ應シテ之カ調査報告ヲ爲スコトアルモ會社ノ事業ノ執行トシテ取扱フモノト爲スコトヲ得ス　九　九二九

第一款　株主總會

（第百六十三條）

『第百六十三條』

○株主總會ノ決議無效ニ關スル規定ハ其決議ヲ以テ無效ノ判決アルマテ有效ナリトシ判決ヲシテ決議カ將來ニ向テ無效ナルコトヲ宣言セシムル旨趣ニ非スシテ決議無效ノ判決ハ決議カ當初ヨリ無效ナルコトヲ確定スルモノニシテ若シ法定ノ期間內ニ決議無效ノ訴ヲ提起スル者ナクンハ決議ハ法律上有效ト爲ル結果ヲ生スルニ過キサル旨趣ノ規定ナリト解スルヲ相當トス　一〇　一三四六

○決議無效ノ判決ハ訴訟ノ當事者ト爲ラサル株主ニ對シテモ其效力ヲ及ホスモノナルヲ以テ株主ハ總テ決議無效ノ判決ニ依リ羈束セラルルモノト謂フヘク其結果トシテ株主ハ決議ノ無效ヲ否定スルヲ得サルハ勿論其決議ヲ前提トシテ株式會社對株主間ニ行ハレタル法律行爲ノ無效ヲモ否定スルコトヲ得サルモノトス　一〇　一三四八

同主旨判例二十五三〇頁

○商法第百六十三條ノ決議無效ノ訴ヲ竣テ始メテ無效ト爲ル決議ハ始メヨリ株主總會ノ決議トシテ無效ナルモノヲ包含セサルコトハ同條ノ解釋上疑ヲ容レサルヲ以テ同法第二百九條所定ノ定足數ニ滿タサル出席株主ノ過半數ヲ以テ爲シタル會社解散ノ決議ノ如キハ叙上決議無效ノ訴ヲ竣テ始メテ無效ト爲ルモノニ非サルモノトス　一〇　一四二二

○商法第百六十三條第一項ハ株主總會ノ決議カ總會招集ノ手續又ハ決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ反スル場合ニ之カ無效宣言ヲ請求スルコトヲ許シタル規定ナレハ總會ノ決議カ存在セサルカ又ハ其內容ニ於テ法令又ハ定款ニ違反シ當然無效ナル場合ニ適用スヘキモノニ非ス　一〇　一六四六

○株主總會ノ決議ニ付キ之ヲ無效トスル判決アリタル以上ハ其決議ニ依リ取締役ニ選任セラレタル者ハ當初ヨリ取締役タル資格ヲ取得セサリシモノト謂フヘク從テ其者カ取締役トシテ爲シタル商業登記ハ不適法ナリトス　一〇　一八三〇

第二款　取締役

○株式會社ノ合併ハ商法第二百九條ノ規定ニ從フ株主總會ノ決議ニ依リテノミ爲スコトヲ得ルモノナレハ取締役ハ同決議ニ基クニ非サレハ會社ヲ代表シテ他ノ會社ト合併ニ關スル契約ヲ締結スル權限ナキモノト

ス

『第百七十二條ノ二』

（第百七十二條ノ二）

○會社ノ株主ニ對スル通知又ハ催告カ商法第百七十二條ノ二第二項ニ依リ通常其到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做サルルハ獨リ通知又ハ催告ノ延著ノ場合ノミナラス其不著カ書面ノ返戻等ニ依リ會社ニ明カナルト否トヲ問ハサルモノトス　八　二二六五

『第百七十六條』

（第百七十六條）同主旨判例二四年九二六頁

○取締役カ監査役ノ承認ヲ得スシテ會社ト爲シタル取引ハ無效ナリトス　八　六二四

○商法第百七十六條ニ所謂監査役ノ承認ハ事前ニ於テモ事後ニ於テモ之ヲ與フルコトヲ得ルモノトス　八　六二四

○商法第百七十六條ニ所謂取引ナル文詞ハ會社ト取締役間ノ利害關係ノ衝突ヲ惹起スヘキ取引ヲ意味シ債務履行ノ如キ既ニ法律上確定シタル目的物件ノ給付ヲ爲スハ何等ノ弊害ヲ生セサルカ故ニ右取引ノ内ニ包含セサルモノト解スヘキモノトス　九　一八四

○商法第百七十六條ニ規定セル監査役ノ承認ハ事前ニ在リテハ勿論事後ニ在リテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘク又事前ノ承認ナキ取締役ノ取引行爲ハ無效ナルモ確定的ニ無效ナルニ非スシテ事後ノ承認若クハ其拒絶アルマテハ浮動ノ狀態ニ在リテ之ヲ無權代理ノ場合ニ準スヘキモノト解スルヲ相當トス　九　一〇六八

○如上ノ場合ニ於テ監査役ノ承認ヲ得スシテ自己ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲シタル取締役ハ民法第百十四條ノ規定ニ則リ相當ノ期間ヲ定メ其期間内ニ承認ヲ爲スヤ否ヲ確答スヘキ旨ヲ監査役ニ催告シ若シ監査役カ其期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ承認ヲ拒絶シタルモノト看做スコトヲ得ルモノトス　九　一〇六八

○商法第百七十六條ニ則リテ爲ス監査役ノ事後承認ハ事前ニ監査役ノ承認ヲ得ルコトナクシテ自己又ハ第三者ノ爲メニ會社ト爲シタル取締役ノ取引行爲ノ效力ヲ會社ノ爲メニ生セシムル一方的意思表示ニシテ之ヲ受クル者カ其當時取締役ノ資格ヲ保有スルコトヲ要スルノ旨趣ニ非ス　九　一〇六八

○手形ノ受取人ヲ甲ト爲スニ至リタル事由ノ如何ニ拘ハラス甲カ會社ノ代表者トシテ振出署名ヲ爲シタル以上其手形ヲ甲ニ於テ會社ノ爲メニスル割引ノ爲メニ乙ニ裏書ニ依リ交付シタリトスルモ甲ハ受取人トシテハ會社トノ取引ニ因リ手形ノ取得者ト爲リタルモノトス　九　一八八七

○手形行爲ハ抽象的行爲トシテ其成立ヲ有シ得ルヲ以テ其振出人ト受取

人トノ間ニハ苟クモ手形ノ振出アリタル以上振出行爲ナル手形行爲成立スルモノニシテ會社取締役カ會社ヲ代表シテ振出署名ヲ爲シ自己個人ヲ受取人ト爲スニ因リ會社ト取締役トノ間ニ手形ノ振出行爲成立スルモノナルヲ以テ該手形行爲ニハ商法第百七十六條ヲ適用スヘキモノトス

第三款　監査役

（第百八十二條）

『第百八十二條』

○監査役ハ株主總會招集ノ必要アリト認メタルトキハ會社ノ解散ヲ決議スル爲メナルト否トヲ問ハス之ヲ招集スルコトヲ得ルモノニシテ監査役ノ招集權限ヲ以テ會社業務ノ監督範圍ニ制限スヘキモノニ非ス

第四節　會社ノ計算

（第百九十六條）同主旨判例四年一七二六頁

『第百九十六條』

○株式會社ハ其資本ノ鞏固ヲ保持スルノ必要上利益ヲ得タル場合ニ非サレハ株主ニ配當スルコトヲ得サルヲ原則トスレトモ商法第百九十六條ハ其例外規定トシテ會社カ定款ヲ以テ開業ヲ爲スニ至ルマテ一定ノ利息即チ所謂建設利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ定ムルコトヲ得ル旨ヲ定メ以テ株式ノ募集及ヒ會社ノ設立ヲ容易ナラシメンコトヲ期シタル

モノトス

○右建設利息ニ關スル定款ノ規定ハ設立當時ノ定款即チ所謂原始定款ニ依リテ之ヲ爲シ且會社設立登記完了前裁判所ノ認可ヲ受クルコトヲ要スルモノト解スヘキハ當然ニシテ既ニ會社カ設立ヲ告ケ其登記ヲ完了シタル後ニ至リテモ尙且定款ノ變更ニ因リ其規定ヲ設クルコトヲ得ルモノニ非ス

（第百九十八條）

『第百九十八條』

○商法第百九十八條ニ依リ檢査役ノ選任ヲ請求スル株主ノ持分カ資本ノ十分ノ一以上ニ當ルコトハ株主カ此請求權ヲ有スル要件ナレハ此要件ハ選任ニ付キ確定裁判ノアルマテ存續スルコトヲ要ス從テ檢査役選任ノ請求ヲ受ケタル裁判所カ選任ノ決定ヲ爲シタルマテハ右ノ要件存シタルモ其決定ニ對シテ抗告カ提起セラレタル後株主中ニ其株式ノ全部又ハ一部ヲ他ニ讓渡シタル者アリテ株主ノ總持株カ資本ノ十分ノ一ニ達セサルニ至リタルトキハ株主ハ選任ノ請求權ヲ失フモノトス

第六節　定款ノ變更

（第二百九條）

『第二百九條』

○商法カ株主總會ノ決議ニ付テハ原則トシテ出席株主ノ定足數ヲ定メス

單ニ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ決議シ得ル旨規定スルニ拘ハラス會社ノ解散其他二三ノ重要事項ニ限リ特ニ其第二百九條ニ於テ出席株主ノ定足數ヲ定メタル點ニ依リテ之ヲ觀レハ此等事項ノ決議ヲ爲スニハ絶對ニ第二百九條ノ定足數ノ株主ノ出席ヲ必要トシ普通決議ノ方法ニ依ルコトヲ許ササルモノト解スヘキヲ以テ叙上會社解散ノ決議ニ關スル規定ハ所謂强行規定ニシテ會社解散ノ決議ハ右定足數ノ株主出席シテ之ヲ爲スニ非サレハ株主總會ノ決議トシテ成立セサルモノト認ムルヲ相當トス　一〇

○叙上ノ如クナルヲ以テ出席株主カ右定足數ニ滿タサルトキハ縱令其出席株主ノ過半數ヲ以テ會社解散ノ決議ヲ爲スモ該決議ハ株主總會ノ決議トシテ成立セサルモノト謂ハサルヘカラス　一〇

（第二百十六條）

『第二百十六條』

○取締役カ商法第二百十六條ノ義務ヲ負フハ增資決議カ適法ニ成立シタルコトヲ前提トスルモノニシテ增資決議カ全ク存在セサルカ又ハ決議アリトスルモ絶對無效ナル場合ニ於テハ實行スヘキ基本ノ決議ナキヲ以テ引受又ハ拂込ノ義務アルヘキ理ナク從テ取締役ハ同條ニ依ル引受又ハ拂込ノ義務ヲ負フヘキモノニ非サルノミナラス引受又ハ拂込ナシトスルモ其引受若クハ拂込ヲ爲サシムヘキ義務ニ違背シタルモノニモ非サルモノトス　一〇

（第二百十七條）

『第二百十七條』

○如上ノ契約カ共有ニ屬スル新株式ヲ共有者各自ニ分割スルニ在ルトキハ商法第二百十七條第三項ノ登記前ニ於ケル新株ノ讓渡又ハ其豫約ヲ爲スモノト謂フヲ得サルモノトス（第二百十九條一〇年一一〇八頁參照）　一〇

（第二百十九條）

『第二百十九條』

○數名カ新株式ノ優先引受權ヲ有スル場合ニ於テ契約ニ依リ其中一名ヲシテ株式ヲ引受ケシメ其取得シタル株式ハ內部關係ニ於テ數名ノ共有ニ屬スルモノト爲スコトヲ妨ケサルモノトス　一〇

第七節　解散

○破產ニ依ル會社ノ解散後ニ會社ハ尙ホ存續シ從テ取締役其他ノ會社機關ノ存續スルコトハ毫モ疑ヲ容レサルモノトス　九

○會社ノ設立無效即チ其法人格ノ存否ヲ爭フ訴訟ハ自然人ノ身分關係ヲ爭フ訴訟ト等シク財產權上ノ請求ニ非サレハ破產管財人ニ於テ會社ヲ代表スヘキモノニ非スシテ取締役ニ於テ之ヲ代表スヘキモノトス　九

（第二百二十一條）

『第二百二十一條』

○商法カ株主總會ノ決議ニ付テハ原則トシテ出席株主ノ定足數ヲ定メス單ニ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ決議シ得ル旨規定スルニ拘ハラス會社ノ解散其他二三ノ重要事項ニ限リ特ニ其第二百九條ニ於テ出席株主ノ定足數ヲ定メタル點ニ依リテ之ヲ觀レハ此等事項ノ決議ヲ爲スニハ絶對ニ第二百九條ノ定足數ノ株主ノ出席ヲ必要トシ普通決議ノ方法ニ依ルコトヲ許ササルモノト解スヘキヲ以テ叙上會社解散ノ決議ニ關スル規定ハ所謂强行規定ニシテ會社解散ノ決議ハ右定足數ノ株主出席シテ之ヲ爲スニ非サレハ株主總會ノ決議トシテ成立セサルモノト認ムルヲ相當トス

（第二百二十二條）

○叙上ノ如クナルヲ以テ出席株主カ右定足數ニ滿タサルトキハ縱令其出席株主ノ過半數ヲ以テ會社解散ノ決議ヲ爲スモ該決議ハ株主總會ノ決議トシテ成立セサルモノト謂ハサルヘカラス

『第二百二十二條』

○商法カ株主總會ノ決議ニ付テハ原則トシテ出席株主ノ定足數ヲ定メス單ニ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ決議シ得ル旨規定スルニ拘ハラス會社ノ解散其他二三ノ重要事項ニ限リ特ニ其第二百九條ニ於テ出席株主ノ定足數ヲ定メタル點ニ依リテ之ヲ觀レハ此等事項ノ決議ヲ爲スニハ絶對ニ第二百九條ノ定足數ノ株主ノ出席ヲ必要トシ普通決議ノ方法ニ依ルコトヲ許ササルモノト解スヘキヲ以テ叙上會社解散ノ決議ニ關スル規定ハ所謂强行規定ニシテ會社解散ノ決議ハ右定足數ノ株主出席シテ之ヲ爲スニ非サレハ株主總會ノ決議トシテ成立セサルモノト認ムルヲ相當トス

○叙上ノ如クナルヲ以テ出席株主カ右定足數ニ滿タサルトキハ縱令其出席株主ノ過半數ヲ以テ會社解散ノ決議ヲ爲スモ該決議ハ株主總會ノ決議トシテ成立セサルモノト謂ハサルヘカラス

第八節　清算

（第二百二十六條）

『第二百二十六條』

○商法第二百二十六條第一項カ破産ノ場合ヲ除外シタルハ會社ノ取締役ヲ存續セシメサル旨趣ニ非スシテ普通ノ場合ニ於テハ取締役カ當然清算人ト爲ルニ反シ此場合ニ於テハ破産裁判所ノ選定シタル管財人ニ於テ破産機關トシテ一切ノ清算事務ヲ處理スルヲ以テ特ニ取締役ヲ清算人タラシムル必要ナキニ由ルモノトス

（第二百三十四條）同主旨判

『第二百三十四條』

○株式會社ノ清算人カ清算結了ノ登記ヲ爲スモ之ニ由リ會社ハ必スシモ

直ニ消滅スルモノニ非スシテ殘餘財產尙ホ存在スルニ於テハ其間ハ會社ハ依然存續ス從テ會社ノ消滅ニ由ル株式ノ消滅ヲ來スモノニ非ス　八　二三九一

（例五年三六四頁）

○株式會社設立無效ノ判決確定シタル場合ニ於テ淸算ノ爲メ株金拂込ノ義務ヲ負擔スル者ハ本來有效ナル株式ノ引受又ハ讓受ニ因リ株金拂込ノ義務ヲ負擔シタル者ニ限ルモノニシテ會社設立無效ノ原因カ株式申込ノ法定要件ノ欠缺ニ基ク場合ト否トヲ區別スルヲ要セサルモノトス　九　四九四

第三編　商行爲

第一章　總則

『第二百六十三條』

（第二百六十三條）

○手形債務負擔ノ行爲ハ商行爲ニシテ之ヲ負擔スルニ至リタル原因カ消費貸借ニ在リタリト否トハ毫モ其性質ヲ消長スルモノニ非ス　八　一七二三

『第二百六十四條』

（第二百六十四條）

○貸座敷營業ハ商法第二百六十四條第七號ニ所謂客ノ來集ヲ目的トスル場屋ノ取引ニ該當スル商行爲ナリトス　八　六三二

○銀行カ普通營業トスル所ノ取引ハ商法第二百六十四條第八號ニ所謂銀行取引ニ屬シ金錢又ハ有價證券ノ轉換ヲ媒介スルニ在レハ銀行ノ營業ノ範圍ニ屬スルモノハ其媒介行爲若クハ之ヲ助成スル附隨的行爲タルコトヲ要スルモノトス　九　二二二

○他人ノ既存債權ニ付キ保證ヲ爲スカ如キハ普通ノ銀行營業ノ範圍ニ屬セサルハ勿論斯ル保證ヲ支配人カ其資格ヲ濫用シテ自己ノ利益ノ爲メニ爲スカ如キハ銀行營業ノ遂行ノ爲ニ爲スモノトモ謂フヘカラス　九　二二二

『第二百六十五條』

（第二百六十五條）

○商人カ其債務ヲ準消費貸借ノ目的ト爲スハ商行爲ナリト推定スヘキモノトス　八　八七五

○他ノ債務ノ目的タル金錢其他ノ物ヲ消費貸借ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ當事者ノ一方又ハ雙方カ商人ナルトキハ之ニ因リ成立シタル消費貸借ハ從前ノ債務カ商行爲ニ因リテ生シタルモノナルト否トヲ問ハス商人タル當事者ノ爲メニハ其營業ノ爲メニ爲シタルモノト推定スヘキモノトス　八　一三八五

（同主旨判例七年一五七〇頁）

○商人カ他ノ債務ノ目的タル金錢其他ノ物ヲ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ約シタル場合ニ於テハ之ニ因リテ成立シタル消費貸借ハ其營業ノ爲メニシタルモノト推定セラルヘキコト商法第二百六十五條第二項ニ依

リ明カナルヲ以テ其消費貸借ハ同條第一項ニ依リ商行爲ナリトス　一〇　一七二八

（第二百七十三條）

『第二百七十三條』

○甲乙兩名カ乙ノ爲メニ商行爲タル貸座敷營業用トシテ係爭家屋ヲ借入レタル場合ニ於テ之ニ因リテ生シタル賃料支拂ノ債務ハ甲乙兩名連帶シテ負擔スヘキモノト爲シタルハ相當ナリ　八　六三二

同主旨判例四年七五頁

○商法第二百七十三條第一項ハ債權者ノ爲メニノミ商行爲タル行爲ニ因リテ債務發生シタルトキハ債務者ハ連帶債務ヲ負擔スヘキモノニ非サルヲ以テ數人カ商行爲ニ因リ發生シタル債務ニ付キ連帶責任ヲ負擔スルコトヲ判斷スルニハ右數人ノ全員又ハ其一人ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リ債務カ發生シタル事實ヲ認定セサルヘカラサルモノトス　一〇　二〇九五

（第二百七十四條）

『第二百七十四條』

○商法第二百七十四條ニ所謂營業ノ範圍內トハ商人ノ目的トスル當該營業上ノ行爲ノミナラス其營業ノ利益若クハ便宜ヲ計ルカ爲メニスル一切ノ行爲ヲモ包含スルモノト解スヘク又商人ノ或行爲カ其營業ノ爲メニスルモノナルヤ否ヤハ同法第二百六十五條第二項ニ依リ反證ナキ限リ其營業ノ爲メニスルモノト推定スヘキモノトス　一〇　一五四

（第二百八十五條）

『第二百八十五條』

○商人ハ自己ニ利害關係ヲ有スル法律ニ注意スルハ普通ノ狀態ナルヲ以テ反證ナキ限リ商行爲ニ因リ生シタル債權ハ五年ノ時效ニ因リテ消滅スルコトヲ知了セルモノト認ムルヲ相當トス　八　一九九七

同主旨判例七年一五七〇頁

○賣掛代金ノ債務ヲ消滅セシメテ消費貸借契約ヲ成立セシメタルトキハ該消費貸借ノ債務ニ付キテハ二年ノ短期時效ニ關スル規定ヲ適用スルコトヲ得ス而シテ其貸借カ商人ノ行爲ニシテ一應商行爲ト推定スヘキモノナルトキハ五年ノ商事時效ヲ適用スヘキモノトス　一〇　一七〇七

（第二百八十六條）

第二章　賣買

『第二百八十六條』

○商法第二百八十六條ノ如ク相當ナル期間ヲ定メテ催告ヲ爲スヘキ旨ノ規定ハ催告ヲ受クル者ノ利益ヲ保護スル旨趣ニ出テタルモノナレハ若シ其催告カ相當ノ期間ヲ定メサルモノナルトキハ被催告者ハ其催告ノ無效ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖モ被催告者ニ於テ其期間ノ長短ニ付キ爭ハサルトキハ裁判所ハ進テ其期間ノ相當ナルヤ否ヲ審判スヘキモノニ非ス　八　六九八

○商法第二百八十六條第一項ニ依ル競賣ノ通知カ其競賣成立ノ要件ニ非

○サルコトハ同條カ賣主ニ對シ競賣ヲ爲シタル後遲滯ナク其通知ヲ發スルコトヲ命シタルニ徵シ明カナル所ナリトス　一〇　一二七

○賣主カ代金債權ヲ讓渡シタルトキハ之カ爲メニ直ニ商法第二百八十六條所定ノ競賣權ヲ喪失スルモノニ非スト雖モ自ラ賣得金ヲ代金ニ充當スル權利ナク該充當權ハ其性質上債權ノ讓受人ニ屬スルモノトス　一〇　一二七

第六章　問屋營業

（第三百十三條）

『第三百十三條』

○魚市場ハ單ニ漁業者ト仲買人トノ間ニ立チ一定ノ手數料ヲ得テ他人ノ爲メニ魚類ノ競賣ヲ爲スニ止マリ自己ノ爲メニ魚類ノ販賣ヲ業トスルモノニ非サレハ商法ニ所謂問屋業者ニ該當スルモノトス　一八　二〇四九

○問屋業者ハ民法第百七十三條第一號ニ所謂生產者ニ非サルハ勿論卸賣商人又ハ小賣商人ニ非ス　一八　二〇四九

（第三百十七條）

『第三百十七條』

○問屋營業者カ自ラ賣主又ハ買主ト爲リ得ヘキ場合ハ取引所ノ相場アル物品ノ販賣又ハ買入ノ委託ヲ受ケタルトキニ限ルコトハ商法第三百十七條ニ依リ明カナリト雖モ之カ爲メ取引所ノ相場ナキ物品ニ關スル問屋營業者ノ取引ハ總テ委託販賣又ハ買入ナリト謂フヲ得サルモノトス　一〇　八六六

第七章　運送取扱營業

（第三百二十二條）

『第三百二十二條』

○運送取扱人カ貨物ノ運送ヲ引受ケタルトキハ其運送ヲ爲スニ至ル迄善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ之ヲ保管スルコトヲ要シ其貨物ノ滅失毀損ヲ防クカ爲メニ相當ナル注意ヲ爲スノ義務ヲ有スルモノトス　八　二三四二

○運送取扱人ハ鐵道院カ直ニ發送ヲ爲シ能ハサル場合ニ其承諾ヲ得タルトキハ便宜上停車場構內ニ貨物ヲ搬入スルコトヲ得ヘシト雖モ右ハ固ヨリ鐵道院ニ於テ保管ノ義務ヲ負擔スルモノニ非スシテ其搬入ヲ爲シタル運送取扱人ニ於テ保管ノ責任ヲ負ヒ其留置ヨリ生スル一切ノ危險ハ運送取扱人自ラ負擔スルモノトス　八　二三四二

第八章　運送營業

第一節　物品運送

同主旨判例四一年六五八頁

○荷爲替ハ運送品ノ荷主カ荷受人ヲ支拂人ト爲シタル爲替手形ヲ振出シテ其受取人ヨリ手形面ノ金額ヲ受取リ支拂人タル荷受人カ爲替金ヲ支

拂ハサル場合ニ對スル擔保トシテ運送品ヲ賣却シ其賣得金ヲ以テ辨濟ニ充當スルノ權利ヲ債權者タル手形ノ受取人ニ付與シ同時ニ貨物引換證又ハ船荷證券ヲ右手形ノ受取人ニ交付スルニ因リテ成立スルモノニシテ其擔保ハ動産質ノ性質ヲ有スルモノトス

（第三百三十三條）

『第三百三十三條』

○運送人カ貨物引換證ヲ發行シタルトキハ運送貨物ニ對シ貨物引換證ノ所持人ノ爲メニ代理占有ヲ爲スト同時ニ自己ノ爲メニスル自主占有權ヲ有スルモノニシテ此占有權ハ到達地ニ於テ貨物引換證ト引換ニ運送品ノ引渡ヲ爲スニ至ル迄繼續スルモノトス從テ運送人ノ占有權カ其以前ニ於テ消滅セル事實ヲ認定センニハ特ニ其事由ヲ說明セサルヘカラス

（第三百三十四條）

『第三百三十四條』

○貨物引換證ノ所持人ト運送人トノ間ニ於テハ運送ニ關スル事項ハ一ニ其證券ニ記載シタル所ニ依リテノミ定ムヘキモノナレハ其證券ニ記載ナキ運送ニ關スル事項ハ縱令人證ヲ以テ之ヲ證明シ得ルトキト雖モ運送人ハ之ヲ以テ其證券ノ所持人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

（第三百三十四條ノ二）

『第三百三十四條ノ二』

九　九　九

四一　一四八五　一四九

○商法第三百三十四條ノ二及ヒ同第三百三十五條ノ規定ハ同法第三百八十三條ノ二及ヒ同第三百六十五條ニ依リ倉荷證券ニモ準用セラルヘキモノトス

（第三百三十四條ノ三）

『第三百三十四條ノ三』

○貨物引換證ヲ發行シタル運送人カ運送品ヲ貨物引換證ト引換ヘスシテ他人ニ引渡シ之ヲ滅失セシメタル後ニ於テ其運送品ノ所有權ノ取得ヲ目的トスル契約ノ下ニ貨物引換證ヲ讓受ケタル者ハ讓受ノ當時運送品滅失ノ事實ヲ知ラスト雖モ之ニ因テ運送品ノ所有權ヲ取得スルモノニ非ス從テ貨物引換證ノ讓受人ハ運送人カ運送品ニ對スル讓受人ノ所有權ヲ侵害シタリト主張シテ損害賠償ノ請求ヲナスコトヲ得サルモノトス

（第三百三十五條）

『第三百三十五條』

○商法第三百三十五條ハ運送品ニ付キ所有權ノミナラス質權其他ノ物權ヲ設定スル場合ニ貨物引換證ノ引渡ノ效力ヲ定メタルモノニシテ貨物引換證ニ依リ質權ヲ設定スル場合ニ裏書ヲ要セサルコトヲ定メタルモノニ非ス

○商法第三百三十四條ノ二及ヒ同第三百三十五條ノ規定ハ同法第三百八

一〇　八　一〇

七七三　二三三八　七七三

十三條ノ二及ヒ同第三百六十五條ニ依リ倉荷證券ニモ準用セラルヘキモノトス

（第三百三十七條）

『第三百三十七條』

○商法第三百三十七條ニ所謂運送人トハ同法第三百三十一條ニ規定スルカ如ク陸上又ハ湖川港灣ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フモノナルカ故ニ右商法第三百三十七條ヲ適用セントスルニハ運送義務者カ如上運送ヲ業トスル者ナルコトヲ前提トセサルヘカラサルモノトス

（第三百三十九條）

『第三百三十九條』

○單純ニ貨物引換證ヲ讓受ケタル者ハ他ニ特別ノ事情ナキ限リ讓受ノ效力トシテ運送人ニ對シ運送品ノ引渡請求權ヲ取得スルヲ以テ讓受人ハ運送人ニ對シテ其權利ヲ行使シ既ニ運送人カ不法ニ其運送品ヲ滅失セシメタル場合ニ於テハ履行不能ニ因ル損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク此請求權ハ運送契約ノ當事者タル運送人ニ對シテハ勿論相次テ運送ヲ爲シタル各運送人ニ對シテモ之ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖モ當初ノ運送人ヨリ運送ノ下請負ヲ爲シタル運送人ニ對シテハ之ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

（第三百四十條）

『第三百四十條』

○運送契約不履行ニ因ル運送人ノ損害賠償ノ責任範圍ハ商法第三百四十一條ノ場合ヲ除ク外同法第三百四十條ニ定ムル標準ニ依リテ算定スヘキモノニシテ民法第四百十六條ニ依ルヘキモノニ非ス

（第三百四十一條）

『第三百四十一條』

○鐵道ハ旅客ヨリ運送ヲ託サレタル手荷物ノ滅失毀損ニ因ル損害額即チ商法第三百四十條ニ依リ定ムヘキ損害額カ百圓以内ナルトキハ其額ヲ之ヲ超過スルトキハ百圓ヲ最高限度トシテ賠償スヘキヲ通則トシ唯其滅失毀損カ鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因ル場合ニ於テノミ商法第三百四十一條ニ從ヒ一切ノ損害ヲ賠償スヘキモノナレハ百圓ヲ超ユル損害額ヲ請求スル旅客ハ手荷物ノ滅失毀損カ鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因ルコトヲ證明スヘキモノトス

第九章　寄託

第二節　倉庫營業

（第三百六十五條）

『第三百六十五條』

○商法第三百三十四條ノ二及ヒ同第三百三十五條ノ規定ハ同法第三百八

十三條ノ二及ヒ同第三百六十五條ニ依リ倉荷證券ニモ準用セラルヘキモノトス

（第三百七十六條）

『第三百七十六條』

○倉庫業者カ寄託物ノ返還ヲ爲スコト能ハサルトキハ少ナクトモ之ニ代ルヘキ價ヲ損害トシテ賠償スヘキハ當然ナレハ寄託者カ寄託物ノ所有者ニ非サルノ故ヲ以テ其賠償ヲ免カルヘキモノニ非ス又寄託者カ所有者其他ノ人ニ對シ損害ヲ賠償シタル後ニ非サレハ其責ニ任セサルモノト謂フヲ得サルモノトス

（第三百七十九條）（刑）

『第三百七十九條』

○被告カ倉庫會社ニ米ヲ寄託シ同會社ヲシテ倉庫證券ヲ發行セシメタルトキハ該證券ト引換ニ非サレハ其返還ヲ請求スルヲ得ス又該證券ヲ以テスルニ非レハ其處分ヲ爲スコトヲ得サルモノナレハ同會社ハ該證券所持人ノ爲メ在庫米ヲ保管占有スルモノニシテ被告ノ爲メニ財物ヲ所持スルモノト其趣ヲ異ニスルモノトス

（第三百八十三條ノ二）

『第三百八十三條ノ二』

○商法第三百三十四條ノ二及ヒ同第三百三十五條ノ規定ハ同法第三百八十三條ノ二及ヒ同第三百六十五條ニ依リ倉荷證券ニモ準用セラルヘキモノトス

○倉庫營業者ニ寄託ヲ爲シ證券ニ寄託者トシテ記載セラレタル者カ正當ナル權利者ナルコトハ勿論ナルモ寄託者ヨリ其物件ヲ讓渡シ又ハ質入シタル爲メ其證券ヲ他人ニ交付スルトキハ證券カ記名式所持人渡ナラサル限リ倉荷證券ヲ裏書ニ依リテ取得シタル者ヲ以テ正當ナル受取權利者ナリト解スヘキモノトス

○指圖式ナル倉荷證券ノ發行セラレタル寄託物ニ付キ質權ヲ設定スルニハ質權設定ノ合意ノ外尚其證書ニ裏書ヲ爲スコトヲ要スルモノナルヲ以テ縱令債權者カ債務者ト寄託物ニ付キ質權設定ノ契約ヲ爲シ倉荷證券ヲ受取ルモ其證書ニ裏書ナキ限リ質權ヲ取得シタルモノト謂フヲ得サルモノトス

第十章　保險

第一節　損害保險

第一款　總則

（第三百九十九條ノ二）

『第三百九十九條ノ二』

○保險者カ重要ナル事實ヲ過失ニ因リ知ラサリシコトハ之ニ基キ保險者

ニ保險契約解除ノ權利ナキコトヲ主張スル者ニ於テ立證セサルヘカラス

九　六五

○子宮腟部ノ癌腫ヲ患ヒ病勢既ニ手術ヲ施スモ效ナキ程度ニ進ミタル者ニ在リテモ營養佳良特ニ皮下脂肪豐富ナルニ於テハ外觀營養ハ初見何等目立チタル障害ナキ以上保險會社ノ保險醫カ被保險者ノ疾患ヲ外觀ヨリ察知セサルモ必スシモ過失ナリト謂フヲ得サルモノトス

九　六五

第二節　生命保險

○普通保險約款ニ於テ保險契約ハ保險料拂込期日後一定ノ猶豫期間ノ經過ニ依リ當然其效力ヲ失フト雖モ保險者ハ尙ホ一定期間保險契約者ノ書面上ノ請求ニ因リ被保險者ノ身體ヲ診査シ健康ニ異狀ナキ場合若クハ健康證明書ヲ提出シタル場合ニ限リ保險契約ノ回復ヲ承認スヘキモノト爲シタルハ專ラ保險者カ契約締結當初ニ於ケル被保險者ノ生命ノ危險ヲ測定スルニ足ルヘキ生活機能ニ變更ナキヤ否ヲ審査シテ其間ニ於ケル健康狀態ノ變動ニ因ル損害ヲ防止セントシ一ニ保險者ノ利益保護ノ目的ニ外ナラサレハ保險者ハ保險契約者ニ於テ契約回復ヲ希望スル意思ヲ表示スルトキハ必スシモ如上ノ手續ノ履踐ヲ竢タスシテ任意ニ保險契約ノ回復ヲ承認スルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス

八　五六五

○如上ノ場合ニ於テ保險者カ猶豫期間經過後ニ至リ保險契約者ヨリ保險約款所定ノ手續ノ伴ハサルニ拘ハラス保險料ヲ受領シ其後久シキニ涉リテ何等異議ヲ述ヘサルトキハ特別ノ事情ナキ限リ保險契約回復ノ承認ヲ爲シタルモノト推定スヘク保險者ハ保險事故ノ發生ニ因リ保險金支拂ノ責ニ任スヘキモノトス

八　五六五

○保險業者間ニ於テ被保險者ニ結核性腹膜炎ノ既往症アルトキハ保險契約ヲ締結セサル慣習存在セリトスルモ斯ル慣習ヲ以テ直ニ保險業者ニ非サル普通人カ之ニ依ルノ意思ヲ有セリト推定スルヲ得サルモノトス

（第四百二十九條）

『第四百二十九條』

○被保險者ノ濕性肋膜炎カ保險契約締結當時既ニ全治シタリトスルモ其病症ハ生命ノ危險ヲ測定スルニ重要ナル事項ナレハ被保險者ハ保險契約ノ締結ニ際シ曾テ濕性肋膜炎ニ罹リタル事實ヲ保險者ニ告知スヘキ義務ヲ負フモノニシテ病症ノ全治ハ其義務ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス

八　四六二

○保險契約ニ於ケル危險測定ニ付キ各獨立セル甲乙二箇ノ重要ナル事項存スル場合ニ於テ保險者カ過失ニ因リ甲ノ事項ヲ知ラサリシトキト雖モ保險契約者又ハ被保險者カ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ乙ノ事項ヲ

告知セサル以上ハ保險者ハ乙ノ事項ニ基キ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　九　五三七

○保險者カ危險發生ノ後解除ヲ爲シタル場合ニ於テ被保險者ノ死亡カ其告ケサリシ既往症ニ基カサルコトヲ保險契約者ニ於テ證明シタルトキニ限リ保險者ハ保險金支拂ノ責ニ任スヘキモノトス　九　七八七

○結核性痔瘻症ハ多クハ他ノ臟器ニ重篤ナル結核性疾患ヲ有スル場合ニ於テ發生スルモノニシテ生命ノ危險ヲ測定スルニ付キ重要ナル事實ニ屬スルモノナレハ保險契約者カ之ヲ告知セサルトキハ商法第四百二十九條ノ告知義務ニ違背シタルモノトス　九　七八七

○保險會社ノ檢査醫ハ其會社ノ機關ニシテ申込人ノ健康狀態ヲ調査スル任務ニ從事スル者ナルヲ以テ生命保險契約ヲ締結スルニ際シ保險契約者又ハ被保險者カ該檢査醫ニ危險ノ測定ニ重要ナル事項ヲ告知シタル以上ハ該檢査醫ニ於テ其事項ト異レル事項ヲ告知書ニ記載シタルカ爲メ保險會社ニ於テ眞實ナル事項ヲ知ルコトナクシテ保險契約ヲ締結スルモ保險契約者又ハ被保險者ニ其責ニ歸スヘキ事由存セサレハ保險會社ハ爾後斯ル事情ヲ主張シテ契約ヲ解除シ其他保險契約上ノ義務ヲ免カルルコトヲ得サルモノトス　九　二〇六二

○保險會社ニ對シ保險契約ノ申込ヲ爲シタルニ被保險者ハ甲ナル疾病ニ罹レルモノト診定セラレタル結果保險契約ハ締結セラルルニ至ラサリシ事實アリタル後他ノ保險會社ニ對シ更ニ保險契約ノ申込ヲ爲ス際此事實ヲ告知セサリシトキハ縱令曩ニ爲サレタル診定ハ誤ニシテ被保險者ハ甲ナル疾病ニハ罹リ居ラサリシトスルモ尙且告知義務ノ違背タルヲ免カレサルモノトス　九　一〇

第四編　手形

○手形ノ書替ナルモノハ滿期日ニ至リ更ニ其期日ヲ延長スルノ目的ヲ以テ之ヲ爲スヲ普通トシ舊手形債務ヲ消滅セシメテ新ナル手形債務ヲ發生セシムルモノニ非サレハ此場合ニ更改ノ法則ヲ適用スヘキモノニ非ス　九　九五三

○手形債務カ一旦有效ニ發生シタル以上ハ爾後之カ消滅ヲ來スヘキ法律上ノ原因ナキ限ハ消滅ニ歸スヘキモノニ非サルノミナラス縱令手形變造後ニ於テモ變造前ノ署名者ニ其責任ヲ認メタル商法第四百三十七條第一項ノ精神ヨリ推ストキハ手形ノ署名者其他ノ記載事項ノ抹消ハ原則トシテ手形上ノ權利義務ニ影響ヲ及ホササルモノトス　九　三九二

○白地手形トハ後日他人ヲシテ手形要件ノ全部又ハ一部ヲ補充セシムル意思ヲ以テ故ラニ之ヲ記載セサル紙片ニ署名シテ發行スルモノヲ指稱スルモノトス　一〇

○爲替手形ノ振出人ハ白地手形ヲ振出スト同時ニ後日手形ノ要件カ補充セラレタルトキ引受人トシテ手形債務ヲ負擔スル意思ヲ以テ白地手形ニ引受人トシテ署名スルコト即チ白地引受ヲモ爲シ得ヘキモノトス　一〇　一六八六

○白地手形ノ交付ヲ受ケタル者ハ其手形ニ署名スルコトナクシテ之ヲ他人ニ讓渡シ讓渡ヲ受ケタル者ハ之ニ白地裏書ヲ爲シ更ニ他人ニ讓渡シ得ヘク此ノ如クニシテ手形ノ所持人トナリタル者ハ其白地ヲ補充シテ引受人又ハ前者ニ對シテ手形上ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ルモノトス　一〇　一六八六

○白地手形ニ於ケル白地補充權ハ手形ニ追隨シテ轉轉シ手形ヲ取得シタル者カ同時ニ之ヲ取得スルモノト解スルヲ相當トス　一〇　一六八六

第一章　總則

○爲替手形ノ支拂人カ受取人ノ氏名又ハ商號ノ記載ナキ所謂白地手形ニ引受署名ヲ爲シテ手形所持人ニ交付シタル場合ニハ該引受人ハ後日該手形ノ要件完備シタルトキ該手形記載ノ内容ニ從ヒ手形債務ヲ負擔スル意思ヲ以テ引受ヲ爲シタルモノナレハ斯ル手形ノ所持人ハ後日引受人ヲシテ手形債務ヲ負擔セシムルニ必要ナル手形要件ヲ補充シ滿ヘキ權利ヲ有スルモノトス　九　二一〇九

○如上ノ場合ニ於テ引受人ノ手形債務ハ其要件補充セラレタルトキ始メテ成立スルニ至ルヘシト雖モ該手形債務ノ内容ハ手形ノ記載ニ依リテ定マルモノナルヲ以テ其要件ノ補充カ滿期日經過後ニ爲サレタリトスルモ猶ホ該手形記載ノ滿期日ニ於テ支拂ヲ爲スヘキ内容ヲ有スル手形債務ヲ負擔スルコト振出年月日及ヒ滿期日ヲ手形授受ノ年月日以前ニ遡記シテ振出シタル約束手形ノ振出人又ハ滿期日經過後ニ爲替手形ニ引受ヲ爲シタル引受人ノ手形債務ト異ナル所ナキモノナレハ該要件ヲ補充シテ手形ノ支拂ヲ求メタル場合ニハ引受人ハ手形債務カ時效ニ因リ消滅セサル間ハ何時ニテモ其支拂請求ニ應セサルヘカラサルモノトス　九　二一〇九

○引受人ノ手形債務ハ滿期日後三年ヲ經過シタルトキ時效ニ因リ消滅スルモノナルヲ以テ滿期日後三年ヲ經過セサル間ニ爲シタル白地手形ノ補充ハ有效ナリトス　九　二一〇九

○會社ノ代表者ハ即チ會社ノ法定代理人ニシテ其法定代理人ノ爲ス行爲

ハ本人タル會社ノ爲メニ爲ス意思ヲ包含セサルモノト謂フヲ得ス而シテ取締役ノ代理權カ法定ノモノナリヤ將タ委任ニ因ルモノナリヤハ手形以外ノ證據ニ依リテ定メ得ヘキモノトス　一〇　一七八一

（第四百三十五條）

『第四百三十五條』

○平常取引ヲ爲スニ當リ他人ノ氏名ト同一名稱ヲ以テ自己ヲ表示スル名稱トシテ取引上使用スル者カ手形行爲ニ付キ自己ヲ表示スル爲メ其他人ノ氏名ト同一ノ名稱ヲ用ヒ手形ニ署名シタルトキハ手形行爲ノ性質上該手形行爲ハ之ヲ其署名ヲ爲シタル者ノ行爲ト認ムヘキモノニシテ其名稱カ他人ノ氏名ニ屬スルヤ又之ヲ商號トシテ使用シ得ヘキモノナルヤ否ヤノ點ハ其署名者ノ手形上ノ責任ニ影響ナキモノトス　一〇　一三一八

（第四百三十六條）

同主旨判例四〇年三五九頁

『第四百三十六條』

○手形行爲ノ代理カ有效ナル爲メニハ代理人カ本人ノ爲メニスルコトヲ手形ニ記載スルコトヲ要スト雖モ其記載ノ方式ニ付テハ特ニ之ヲ規定シタルモノナケレハ手形面ニ代理人ノ代理關係ヲ認識シ得ル程度ニ表示アルトキハ代理關係ノ記載トシテ妨ナキモノト解スルヲ相當トス　八　六二四

○手形署名者ノ肩書ニ何某代理人又ハ何何株式會社取締役等ノ文字アルトキハ代理關係ノ記載トシテ最モ著明ナリト雖モ斯ル著明ナル表示ナキモ署名者ノ肩書並ニ印章等ニ依リテ署名者カ自己ノ爲メニ非スシテ本人ノ爲メニ手形行爲ヲ爲シタルコトヲ認識シ得ルトキハ代理關係ノ記載トシテ適式ナルモノニシテ本人ニ對シ其效力ヲ生スルモノトス　八　六二四

同主旨判例四〇年一七九九頁

○代理人カ其權限內ニ於テ本人ノ爲メニ手形ノ振出又ハ裏書等ヲ爲スニ當リ自己ノ名ヲ署セス又ハ之ニ代ハリ記名捺印ヲ爲サスシテ直接ニ本人ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲スモ其行爲ハ手形行爲トシテ有效ニシテ本人ニ對シ效力ヲ生スルモノトス唯代理ノ權限カ單ニ委任ノ旨趣ノミニ依リテ定マルヘキ場合ニ於テハ代理人カ直接ニ本人ノ名ヲ署シ又ハ之ニ代ハル記名捺印ヲ爲スニ付テ特ニ授權アルコトヲ必要トスルモノトス　九　六〇六

○代理人ノ手形振出ノ權限ノ有無ニ關スル事項ハ手形振出ノ能力ノ有無ト同シク必スシモ手形ニ記載シタル振出ノ日時ノミニ依リ決スヘキモノニ非スシテ眞實ノ振出ノ日時ニ依據シテ定ムヘキモノトス　一〇　一七〇〇

○代理人カ小切手ヲ振出シタル場合ニ小切手面ニ本人ノ爲メニスルコトノ記載アルヤ否ヤノ事實ト代理人カ本人ノ爲メニ小切手振出ノ權限アルヤ否ヤ又ハ權限ナシトスルモ第三者カ振出ノ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシヤ否ヤノ問題トハ全ク別箇ノ關係ニシテ前者ハ單ニ

小切手ノ文言自體ニ依リテノミ決定スヘキモノナリト雖モ後者ハ代理ニ關スル一般ノ法則ニ依リ律スヘキモノナルヲ以テ諸般ノ證據方法ニ依リ判定スルコトヲ得ルモノトス　一〇　一四〇〇

（第四百三十七條）

『第四百三十七條』

○變造シタル手形ニ署名シタル者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定セラルルモノナルコトハ商法第四百三十七條第二項ニ規定スル所ナルヲ以テ手形カ變造ニ係ルコトカ立證セラレタルトキハ署名者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定セラレ從テ一應變造後ノ文言ニ付キ其責ヲ免カルモノナルニ依リ手形上ノ權利ヲ主張スル者ニ於テ變造後ノ署名ニ係ルコトヲ立證スルニ非サレハ署名者ニ對シ變造後ノ文言ニ從ヒ其權利ヲ主張スルヲ得サルモノトス　九　一四五五

（第四百四十條）

『第四百四十條』

○商法第四百四十條但書ニ所謂直接ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由トハ前者ニ對スル抗辯權ノ存在スルコトヲ知リ乍ラ惡意ヲ以テ其手形ヲ取得シタル者ニ對スル對抗事由ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス　八　一五四四

○手形債權ハ裏書ト證書ノ交付ニ依リテ輾轉スルモノニシテ被裏書人ハ振出人ト裏書人タル原債權者トノ間ニ如何ナル事由ノ存在スルヤヲ調査スルノ義務ヲ有スルモノニ非サレハ縱振合出人カ原債權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ヲ有スルモ苟モ其事由ノ存在ヲ知悉セス善意ニ裏書ヲ受ケタル手形取得者ニ對シテハ其事由ヲ以テ對抗スルコトヲ得サルモノトス　八　二一七

○鑛業試掘權賣買代金ニ代ヘテ振出シタル手形ノ被裏書人丙ハ該試掘權ノ賣買ノ際賣主タル乙ノ代理人トシテ其契約ニ干與シタルモ鑛石ノ見本ハ係爭鑛區ヨリ採取シタルモノト確信シ居リ他ノ鑛區ヨリ採取セラレタルコトハ毫モ之ヲ知ラス從テ賣買カ要素ノ錯誤ニ因リ無效ニ歸シタル事實ハ全然之ヲ了知セサルヲ以テ振出人甲ハ右賣買ノ無效ニ歸シタル事由ヲ以テ原債權者タル乙ニ對抗スルコトヲ得ルモ之ヲ知悉セサル被裏書人タル丙ニ對抗スルコト能ハサルモノトス　八　二一七

○手形上ノ權利義務ハ手形行爲ニ基キ發生スルモノナレハ手形行爲ヲ爲スニ至リタル原因ノ有效無效ニ依リ消長スルモノニ非スト雖モ手形授受ノ直接當事者間ニ在リテハ債務者ハ原因ノ無效ナル事由ヲ以テ手形上ノ請求ヲ拒絕スルコトヲ得ルモノトス　九　三〇一

○取引所以外ニ於テ取引所ノ定期取引ト同一ノ方法ニ依リ定期米ノ取引ヲ爲スハ公序良俗ニ反スル無效ノ行爲ナルヲ以テ斯ル無效ノ取引ニ於

ケル證據金ノ支拂ノ爲メニ手形ヲ授受スルモ其直接當事者間ニ在リテハ手形上ノ權利關係ヲ發生スルコトナケレハ振出人ハ此事由ヲ主張シテ受取人ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス　九　三〇一

○手形債務者カ手形金額ノ一部ヲ辨濟シタルトキハ手形ニ記載ナシト雖モ之ヲ以テ其直接當事者タル手形所持人ニ對抗スルコトヲ得ヘキコトハ商法第四百四十條但書ニ依リテ明カナルヲ以テ手形所持人ハ辨濟ヲ受ケサル殘額ニ付キ手形金ノ請求ヲ爲シ得ヘク手形ハ一部辨濟ノ爲メ效力ヲ失フモノニ非ス　八　三八

（第四百四十四條）

『第四百四十四條』

同主旨判例五年一八四九頁

○商法第四百四十四條ニ所謂其受ケタル利益トハ約束手形ニ在リテハ振出人カ手形ノ基本關係ニ付キ振出ノ對價トシテ現實ニ受ケタル利益ヲ指稱スルモノニシテ其對價ハ積極的ニ金員ノ交付ヲ受ケタル場合ノミナラス消極的ニ既存債務ノ支拂ヲ免レタルトキヲモ包含スルモノトス　九　一六四

同主旨判例四五年三九七頁

○商法第四百四十四條ノ償還請求權ハ手形行爲ニ因リテ生スルモノニシテ其他何等ノ商行爲ニ因リシ得ヘキ時ヨリ十年ヲ經過スルニ因リテ消滅スルモノトス　八　三八

○手形授受ノ基本關係カ商行爲ニ基クト否トヲ問ハス商法第四百四十四條ノ適用アルモノトス　八　三八一

同主旨判例三八年一三九二頁

○手形ノ振出人又ハ引受人カ手形上ノ債務ヲ負擔スルハ振出人又ハ引受人トシテ手形ニ署名セルカ爲メニシテ利益ヲ取得シタルト否トニ拘ハラサルモノナレハ時效又ハ手續ノ欠缺ニ因リ其債務ヲ免レタリトテ常ニ手形面ノ金額ニ相當スル利益ヲ受ケタルモノト速斷スルヲ得サルモノトス　九　二一三

○既ニ成立セル消費貸借ニ因ル債務ノ消滅ヲ手形ノ支拂ニ係ラシメタル場合ニ於テハ手形ノ支拂ナキ限リ既成ノ消費貸借上ノ債務ハ現存スルヲ以テ該手形所持人カ手續ノ欠缺ニ因リ手形上ノ權利ヲ喪失シ其支拂ヲ受クル能ハサルニ至リタル場合ト雖モ從前ノ消費貸借關係ニ基キ其債權ヲ行使シ得ヘク從テ商法第四百四十四條ノ規定ニ基キ利得償還ノ請求權ヲ行使スルコトヲ得サルモノトス　九　四七六

同主旨判例四五年三九七頁

○商法第四百四十四條ノ償還請求權ハ手形行爲ニ因リテ生スルモノニ非サルハ勿論其他何等ノ商行爲ニ因リテ生スルモノニモ非サルヲ以テ普通債權ニ對スル時效ヲ適用シ其權利ヲ行使シ得ル時ヨリ十年ヲ經過スルニ依リテ消滅スルモノトス　一〇　三一四

第二章　爲替手形

第一節　振出

○爲替手形ニ滿期日ヲ記載シ受取人ノ氏名ヲ記入セサル儘振出シタル場合ニ於テ振出人ハ受取人又ハ其後ノ所持人カ支拂ヲ請求スル迄ニ補充スルトキハ始メヨリ補充アリタル手形ニ署名シタルト同樣ノ責任ヲ負擔スヘキ意思ヲ以テ振出シタルモノナルトキハ其補充ハ滿期日以前又ハ遲クモ其後二日ノ期間內ニ爲ササルヘカラス　九

○約束手形カ保證ヲ爲シタル取締役個人ノ資格ニ於テ振出サレタルトキハ其保證ハ當該保險事業ノ遂行ニ必要ナルモノニハ非スシテ寧ロ取締役個人ノ爲メニ爲サレタルモノト解スルヲ相當トス　一〇

○甲カ乙ニ賣渡シタル物品ヲ乙カ更ニ丙ニ賣渡シタル場合ニ乙カ甲ニ對スル代金支拂ノ債務ヲ確保スル爲メニ丙ヲシテ甲宛ノ約束手形ヲ振出交付セシムルモ不當ニ非サルモノトス　一〇

（第四百四十五條）

『第四百四十五條』

○受取人ノ氏名又ハ商號ヲ缺ク手形ハ無記名式ノ手形ニ限ルモノニ非ス所謂白地手形ニ在リテモ亦其記載ヲ缺キ此手形ノ所持人ハ後日之ヲ補

充シテ手形要件ヲ完備スルコトヲ得ヘク而シテ手形ニ「又ハ其指圖人ヘ」トノ文字ノ記載アルトキ此文字ヲ有意義ノモノト解スレハ一應之ヲ白地手形ナリト認ムルコトヲ得サルモノニ非ス　一〇

○持參人拂小切手ハ輾轉シテ善意ノ第三者ノ所有ニ歸シ得ヘキ性質ヲ帶有スルモノナルヲ以テ該小切手カ遺失物ニシテ遺失者ニ於テ振出人ヲ通シ支拂人ニ對シテハ支拂ヲ拒絕セラレタキ旨ヲ依賴シ支拂人之ヲ承諾シ又遺失者カ振出人ト約スルニ該遺失小切手カ發見セラレタル場合ニハ之ヲ振出人ニ返還スヘキ條件ノ下ニ別ニ同金額ノ小切手ヲ振出シタル關係アルモ如上遺失小切手カ縱令稀有ノ事ナリトモ善意ノ取得者ニ歸シタル場合ニ於テハ償還義務者タル振出人ハ之ニ對シテ直接抗辯權ヲ有セサルノ結果券面ノ金額ヲ支拂ハサルヘカラサルモノトス　一〇

（第四百五十七條）

（聯）

反對判例五年一三〇八頁

第二節　裏書

『第四百五十七條』

○手形行爲カ其方式的要件ヲ具備スルヤ否ヤ一ニ其要件カ手形ニ記載セラレタルヤ否ニ依リ決スヘク其記載カ眞實ニ符合スルト否トハ之ヲ問ハストスルハ唯手形ニ記載シタル手形行爲ノ要件事項カ眞實ニ符合セサルモ手形行爲ノ成立ニハ影響スル所ナキヲ謂フニ過キサレハ此論理

ヲ他ニ推及シ如何ナル場合ニ於テモ一ニ手形ニ記載シタル所ニ從フヘク其記載ノ眞實ニ符合スルト否トヲ問フヲ得サルモノト論スルコトヲ得ス

八　八二

（聯）○手形ノ裏書カ手形ニ記載シタル日ニ成立シタルニ非スシテ眞實裏書ノ成立シタルハ支拂拒絶證書作成期間經過後ナリトセハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得スルニ過キス從テ眞實裏書ノ成立シタル日如何ハ被裏書人ト裏書前ノ手形債務者トノ間ノ權利關係ニ影響ヲ及ホスモノナレハ支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏書ナリヤ否ハ眞實裏書ノ成立シタル日ニ從ヒテ之ヲ決スヘキモノトス

八　八二

（聯）○手形ニ記載シタル手形行爲ノ要件事項カ眞實ニ符合セサルトキハ手形行爲ノ成立ニ關セサル點ニ於テ當事者ノ權利義務ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ニ在リテハ手形ニ記載シタル所ニ依ラスシテ眞正ノ事實ニ從フヘキモノトス

八　八二

○白地裏書アル手形ノ所持人ハ其裏書カ最後ノ裏書人マテ形式的ニ連續スルトキハ手形債務者ニ對シ其手形ノミヲ以テ有效ニ之カ權利ヲ行使シ得ヘキコトハ商法第四百六十四條第一項同第四百五十七條第二項等ノ規定ニ徵シ明白ナルヲ以テ手形ノ債務者ニ於テ或裏書ノ眞正ニ成立シタルコトヲ否認シ從テ手形所持人カ正當ノ權利者ニ非サルコトヲ主張スルニハ之カ立證ヲ爲スコトヲ要スルモノトス

一〇　六三七

（第四百六十二條）

『第四百六十二條』

○小切手ノ所持人カ一度之ヲ呈示シタル以上ハ縱令呈示期間經過前ナリト雖モ支拂期日ハ到來スルヲ以テ右期日後二日ヲ經過シタル裏書讓渡ハ支拂拒絶證書作成期間經過後ノ讓渡トシテ商法第四百六十二條前段同第五百三十七條ノ適用ヲ受クヘキモノトス

八　三六五

○如上ノ場合ニ於テ受取人ヨリ該手形ニ付キ支拂拒絶證書作成期間經過後裏書讓渡ヲ受ケタル者ハ商法第四百六十二條ニ依リ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得スルモノナレハ振出人ハ被裏書人ニ對シテモ右事由ヲ主張シテ手形上ノ請求ヲ拒絶シ得ルモノトス（第四百四十條九年三月一日參照）

九　三〇一

（第四百六十四條）

『第四百六十四條』

○白地裏書アル手形ノ所持人ハ其裏書カ最後ノ裏書人マテ形式的ニ連續スルトキハ手形債務者ニ對シ其手形ノミヲ以テ有效ニ之カ權利ヲ行使シ得ヘキコトハ商法第四百六十四條第一項同第四百五十七條第二項等ノ規定ニ徵シ明白ナルヲ以テ手形ノ債務者ニ於テ或裏書ノ眞正ニ成立

シタルコトヲ否認シ從テ手形所持人カ正當ノ權利者ニ非サルコトヲ主張スルニハ之カ立證ヲ爲スコトヲ要スルモノトス　一〇

第五節　支拂

（第四百八十四條）

『第四百八十四條』

○手形債務者カ手形金額ノ一部ヲ辨濟シタルトキハ手形ニ記載ナシト雖モ之ヲ以テ其直接當事者タル手形所持人ニ對抗スルコトヲ得ヘキコトハ商法第四百四十條但書ニ依リテ明カナルヲ以テ手形所持人ハ辨濟ヲ受ケサル殘額ニ付キ手形金ノ請求ヲ爲シ得ヘク手形ハ一部辨濟ノ爲メ效力ヲ失フモノニ非ス　六三七

第六節　償還ノ請求

（第四百八十七條）

『第四百八十七條』

○商法第五百十四條第五百十五條ニ於ケル手形ノ呈示ハ公證人又ハ執達吏ノ行爲ナレトモ其呈示ハ手形所持人ノ爲シタル呈示ト同一ノ效力ヲ生スルモノニシテ公證人又ハ執達吏ハ其呈示ニ付キテハ法律上手形所持人ノ代理人ナリト解スルヲ相當トス從テ商法第五百十四條ト同法第四百八十七條トハ手形ノ呈示ニ付キテ矛盾スル所ナク手形ノ所持人ハ公證人又ハ執達吏ヲシテ手形ノ呈示ヲ爲サシムルト自ラ之ヲ爲ストノ自由ヲ有スルモノトス　一〇

（第四百八十八條）

『第四百八十八條』

○手形ノ所持人カ其前者ニ對スル償還請求權ヲ行使スルニハ手形金ノ支拂ヲ求ムル爲メニ手形ノ呈示ヲ爲スコトヲ必要トスルコトハ商法第四百八十七條ノ規定スル所ナレトモ同條ハ其呈示ヲ以テ所持人ニ專屬スル行爲ト爲シ他ノ方法ニ依ル呈示ヲ禁止スルモノト解スルコトヲ得サルモノトス　一〇

（第四百九十一條）

『第四百九十一條』

○償還請求ヲ受ケタル手形ノ裏書人ハ償還ヲ爲スニ對シテ手形ヲ取得シ之ニ因リ以前有セシ手形上ノ權利ヲ主張シ得ル地位ニ置カルルコトヲ要スルモノナレハ償還義務者ノ回復スヘキ手形上ノ權利カ有效ニ存在スルコトハ償還請求ニ缺クヘカラサル條件ナリトス從テ約束手形ノ裏書人ハ裏書當時有效ニ存在セル振出人ノ手形債務カ償還請求ヲ受クル當時既ニ支拂其他ノ事由ニ因リテ消滅シタルトキハ其手形ハ振出人ニ對スル手形上ノ權利ニ關シテハ無效ト爲リ之ヲ取得スルモ振出人ニ對シ權利ヲ主張スルヲ得サルカ故ニ斯ル手形ヲ以テスル所持人ノ償還請求ニ對シテハ之ニ應スヘキ義務ナキモノトス　一〇

○商法第四百九十一條第一號ニ所謂滿期日以後ノ法定利息ハ遲滯ニ因ル利息ニ非スシテ手形所持人カ滿期日ニ手形金ヲ受取ルコトヲ得ス爲メニ之ヲ利用シ得サルニ償還義務者ハ滿期日ニ手形ノ支拂ナキトキ當然償還セサルヲ得サル地位ニ在リ乍ラ償還金額ヲ利用シ得ルヲ以テ之カ均衡ヲ得セシメンカ爲メニ法律上認メタル利息ナルヲ以テ該利息中ニハ滿期日當日ノ利息ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス　一〇　四一三

第七節　保證

○生命保險會社ノ取締役カ他人ノ振出シタル約束手形ニ付キ手形法上ノ保證ヲ爲シタルトキハ其保證ハ保險事業ニ屬スル行爲ニ非スト雖モ其事業ノ遂行ニ必要ナル限リ會社權能ノ範圍ニ屬シ會社ノ保證トシテ有效ナルモノトス　一〇　一〇〇

第九節　拒絕證書

（第五百十四條）

『第五百十四條』

○商法第五百十四條第五百十五條ニ於ケル手形ノ呈示ハ公證人又ハ執達吏ノ行爲ナレトモ其呈示ハ手形所持人ノ爲シタル呈示ト同一ノ效力ヲ生スルモノニシテ公證人又ハ執達吏ハ其呈示ニ付キテハ法律上手形所持人ノ代理人ナリト解スルヲ相當トス從テ商法第五百十四條ト同法第四百八十七條トハ手形ノ呈示ニ付キテ矛盾スル所ナク手形ノ所持人ハ公證人又ハ執達吏ヲシテ手形ノ呈示ヲ爲サシムルト自ラ之ヲ爲ストノ自由ヲ有スルモノトス　一〇　一二五一

第三章　約束手形

○約束手形ハ法律ノ特定セル形式的要件ヲ具備スルニ依リ成立スル證券ニシテ此要件ヲ具備スルモノハ約束手形タルノ性質及ヒ效力ヲ有シ其證券ニ指圖文句ノ記載アルモ之ニ他ノ指圖債權證券タルノ性質及ヒ效力ヲ付與スルモノニ非ス　八　一六五九

○約束手形ハ時效ニ因リ債權消滅シタルトキト雖モ唯效力ヲ失ヒタル死證券タルニ止マリ之カ爲メ約束手形タルノ性質ハ依然保有スルモノナレハ振出人ニ於テ約束手形カ時效ニ因リ其效力ヲ失ヒタルヲ條件トシテ之ニ他ノ指圖債權證券タルノ性質及ヒ效力ヲ有セシムル意思ヲ以テ手形面ニ表示スルモ其意思表示ハ約束手形ヲシテ他ノ指圖債權證券タラシムルノ效力ナキモノトス　八　一六五九

（同主旨判例四三年二〇八頁）

（第五百二十五條）

『第五百二十五條』

○約束手形振出ノ要件トシテ受取人ノ氏名又ハ商號ヲ記載スヘキモノナ

ルコトハ商法第五百二十五條ニ明カナレトモ其受取人ノ氏名又ハ商號ナルモノハ手形ノ受取人ト爲ルヘキコトヲ眞實豫約シタル人ノ氏名又ハ商號ニ限ル意義ニ非サレハ苟モ手形面ニ受取人トシテ人ノ氏名又ハ商號ヲ記載スレハ其人カ手形ノ受取人ト爲ルヘキコトヲ豫約シタルト否トヲ問ハス其手形ノ振出行爲ハ叙上ノ法定要件ヲ充シタルモノニシテ他ニ缺點ナキ限リ法律上有效ナリトス

『第五百二十九條』

（第五百二十九條）

（聯）○手形ノ裏書カ手形ニ記載シタル日ニ成立シタルニ非スシテ眞實裏書ノ成立シタルハ支拂拒絶證書作成期間經過後ナリトセハ被裏書人ハ裏書人ノ有シタル權利ノミヲ取得スルニ過キス從テ眞實裏書ノ成立シタル日如何ハ被裏書人ト裏書前ノ手形債務者トノ間ノ權利關係ニ影響ヲ及ホスモノナレハ支拂拒絶證書作成期間經過後ノ裏書ナリヤ否ハ眞實裏書ノ成立シタル日ニ從ヒテ之ヲ決スヘキモノトス

（聯）○手形ニ記載シタル手形行爲ノ要件事項カ眞實ニ符合セサルトキハ手形行爲ノ成立ニ關セサル點ニ於テ當事者ノ權利義務ニ影響ヲ及ホスヘキ場合ニ在リテハ手形ニ記載シタル所ニ依ラスシテ眞正ノ事實ニ從フヘキモノトス

八　八　九

一五七八　八二　八二

（聯）○手形行爲カ其方式的要件ヲ具備スルヤ否ハ一ニ其要件カ手形ニ記載セラレタルヤ否ニ依リ決スヘク其記載カ眞實ニ符合スルト否トハ之ヲ問ハストスルハ唯手形ニ記載シタル手形行爲ノ要件事項カ眞實ニ符合セサルモ手形行爲ノ成立ニハ影響スル所ナキヲ謂フニ過キサレハ此論理ヲ他ニ推及シ如何ナル場合ニ於テモ一ニ手形ニ記載シタル所ニ從フヘク其記載ノ眞實ニ符合スルト否トヲ問フヲ得サルモノト論スルコトヲ得ス

（反對判例五年一三〇八頁）

○約束手形ノ裏書人カ償還義務ノ消滅シタルニ拘ハラス猶ホ現存スルモノト誤信シテ手形所持人ノ償還請求ニ應シ一定ノ金額ヲ支拂ヒテ手形ヲ受取リタル場合ニ於テハ裏書人ハ手形ノ所持人タル資格ヲ取得スルコトナク從テ前者ニ對シテ償還請求ヲ爲スコトヲ得サルハ勿論振出人ニ對シテモ手形上ノ權利ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

○手形ノ所持人カ法定ノ期間內ニ支拂拒絶證書ヲ作成セサルトキハ其作成ヲ免除セサル裏書人ノ償還義務ハ當然消滅スルヲ以テ其裏書人カ支拂拒絶證書ヲ作成セサル所持人ニ對シ償還義務ノ履行トシテ一定ノ金額ヲ支拂フモ之ヲ以テ法律上償還義務ノ履行ナリト謂フヲ得サレハ其支拂ニ依ル手形ノ取得ハ裏書人ヲシテ當初ノ被裏書人タル地位ヲ回復

八　八

一九三九　八二

シテ手形所持人タル資格ヲ得セシムルモノニ非ス　八　一九三九

○係爭約束手形ハ甲カ乙ニ宛テ振出シ乙カ丙ニ之ヲ裏書讓渡シタルモノナル以上ハ其裏書カ賣買代金ノ支拂ヲ保證スル旨趣ニ出テタルモノナリトスルモ此一事ニ依リ乙ハ裏書讓渡人タル責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス　八　二三三二

○係爭約束手形ニ支拂場所トシテ某銀行東京支店ト記載シアルトキハ東京市内ニ某銀行支店アリトシ其支店ノ場所ヲ以テ支拂ノ場所ト定メタル意義ナリト解スヘキヲ以テ其支拂場所ノ所在地ナル東京市ヲ以テ該手形ノ支拂地ト定メタルモノト謂ハサルヘカラサルモノトス　九　四三一

同主旨判例五年一二九九頁

○甲カ乙ニ對スル約束手形ヲ裏書讓渡スルニ際リ所持人ニ對シ支拂拒絶證書作成ヲ免除シタルトキハ其手形ノ所持人ト爲リタル丙ハ甲ニ對シ償還ノ請求ヲ爲スニ當リ支拂拒絶證書作成ノ期間内ニ振出人ニ支拂ヲ求ムル爲メ手形ヲ呈示シタルモノト推定セラルルヲ以テ其呈示ノ事實ヲ立證スルコトヲ要セスシテ却テ甲ニ於テ呈示ナカリシ反證ヲ擧クルノ責任アルモノトス　九　四六二

○手形債務者カ手形金額ノ一部ヲ辨濟シタルトキハ手形ニ記載ナシト雖モ之ヲ以テ其直接當事者タル手形所持人ニ對抗スルコトヲ得ヘキコトハ商法第四百四十條但書ニ依リテ明カナルヲ以テ手形所持人ハ辨濟ヲ受ケサル殘額ニ付キ手形金ノ請求ヲ爲シ得ヘク手形ハ一部辨濟ノ爲メ效力ヲ失フモノニ非ス　九　一六四四

第四章　小切手

（第五百三十二條）

『第五百三十二條』

○小切手ハ設權證券ノ一ナレハ其振出要件ヲ具備スル以上ハ振出ノ當時資金關係カ支拂銀行トノ間ニ存在スルト否トヲ問ハス有效ニシテ後日其資金ヲ支拂銀行ニ振込ムヘキ約定ニテ賣買ノ手附金ノ支拂ニ代ヘ受取人ノ承諾上小切手ヲ授受シタル場合ニ於テハ縱令資金關係カ其授受ノ當時支拂銀行トノ間ニ現存セサルモ約ニ從ヒ後日ノ振込ニ依リ之ヲ存在セシメ得ヘキモノナレハ偶〻不渡ト爲リタレハトテ小切手ノ一覽拂タル性質ヲ害スルモノニ非ス又商法第五百三十六條ノ制裁ヲ免カレントスル脫法行爲ニモ非サルモノトス　九　六六九

（第五百三十六條）

『第五百三十六條』

○小切手ハ設權證券ノ一ナレハ其振出要件ヲ具備スル以上ハ振出ノ當時資金關係カ支拂銀行トノ間ニ存在スルト否トヲ問ハス有效ニシテ後日

其資金ヲ支拂銀行ニ振込ムヘキ約定ニテ賣買ノ手附金ノ支拂ニ代ヘ受取人ノ承諾上小切手ヲ授受シタル場合ニ於テハ縱令資金關係カ其授受ノ當時支拂銀行トノ間ニ現存セサルモ約ニ從ヒ後日ノ振込ニ依リ之ヲ存在セシメ得ヘキモノナレハ偶〻不渡ト爲リタレハトテ小切手ノ一覽拂タル性質ヲ害スルモノニ非ス又商法第五百三十六條ノ制裁ヲ免カレントスル脫法行爲ニモ非サルモノトス

（第五百三十七條）

『第五百三十七條』

○小切手ノ所持人カ一度之ヲ呈示シタル以上ハ縱令呈示期間經過前ナリト雖モ支拂期日ハ到來スルヲ以テ右期日後二日ヲ經過シタル裏書讓渡ハ支拂拒絕證書作成期間經過後ノ讓渡トシテ商法第四百六十二條前段同第五百三十七條ノ適用ヲ受クヘキモノトス

（第六百五十三條）

第五編　海商

第六章　保險

『第六百五十三條』

○苟モ保險契約ニ於テ保險價額ヲ定メタル以上ハ其過當ナルヤ否ハ別論トシテ其定メナキモノト謂フヲ得サレハ之ヲ保險價額ノ定メナキ場合ト同視スルヲ得サルモノトス

○船舶ノ保險價額カ著シク過當ナルトキハ協定シタル保險價額ノ保險金額ニ對スル比例ヲ以テ船舶ノ實價ニ應スル保險金額ヲ定ムルコトニ依リテ塡補額ヲ減少スヘキモノトス

（第六百七十五條）

『第六百七十五條』

○第一回ノ委付ニシテ有效ナレハ第二回ノ委付カ有效ナル能ハサルハ同一被保險物ニ付キ二度ノ委付ヲ爲スコト能ハサル當然ノ結果ナレハ第二回ノ委付ハ第一回ノ委付ノ無效ナルコトヲ慮リテ豫備的ニ爲シタルモノト謂フ可ク條件ヲ附シタルモノト謂フヲ得ス從テ第二回ノ委付ハ商法第六百七十五條第一項ノ要求スル單純ナル委付タルコトヲ妨ケサルモノトス

（第六百八十條）

第七章　船舶債權者

『第六百八十條』

○商法第六百八十五條第二項ニ所謂發航ニ因リテ消滅ストハ苟モ船舶カ新ニ航海ヲ始メタル事實アル以上ハ其航海開始ノ時同第六百八十條第

八號ノ先取特權ハ消滅シ其航海ヲ爲サシメタル者ノ何人タルト又其者カ船舶ヲ占有スルト否トヲ問ハサルモノト解スルヲ相當トス　八　二四一

○商法第六百八十條第八號ニ所謂艤裝ニ因リテ生シタル債權トハ艤裝ヲ請負ヒタル者ノ債權ニ限定スヘキモノニ非スシテ船舶所有者カ他人ヲ使用シテ自ラ艤裝ヲ爲ス場合ニ於テハ之ニ艤裝品又ハ其備付ニ必要ナル物品ヲ賣渡シタル者ノ代金債權ヲモ指稱スルモノト解スルヲ相當トス而シテ船舶ノ艤裝ヲ爲スニ必要ナル物品ニシテ現ニ之ヲ艤裝ニ使用シタル以上ハ賣主ニ於テ艤裝ニ使用セラルルコトヲ豫期シタルト否トヲ問ハス先取特權ヲ與フヘキモノトス　八

（第六百八十五條）

『第六百八十五條』

○商法第六百八十五條第二項ニ所謂發航ニ因リテ消滅ストハ苟モ船舶カ新ニ航海ヲ始メタル事實アル以上ハ其航海開始ノ時同第六百八十條第八號ノ先取特權ハ消滅シ其航海ヲ爲サシメタル者ノ何人タルト又其者カ船舶ヲ占有スルト否トヲ問ハサルモノト解スルヲ相當トス　九　六八一

○船舶ノ製造ニ因ル債權者カ其船舶ヲ占有スル場合ニ於テ其船舶ノ所有者カ債權者ノ意思ニ反シテ擅ニ發航ヲ爲シ航海ヲ爲サシメタルトキト雖モ其船舶債權者ノ先取特權ハ消滅スルモノトス　八　二四一

第三編　破産

第二章　破産ノ效力

（第九百九十三條）

『第九百九十三條』

○舊商法第九百九十三條ニ依リ破産宣告當時雙務契約ノ當事者雙方カ未タ其履行ニ著手セス又ハ履行ヲ終ラサルトキハ當事者雙方ヨリ無賠償ニテ其解約ノ申入ヲ爲スコトヲ得セシメタルハ專ラ契約當事者間ニ於ケル負擔ノ公平ヲ保持シ且破産手續ノ終了ヲ迅速ナラシムル旨趣ニ外ナラサレハ當事者ノ一方又ハ雙方カ其契約上ノ債權ノ全部若クハ一部ヲ第三者ニ讓渡シタル後ト雖モ尙ホ任意ニ解除權ヲ行使スルコトヲ得ヘク豫メ第三者ノ同意ヲ必要トセサルモノト解スルヲ相當トス　八　四四九

（第千十三條）

『第千十三條』

第五章　財團ノ管理及換價

○破産事件ニ付キテハ地方裁判所カ第一審トシテ一般ノ裁判權ヲ有シ從テ明治二十三年法律第三十二號商法第千十三條ノ規定ニ從ヒ破産主任官ノ爲ス命令ト之ニ對スル抗告ニ付キ破産裁判所ノ爲ス決定トハ其審級ヲ異ニセス共ニ地方裁判所カ第一審トシテ爲スモノナレハ其抗告ニ付キ破産裁判所ノ與ヘタル決定ニ對シ更ニ爲シタル抗告ニ付キテノ裁判權ハ大審院ニ在ラスシテ控訴院ニ在ルモノトス　一〇　一四九〇

第六章　債權者

第一節　債權ノ届出及ヒ確定

（第千二十七條）

『第千二十七條』

○舊商法破産編第千二十七條ニ所謂破産主任官ノ演述ハ破産裁判所ヲシテ破産事件ノ進行經過ニ關スル事情ヲ知ラシムルノ目的ニ出ツルモノニシテ即チ債權調査會ニ於テ如何ナル債權ニ對シ如何ナル異議ノ申立アリシヤノ事實關係ヲ演述スルニ止マリ債權ノ成立及ヒ異議ノ理由ニ關スル自己ノ意見ヲ發表スヘキモノニ非ス　八　一三九〇

○舊商法破産編第千二十七條ニ依リ破産裁判所ノ判決ヲ受クルニハ民事訴訟用印紙法ニ依リ訴訟印紙ヲ貼用スヘキモノニ非ス　八　一三九〇

民事訴訟法

民事訴訟法

第一編　總則

第一章　裁判所

第一節　裁判所ノ事物ノ管轄

（第六條）『第六條』

○恩給證書自體ノ返還請求ノ訴ニ在リテハ其喪失シタル場合ニ於テ之ヲ喪失セサリシト同一ノ狀態ニ回復スルニ必要ナル費用ヲ以テ請求ノ價額ナリト判定スルヲ相當トス　八

○民事訴訟法第六條ノ規定ハ財産權上ノ請求ノ訴訟ニ於テ訴訟物ヲ評價スヘキ場合ニ適用スヘキモノニシテ財産權上ノ請求ナリヤ否ノ問題ヲ解釋スルニ付キ適用スヘキモノニ非ス　八

（第七條）『第七條』

○登記請求權ノ價額ハ目的タル不動産ノ價額ニ準據スヘキモノト解スルヲ相當トス　八

○地方裁判所カ併合ノ要件ヲ具備セサル訴ニシテ本來區裁判所ノ事物ノ管轄ニ屬スルモノヲ自己ノ管轄ニ屬スルモノトシテ他ノ適法ナル訴ト分離セス其儘本案ノ審理裁判ヲ爲シタルトキハ其裁判ニ對スル控訴裁判所ニ於テハ該訴訟併合ヲ以テ不適法ナリトシテ辯論ノ分離ヲ命スルコトヲ得レトモ區裁判所ノ事物ノ管轄ニ屬スル訴ニ付テハ管轄違ノ理由ニ依リ之ヲ却下スルコトヲ得サルモノトス

第二節　裁判所ノ土地ノ管轄（裁判籍）

（第十八條）

『第十八條』

○民事訴訟法第十八條ハ當事者間ニ存在スル法律關係ノミナラス當事者ノ一方ト第三者間ノ法律關係ト雖モ苟モ當事者間ニ其存在不存在ヲ確認セシムル法律上ノ利益アルトキハ之ニ付キ確認訴訟ヲ提起シ得ルモノト解スルヲ相當トス

第四節　裁判所ノ管轄ニ付テノ合意

（第二十九條）

『第二十九條』

○當事者カ合意ヲ以テ管轄裁判所ヲ定ムルニハ書面ヲ以テスルコトヲ要スレトモ其合意ハ必スシモ一箇ノ書面ニ表示セラルルコトヲ要セス申込ト承諾トカ各別ノ書面ヲ以テ爲サルルコトヲ妨ケス而シテ其申込ハ

八	二三二四	
九	二〇七	

特定ノ人ニ對シテノミナラス一定ノ權利關係及ヒ其權利關係ヨリ生スル訴訟ニ關シ當事者ト爲ルヘキ不定ノ人ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘク管轄裁判所ト爲スヘキ裁判所モ一定シ得ヘキヲ以テ足リ申込當時既ニ具體的ニ一定セルコトヲ要セサルモノトス

（第三十條）

『第三十條』

○民事訴訟法第三十條ニ所謂本案ノ辯論トハ被告ニ即テ云ヘハ被告カ原告ノ主張スル訴訟ノ目的タル權利又ハ法律關係ニ付キ事實又ハ法律上ノ陳述ヲ爲スヲ謂フモノトス

○訴訟當事者ノ爲ス一定ノ申立ハ口頭辯論ノ一部ニ屬スルモノナレトモ通簡常單ニ其求ムル判決ノ要點ヲ擧クルニ過キスシテ事實理由ヲ說明セサルモノナレハ當事者ニシテ特ニ事實理由ヲ說明シタル一定ノ申立ヲ陳述シタル場合ハ格別普通ノ形式ニ依レル簡單ナル一定ノ申立ヲ陳述スルノミニテハ訴訟ノ目的タル權利又ハ法律關係ニ付キ事實上又ハ法律上ノ辯論ヲ爲シタルニ非サルヲ以テ本案ノ辯論ヲ爲シタルモノト謂フヲ得サルモノトス

○當事者ノ合意ニ因リ設定セラレタル管轄ハ法定ノ專屬管轄ニ非サルヲ以テ裁判所ハ職權ヲ以テ斯ル管轄ノ有無ヲ調査スルノ職責ナク又當事

一〇	四三四	
九	一四九五	
九	一四九五	

者ハ其合意ニ因ル管轄權ヲ有スル裁判所ノ裁判ヲ受クル權利ヲ拋棄シ他ノ裁判所ノ裁判ヲ受クルコトヲ妨ケラルルコトナキヲ以テ訴訟カ他ノ裁判所ニ繫屬スル場合ニ於テ當事者カ管轄違ノ申立ヲ爲サスシテ本案ノ口頭辯論ヲ爲シタルトキハ民事訴訟法第三十條ニ依リ該裁判所カ管轄權アル裁判所トシテ裁判ヲ爲スヘキモノトス

（第三十一條）

『第三十一條』

○會社ノ帳簿書類ノ閲覽ヲ求ムル權利ハ財産上ノ價値アルモノナレハ其閲覽ヲ爲ス權利ヲ行使スルハ財産權上ノ請求ノ訴訟ナリト謂フヘク從テ民事訴訟法第三十一條第一號ニ該當セサルモノトス　一〇

（第三十二條）

第五節　裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避

『第三十二條』

○民事訴訟法第三十二條第四號ニ所謂判事カ不服ノ申立アル裁判ヲ爲ストハ判事カ不服ヲ申立テラレタル前審裁判ニ干與シタル場合ヲ指稱シ第一審ノ口頭辯論ニ裁判長トシテ列席シタル判事ト雖モ單ニ證據申請ニ對スル裁判ヲ爲シ證人訊問ヲ決定シタルニ止マリ其判決ニ干與セサル以上ハ第二審ニ於テ其職務ノ執行ヨリ除斥セラルヘキモノニ非ス　一八六一

○判事カ第一審ノ口頭辯論ニ列席シ當事者ノ陳述證據ノ申出及ヒ證據調　九　二一七

ノ申立ヲ聽キ之ニ對スル決定ヲ爲シ證人訊問檢證等ヲ爲シタル後第二審ノ審理ヲ爲スモ民事訴訟法第三十二條第四號ニ所謂前審ノ裁判ニ干與シタルモノトシテ職務ノ執行ヨリ除斥セラルルモノニ非ス　一〇　一〇九一

（第三十七條）

『第三十七條』

○忌避ノ申請ニ付キテノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ口頭辯論ヲ經ルト否トハ一ニ裁判所ノ職權ニ屬シ當事者ヨリ口頭辯論ノ開始ヲ申請スルコトハ訴訟法上當然ノ權利ニ非サレハ裁判所ハ其申請ニ對シ許否ノ決定ヲ爲スヘキ義務ナキモノトス　一〇　一六〇二

第六節　檢事ノ立會

（第四十二條）同主旨判例四一年三八九頁

『第四十二條』

○民事訴訟法第四十二條ハ同條ニ列記セル訴訟ノ口頭辯論ニ檢事ノ立會フヘキコトヲ規定シタルニ過キスシテ其立會アルニ非サレハ辯論及ヒ裁判ヲ爲スヘカラサルコトヲ規定シタルモノニ非ス　九　二〇八〇

○裁判所カ檢事ニ對シ其立會フヘキ事件ノ通知ヲ爲スニハ訴訟記錄ニ添附スヘキ書面ヲ以テスルノ要ナキヲ以テ訴訟記錄中斯ル書面ナケレハトテ通知ヲ爲ササリシモノト謂フヲ得ス　九　二〇八〇

第二章　當事者

第二節　共同訴訟人

（第四十八條）

『第四十八條』

○數人ノ當事者ニ對スル別異ノ訴ヲ併合シ一通ノ訴狀ニ依リ之ヲ提起シタル場合ニ於テ其訴カ民事訴訟法第四十八條ノ要件ヲ具備セサルトキハ訴ノ併合自體カ不適法ナルニ止マリ併合セラレタル各箇ノ訴ハ他ニ訴訟條件ノ欠缺ナキ限リ適法ナリトス而シテ斯ノ如キ場合ニ於テハ裁判所ハ同第百十八條ニ依リ併合ノ要件ヲ缺キタル各箇ノ訴ニ付キ辯論ノ分離ヲ命シテ訴訟併合ノ不適法ヲ除却スヘキモノニシテ訴全部ヲ却下スヘキモノニ非ス

○共有ニ係ル用水專用權其モノノ確認訴訟ヲ提起スルニハ共有者全員ニ於テスルコトヲ要シ各自單獨ニテ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

同主旨判例五年一二〇〇頁

（第五十條）

『第五十條』

○民事訴訟法第五十條ニ所謂總テノ共同訴訟人ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ場合ト雖モ必スシモ共同訴訟人ノ一人ニ生シタル判決ノ效力カ法律上他ノ共同訴訟人ニ對シ當然其效力ヲ及ホスヘキ場合ニノミ限ルヘキモノニ非スシテ係爭權利關係カ其性質上各共同訴訟人ニ對シ同一旨趣ノ判決ヲ爲スニ非サレハ訴訟ノ目的ヲ達スルコトヲ得サル場合ヲモ包含スルモノトス

○經界確定ノ訴ニ就キ爲ス判決ハ創設的判決ニ非スシテ宣言的判決ニ過キサルカ故ニ原告所有ノ土地カ偶抵當權ノ目的タルコトアリトスルモ土地所有者ハ抵當權者ト共同スルニ非サレハ訴ヲ提起スルコト能ハサルモノト謂フヲ得ス

○民事訴訟法第五十條第一項ニ所謂權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ場合トハ數人共同シテ訴訟ヲ爲スニ非サレハ訴カ適法ト爲ラサル場合ハ勿論其然ラサル場合ト雖モ一旦數人カ共同訴訟人ト爲リタル以上ハ該共同訴訟人ニ對シ同一旨趣ノ判決ヲ爲スニ非サレハ訴訟ノ目的ヲ達スルコト能ハサル場合ヲモ謂フモノトス

○甲ノ引受ケタル新株式カ內部關係ニ於テ他ノ乙丙ト共有ニ屬スル場合ニ於テ共有者乙カ約定ノ旨趣ニ從ヒ各自ニ之ヲ分配スヘキコトヲ請求スル訴ニ在リテハ該請求タルヤ民法第二百五十六條及ヒ第二百五十八條ニ所謂共有物ノ分割ヲ請求スルモノニ非サルヲ以テ原告乙カ甲丙ヲ共同被告ト爲ササルモ不適法ニ非サルモノトス

○總テノ共同原告ニ對シ訴訟ニ係ル權利關係カ合一ニノミ確定スヘキ場合ト雖モ本來各別ニ訴ヲ起シ得ヘキ原告カ共同シテ訴ヲ起シタル場合ニ在リテハ各共同原告ハ民事訴訟法第五十條ニ定メタル制限ノ下ニ各別ニ訴訟行爲ヲ爲シ得ルカ故ニ單獨ニ訴ノ取下ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　一〇

○原告カ係爭健物ノ所有權ニ基キ之ニ住居スル甲乙及ヒ丙等ニ對シ住居スヘキ權利ナキモノトシテ該建物ノ明渡ヲ請求スル場合ニ於テ各被告カ原告ニ對シ係爭建物ニ住居スヘキ權利ヲ有スルヤ否ハ被告各自ノ原告ニ對スル關係如何ニ依リ之ヲ定ムヘキモノナレハ各被告ト原告トノ權利關係ハ合一ニ確定スヘキモノニアラス從テ民事訴訟法第五十條第四項第五項ヲ適用スヘカラサルハ當然ナリ　二八九

○民事訴訟法第五十條第四項ニ所謂期間ハ故障期間上訴期間及ヒ再審期間ノ如キ總テノ不變期間ヲ包含スルモノト解スヘキモノトス　八

○同條項ニ依リ必要的共同訴訟人中ノ或者ノミカ上訴期間ヲ懈怠シタルトキハ其懈怠シタル者ハ懈怠ヲ爲ササル者ニ代理ヲ任シタルモノト看做サルルヲ以テ懈怠者ハ爾後何時ニテモ上級審ノ訴訟手續ニ加ハルコトヲ得ヘク縱令之ニ加ハラサルトキト雖モ訴訟ノ當事者ニ外ナラサル　九　一九〇三

ヲ以テ裁判所カ其判決ヲ爲スニ當リテハ訴訟ノ當事者トシテ之ヲ表示シ且其總員ニ對シ同一旨趣ノ判決ヲ爲ササルヘカラサルモノトス　九　六九九

○民事訴訟法第五十條第四項ニ於テ期日又ハ期間ヲ懈怠シタル共同訴訟人ハ之カ懈怠ヲ爲ササル他ノ者ニ代理ヲ任シタルモノト看做シタルハ之ニ依リ懈怠ノ爲メニ其一部ノ者ニ生スヘキ訴訟上ノ效果ヲ除去シテ總テノ共同訴訟人ノ訴訟上ノ地位ヲ同一ニシ因テ裁判ノ效果ヲ一ニ歸セシメントスル目的ニ出ツルモノニシテ法律上ノ效果ヲ他人ニ歸セシムル目的ヲ以テ一人カ他人ノ爲メニ意思ヲ表示シ又ハ之ヲ受ケシムル所謂法定代理又ハ委任代理ト同視スヘキモノニ非サレハ判決ニ當事者ヲ表示スルニ當リ其懈怠ヲ爲ササル者ヲ懈怠シタル者ノ代理人トシテ掲記スヘキモノニ非ス　六九九

○必要的共同訴訟ニ於テ民事訴訟法第五十條第五項ニ依リ懈怠シタル共同訴訟人ニ對シ其懈怠セサリシ場合ニ於テ爲スヘキ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スコトヲ命シタルハ其懈怠シタル共同訴訟人ヲシテ何時タリトモ訴訟手續ニ再ヒ參加スルノ便宜ヲ得セシムルノ旨趣ニ出ツルモノナルヲ以テ判決ノ基本タル最終ノ口頭辯論期日ノ呼出ヲ爲シ訴訟ニ參加スヘキ適法ノ機會ヲ與ヘタル以上其前ノ口頭辯論期日ニ於テ送達及ヒ

呼出手續ニ缺クル所アリトスルモ之カ爲メ適法ナル基本辯論ニ基キ言渡シタル判決ノ效力ニ影響ヲ來タササルモノトス

第三節　第三者ノ訴訟參加

『第五十一條』（第五十一條）

九　一七六七

○當事者カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テ之ニ對シ民事訴訟法第五十一條第一項ノ規定ヲ適用スヘキヤ否ノ問題ハ單ニ原告ノ主張事實ノミニ依リテ之ヲ決スヘキモノニシテ又其主張事實ノ當否ハ本案ニ於テ判斷スヘキ事項ナリトス

八　二四一九

○原告ノ主張事實ニ基キ審査シタル結果主參加ノ要件ヲ具備セス民事訴訟法第五十一條第一項ヲ適用スヘカラサルモノト認メタルトキハ同條所定ノ管轄權ヲ有セス且同條ニ依リ訴ノ併合ヲ許スヘキモノニ非スト雖モ之カ爲メ直ニ訴ヲ却下シ得ヘキモノニ非ス

八　二四一九

○縱令主參加訴訟トシテ提起シタル訴ニシテ民事訴訟法第五十一條ノ管轄權ナキモ一般ノ規定ニ依リ管轄權ヲ有スルトキハ其訴ニ付キ管轄權ヲ有スルモノト爲スヘク又同條ニ依リ訴ノ併合ヲ許ササルモノトスルモ共同訴訟ニ關スル一般ノ原則ニ從ヒ其處置ヲ爲スヘキモノトス

『第五十四條』（第五十四條）

八　六三九

○從參加人カ闕席判決ニ對シ故障ヲ申立テ其後口頭辯論ニ於テ右申立カ適法ノモノトシテ受理セラレタルトキト雖モ從參加人ノ附隨セル主タル當事者ハ其相手方ノ同意ヲ得テ從參加人ノ爲シタル故障ヲ有效ニ取下ケ得ルモノトス

○民事訴訟法第五十四條第二項但書ノ規定ハ債權者カ其債務者ト他人トノ間ニ繫屬スル訴訟ニ債務者ノ從參加人トシテ參加シタル場合ニ在リテハ民法第四百二十三條ノ規定ニ從ヒ債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得ルヲ以テ其補助スル主タル當事者ノ陳述及ヒ行爲ヲ爲スモ之ヲ以テ標準ト爲スコトヲ得サルニ非サル旨ヲ明示シタルニ他ナラサルモノトス

九　一六八五

○養子緣組無效ノ訴ニ於テ主タル當事者ハ從參加人ノ控訴前ニ控訴權ヲ拋棄シ又其控訴後控訴ノ取下ヲ爲シタルモノナルトキハ從參加人ノ控訴ハ主タル當事者ノ行爲ト牴觸シ本件ノ訴訟ニ付テノ標準タル行爲トスルコトヲ得サルモノトス

第四節　訴訟代理人及ヒ輔佐人

『第六十五條』（第六十五條）

九　一六八五

○訴訟代理人ハ民事訴訟法第六十五條第二項ニ依リ特別委任ヲ要スル事

○項ヲ除キ特別ノ委任ナキトキト雖モ訴訟行爲タルト同時ニ法律行爲タル性質ヲ有スル行爲ヲモ之ヲ爲シ又ハ受クル權限アルモノトス　八

○訴訟代理人カ其委任權限ニ基キ復代理人ヲ選任スルハ其當事者本人ヨリ委任セラレタル權限ニ基キ其本人ノ爲メ訴訟行爲ヲ委任スルモノニ外ナラサレハ其解任ヲ爲シタル事跡ノ徵スヘキモノナキ限リハ其訴訟代理人カ出廷シタリトテ其復代理人ハ當然其代理資格ヲ喪失スヘキモノニ非ス又其復代理人ノ代理資格ノ存否ハ其訴訟代理人ノ代理資格ニ何等ノ影響ヲ及ホスヘキモノニ非サルモノトス　二〇九六

『第六十七條』

（第六十七條）同主旨判例四年一五〇八頁

○訴訟代理人數人アリテ委任ニ別段ノ定メナキトキハ各別ニ代理スルコトヲ得ルモノナレハ其一人ノミ期日ノ呼出ヲ受ケ出頭シ辯論ヲ爲スモ訴訟手續ニ違法ナキモノトス　一〇　二一二

『第六十九條』

（第六十九條）

○法律上代理權ノ消滅ニ因ル委任ノ消滅ニ付テモ其消滅ノ通知ヲ相手方ニ爲スニ非サレハ相手方ニ對シテ其效力ヲ生セサルモノト解スルヲ相當トス　一〇　九八一

○訴訟代理人カ其委任權限ニ基キ復代理人ヲ選任シタル後其訴訟代理人カ死亡シタル場合ニハ民事訴訟法第六十九條ヲ準用スルコトヲ妨ケサルモノトス　八　二〇三二

『第七十條』

（第七十條）

○前控訴審ニ於テ委任ヲ受ケタル訴訟代理人ハ更ニ差戻後ノ同一審ニ於テ委任ヲ受ケサルモ訴訟行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　一〇　二一二

○未成年者ノ後見人カ未成年者ニ代リテ訴訟行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルヲ以テ親族會ノ同意ヲ得スシテ未成年者ニ代リテ爲シタル訴訟行爲ハ法律上代理人ノ訴訟ヲ爲スニ付キテノ特別授權ノ欠缺アルモノニシテ斯ル後見人ノ訴訟行爲ハ不適法トシテ法律上ノ效力ヲ生スルニ由ナキモノトス從テ斯ル後見人ヨリ訴訟委任ヲ爲シタル場合モ亦訴訟委任タル法律上ノ效力ヲ生スヘキニ非サルヲ以テ受訴裁判所ハ其欠缺ヲ補正セシメタル後ニ非サレハ判決ヲ爲スコトヲ得サルモノトス　九　四〇

○民事訴訟法第七十條第三項末段ハ委任欠缺ノ補正ニ關スル規定ニシテ訴訟行爲ノ追認ニ關スルモノニ非サレハ之ニ依リ訴訟行爲追認ノ當否ヲ論斷スヘカラサルモノトス　一〇　八八一

同主旨判

○下級審ニ於テ適法ノ委任ナキ訴訟代理人カ爲シタル訴訟行爲ト雖モ上　八　一七一〇

級審ニ至リ本人ノ追認ヲ受クルトキハ當初ニ遡リテ有效トナルモノトス　（例三九年二二七七頁）

第五節　訴訟費用

（第七十八條）

『第七十八條』

○訴訟費用ノ負擔ハ本案ニ對スル終局判決ノ結果ニ依リ定ムヘキモノナレハ控訴裁判所ハ第一審裁判所ノ本案ニ付キ爲シタル裁判ノ全部又ハ一部ヲ廢棄スルトキハ控訴人カ訴訟費用ノ裁判ニ對シテ不服ヲ申立テタルト否トニ關セス自ラ本案ニ付キ爲ス所ノ裁判ノ結果ニ從ヒ更ニ訴訟費用ノ全部ニ付キ裁判ヲ爲スヘキモノトス　一〇

○前審ニ於テ敗訴シタル者カ上訴ヲ爲シ前審ニ於テ主張シ得ヘカリシ事實又ハ攻擊防禦ノ方法ヲ新ニ提出シタルニ因リ勝訴者ト爲ルトキハ上訴費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得ルハ民事訴訟法第七十八條第二項ノ規定スル所ナリト雖モ前審ニ於ケル勝訴者ニシテ控訴ヲ爲シタルニ非スシテ單ニ訴ノ申立ヲ擴張シタルカ爲メ勝訴者ト爲リタルトキハ右法條ノ適用ナキモノトス　一〇

第三章　訴訟手續

第一節　口頭辯論及ヒ準備書面

（第百十一條）

『第百十一條』

○民事訴訟法第百十一條第二項ニ因リ一定ノ事實ヲ自白シタルモノト看做スニハ單ニ一定ノ事實ヲ明カニ爭ハサリシ旨ヲ判示スルヲ以テ足リ他ノ陳述ヨリ之ヲ爭フ意思ノ顯ハレサルコトヲ判示スルノ要ナキモノトス　一〇

（第百十二條）

『第百十二條』

○訴訟ニ依リ損害賠償ヲ請求スル者カ其損害額ヲモ立證スヘキ責任ヲ負フモノニシテ請求者ニ於テ損害額ニ付キ何等ノ證據方法ヲ申出テス又ハ其申出テタル證據方法カ外形上不充分ナルカ如ク見ユル場合ニ於テハ裁判長ハ民事訴訟法第百十二條第二項ニ依リ請求者ニ問ヲ發シテ適當ノ行爲ヲ促スヘキモノナレトモ斯ノ如キ事情ノ存セサル場合ニ於テハ裁判所ハ請求者ノ提出シタル證據ヲ判斷シテ損害額ノ證明セラレタリヤ否ヲ決スヘク損害額カ證明セラレスト認メタルトキト雖モ必ス檢證鑑定ヲ命シテ損害額ヲ審究スヘキ職責ヲ有スルモノニ非ス　九

（第百十七條）

『第百十七條』

○訴訟ニ依リ損害賠償ヲ請求スル者カ其損害額ヲモ立證スヘキ責任ヲ負

フモノニシテ請求者ニ於テ損害額ニ付キ何等ノ證據方法ヲ申出テス又ハ其申出テタル證據方法カ外形上不充分ナルカ如ク見ユル場合ニ於テハ裁判長ハ民事訴訟法第百十二條第二項ニ依リ請求者ニ問ヲ發シテ適當ノ行爲ヲ促スヘキモノナレトモ斯ノ如キ事情ノ存セサル場合ニ於テハ裁判所ハ請求者ノ提出シタル證據ヲ判斷シテ損害額ノ證明セラレタリヤ否ヲ決スヘク損害額カ證明セラレスト認メタルトキト雖モ必ス檢證鑑定ヲ命シテ損害額ヲ審究スヘキ職責ヲ有スルモノニ非ス

（第百十八條）

『第百十八條』

○數人ノ當事者ニ對スル別異ノ訴ヲ併合シ一通ノ訴狀ニ依リ之ヲ提起シタル場合ニ於テ其訴カ民事訴訟法第四十八條ノ要件ヲ具備セサルトキハ訴ノ併合自體カ不適法ナルニ止マリ併合セラレタル各箇ノ訴ハ他ニ訴訟條件ニ欠缺ナキ限リ適法ナリトス而シテ斯ノ如キ場合ニ於テハ裁判所ハ同第百十八條ニ依リ併合ノ要件ヲ缺キタル各箇ノ訴ニ付キ辯論ノ分離ヲ命シテ訴訟併合ノ不適法ヲ除却スヘキモノニシテ訴全部ヲ却下スヘキモノニ非ス

（第百二十一條）

『第百二十一條』

○他ノ繫屬スル訴訟ニ於テ定マルヘキ權利關係ノ成否カ本訴訟ノ裁判ニ

八　九　八

一五九一　八八〇　二三二四

對シ先決的影響ヲ有スル事項タル場合ニ本訴訟ノ繫屬スル裁判所カ之ヲ調査スル權限ヲ有セサルトキハ本訴訟ハ民事訴訟法第百二十一條ノ規定ニ則リ他ノ訴訟ノ完結ニ至ル迄之ヲ中止スヘキモノトス

○爲替訴訟ハ本來訴訟ヲ迅速ニ完結セシメ原告ヲシテ容易ニ權利ノ滿足ヲ得セシムル旨趣ニ於テ設ケラレタル特別訴訟手續ナレハ特別ノ事情ナキ限リハ民事訴訟法第百二十一條ニ基キ辯論ヲ中止セサルヲ允當ナリトス

（同主旨判例二年九○五頁）

○民事訴訟法第百二十一條ニ他ノ訴訟トアルハ先決問題タル公法上ノ爭ニ關スル訴訟カ行政裁判所ニ繫屬スル場合ヲモ包含スルモノニシテ又辯論ヲ中止スヘシトアルハ當然辯論ヲ中止セサルヘカラサルノ謂ニ非スシテ之ヲ中止スルト否トヲ裁判所ノ自由ナル意見ニ依リテ定ムルコトヲ得セシメタルモノトス

（第百二十四條）

『第百二十四條』

○閉チタル辯論ノ再開ヲ命スルト否トハ一ニ裁判所ノ專權事項ニ屬スルヲ以テ裁判所カ一度事件ノ裁判ヲ爲スニ熟スルモノト認メ辯論ヲ閉チタル後ニ於テハ縱令當事者カ其攻擊又ハ防禦方法ニ盡ササル所アリ證據ノ提出ニ缺クル所アリテ之カ補充ヲ爲サンカ爲メニ辯論再開ノ申請

一〇　九　一

一八九　一三八五

ヲ爲シ而シテ裁判所カ之ヲ採用セストスルモ是レ一ニ其專權行使ニ外ナラサレハ之ヲ以テ主張若クハ立證ノ途ヲ杜絶シタル不法アルモノト謂フヲ得サルモノトス

（同主旨判例七年五九頁）

○民事訴訟法第百二十四條ハ裁判所ハ職權ヲ以テ辯論ノ再開ヲ命シ得ヘキコトヲ規定シタルモノニシテ當事者ノ辯論再開ノ申請ニ對シ許否ノ權アルコトヲ規定シタルモノニ非サルヲ以テ當事者ハ裁判所ノ職權ノ發動ヲ促ス爲メニ辯論再開ノ申立ヲ爲スヲ得サルニ非サレトモ權利トシテ要求スルコトヲ得ルモノニ非サレハ裁判所ハ當事者ノ辯論再開ノ申請ニ對シテハ許否ノ決定ヲ爲スヲ要セサルモノトス

（第百二十九條）

『第百二十九條』

○口頭辯論調書カ無效ナル場合ニ於テモ其記載ノ內容ヲ援用シテ續行期日ノ口頭辯論調書ヲ作成スルコトヲ禁シタル法規ナケレハ之ヲ援用シテ作成シタル後ノ調書ハ有效ナリトス

（第百三十二條）

『第百三十二條』

○證人訊問調書ニ裁判所書記ノ捺印ナキトキハ調書ノ形式ヲ具備セサルモノナルヲ以テ斯ル調書ハ其記載シタル證書ノ形式的眞實ニ關シ完全ナル證明ノ效力ヲ有セス無效ニ屬スルモノナルカ故ニ斯ル調書ニ依ル

九　一四五九

一〇　二三六

八　五〇〇

證言ヲ採テ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得サルモノトス

○囑託ニ係ル審問調書ニ裁判所書記ノ署名ノミアリテ其捺印ナキモ該調書ニ添綴シ之ト分ツヘカラサル證人訊問調書ニ書記ノ署名捺印ヲ具備セル以上ハ民事訴訟法第百三十三條同第百三十二條ニ違背セル無效ノ調書ニ非サルモノトス

（第百三十三條）

『第百三十三條』

○囑託ニ係ル審問調書ニ裁判所書記ノ署名ノミアリテ其捺印ナキモ該調書ニ添綴シ之ト分ツヘカラサル證人訊問調書ニ書記ノ署名捺印ヲ具備セル以上ハ民事訴訟法第百三十三條同第百三十二條ニ違背セル無效ノ調書ニ非サルモノトス

一〇　一八一〇

九　九五六

第三節　期日及ヒ期間

（第百六十一條）

『第百六十一條』

○在廷シタル者ニ期日ヲ定メ出頭ヲ命シタルトキハ期日ノ呼出狀ヲ送達スルヲ要セサルハ民事訴訟法第百六十一條但書ノ規定スル所ニシテ同法第二百四十五條ニ依リ準用セサル同法第二百三十五條ノ規定ニ依レハ其出頭命令ハ在廷セサル一方ノ當事者ニ對シテモ亦效力ヲ有スルニヨリ之ニ對シテモ亦呼出狀ノ送達ヲ要セサルモノト解スルヲ相當ト

（同主旨判例四〇年一一〇六頁）

ス

（第百六十五條）（聯）

『第百六十五條』

○民事訴訟法第百六十五條ニ所謂期間ヲ計算スルニ日ヲ以テスルモノトハ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トス

（第百六十六條）

『第百六十六條』

○民事訴訟法第百六十六條第二項ニ依リ末日ヲ期間ニ算入セサルハ其日カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當リタルトキニ限ルヲ以テ縱令期間ノ末日カ休暇ナルモ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ非サル以上之ヲ期間ニ算入スヘキモノトス

（同主旨判例三年三頁）

○十二月二十九日ヨリ翌年一月三日迄ハ休暇ナルモ此等ノ日カ期間ノ末日タル場合ハ日曜日又ハ祝祭日ニ當ラサル限リ期間ニ算入セラルヘキハ當然ナリ

（第百六十七條）（同主旨判例二年一〇〇頁）

『第百六十七條』

○民事訴訟法第百六十七條ニ依ル仲長期間計算ノ標準タルヘキ原告若クハ被告ノ住所地ト裁判所所在地トノ間ノ距離ヲ測定スルニハ兩地ヲ連絡スル通路タル公道里程ニ依ルヘク通路二線以上アルトキハ其最モ短キ線ニ從ヒ計算スヘキモノトス

第五節　訴訟手續ノ中斷及ヒ中止

○甲ヨリ乙ニ對スル約束手形金支拂請求權ハ乙ノ隱居シタルニ拘ハラス民法第九百八十九條第一項ニ依リ依然乙ニ對シテ主張シ得ルヲ以テ訴訟手續モ亦乙ノ隱居ニ因リ中斷スルコトナク其後乙カ死亡シ而モ同人ノ訴訟代理人ニ於テ委任消滅ノ通知ヲ甲ニ爲ササリシトキハ判決正本カ右訴訟代理人ニ送達セラレタルトキ始メテ訴訟手續ノ中斷ヲ來スモノトス

（同主旨判例三八年一一六頁）

○民事訴訟法中隱居ニ因リ訴訟手續ヲ中斷スル規定ナキノミナラス隱居ハ訴訟能力ノ喪失ヲ來スモノニ非サレハ訴訟手續中斷ノ原因ニ非ス

（第百七十八條）

『第百七十八條』

○如上中斷シタル訴訟手續ハ隱居者ノ家督相續人ニ於テ受繼スヘク單ニ遺產相續權ノミヲ有スル者ノ如キハ之カ受繼ノ義務ナキモノトス（第一編第二章第五節訴訟手續ノ中斷及ヒ中止八年九九二頁參照）

（同主旨判例四年一三三八頁）

（第百八十七條）（聯）

『第百八十七條』

○第一審判決送達後訴訟手續ノ中斷アリタル場合ニ於テ受繼ノ申立ハ上訴ヲ受クヘキ第二審裁判所ニ之ヲ提出スヘキモノトス

（同主旨判例六年一六八頁）

同主旨判例四年二二七四頁

○既ニ終局判決ノ送達ヲ終ヘ原裁判所ノ繫屬ヲ離脫シタル後ニ訴訟手續ノ中斷セラレタルトキハ受繼ニ關スル書面ハ其差出人カ承繼人ナルト相手方ナルト勝訴者ナルト否トヲ問ハス又既ニ上訴ノ提起アリタル場合ナルト否トニ拘ハラス上訴裁判所ニ差出スヘキモノトス　八

○事件ノ控訴審ニ繫屬中被申立人先代カ死亡シ訴訟手續ハ中斷シタレトモ控訴判決ハ被申立人先代ニ適法ニ送達セラレス訴訟ハ尙ホ控訴審ニ繫屬スルトキハ承繼人ニ對スル訴訟手續受繼ノ申立ハ須ラク控訴審ニ爲スヘキモノトス　八　一二九一

第二編　第一審ノ訴訟手續

○給付ノ訴ハ原告ノ被告ニ對スル現ニ行使スルコトヲ得ヘキ請求權ノ存在ヲ確定シ被告ニ對シテ其義務ノ履行ヲ命スル判決ヲ求ムル訴ニシテ確認ノ訴ハ法律關係又ハ請求ノ成立又ハ不成立ヲ確定スル判決ヲ求ムル訴ナレハ現ニ行使スルコトヲ得サル請求權ニ付テハ確認ノ訴ヲ起スコトヲ得ルモ給付ノ訴ヲ起スコトヲ得サルモノトス　八　二七六

○給付ノ訴ヲ爲シタル原告ノ申立ニハ現ニ行使スルコトヲ得サル請求權ノ確認判決ヲ求ムル申立ヲ包含セサルモノナレハ原告カ右請求權ヲ確定スル判決ヲ得ントスルニハ別ニ確認ノ訴ヲ提起スヘキモノトス　八　二七六

○給付判決カ闕席判決ナルト否トヲ問ハス確定シタル後ニ於テ債務者カ其口頭辯論終結前ニ生シタル消滅事由ヲ主張シテ基本タル債權關係ノ不存在確認ヲ求ムルコトハ民事訴訟法上許サレサルモノトス　八　三一六

○單ニ原告甲カ訴外乙ノ本家ニシテ親族ナリトノ一事ノミヲ以テシテハ被告丙カ乙方ヘ爲シタル入籍ノ無效確認請求訴訟ノ目的タル權利關係ヲ即時ニ確定スルニ付キ甲カ法律上ノ利益ヲ有スルコトヲ認定スルヲ得サルモノトス　八　一三八〇

○民事訴訟法ニ所謂財產上ノ請求トハ財產ニ關スル法規ノ支配ヲ受クヘキ請求若クハ權利關係ニシテ親族其他ノ身分上ノ權利關係ニ對立スルモノト解スルヲ相當トス　八　一六二四

○原告カ被告ニ陸軍恩給權ヲ質入スル方法トシテ恩給證書ヲ交付シタレトモ恩給權ノ質入ハ無效ナリトシテ其證書ノ返還ヲ求ムル訴ハ財產ニ關スル法規ノ支配ヲ受クヘキ恩給證書ノ所有權ニ基ク返還請求即チ民事訴訟法ニ規定セル財產權上ノ請求ヲ目的トスルモノトス　八　一六二四

○不動產ノ所有權移轉登記手續ヲ求ムル給付訴訟ノ判決ニ在リテハ原告カ被告ニ對シ所有權ニ基キ斯ル給付ヲ求ムル請求權ヲ有スルヤ否ヲ確

定スルニ止マリ原告カ被告ニ對シ所有權ヲ有スルヤ否ヲ確定スルモノニ非サレハ右訴訟カ現ニ裁判所ニ繫屬スルノ一事ニ依リ係爭所有權確認訴訟ヲ目シテ法律上利益ナキモノト云フヲ得サルモノトス　八　一六二九

○給付不能カ直接履行請求ノ訴訟提起前ニ生シタル場合ニ於テ原告カ訴訟提起前既ニ給付不能ヲ知リ而モ直接履行ノ請求及ヒ給付不能ノ場合ニ於ケル損害賠償ノ請求ヲ爲シタルトキ雖モ直接履行ノ請求ノミ失當ニ歸スルニ止マリ爲メニ併セテ爲シタル他ノ損害賠償ノ請求ヲモ不當ト爲スヘキモノニ非ス　八　一六八五

○訴訟物タル所有權取得登記手續ノ請求カ財産權上ノ請求ナルヤ否ハ法律上ノ問題ニ屬スルヲ以テ當事者ノ間ニ爭アルト否トニ拘ハラス裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ判斷スルコトヲ得ルモノトス　八　一七七

○給付ノ判決ハ强制執行ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サル旨ノ法則ナキモノトス　八　二二四

○經界ノミニ爭アル確定訴訟ニ於テハ第一審裁判所ハ必スシモ當事者ノ主張スル所ニ拘束セラルル所ナク其自由ナル心證ニ基キ經界線ヲ確定シ得ヘキモノナリト雖モ第一審裁判所カ一度確定シタル經界線ハ不服ノ申立ニ依リ始メテ變更シ得ヘキモノナルカ故ニ相手方カ附帶控訴ノ申立ニ依リ之カ變更ノ申立ヲ爲ササルニ拘ハラス控訴人ノ變更申立ノ範圍外ニ涉リ其不利益ニ第一審裁判ヲ變更スルコトハ控訴申立ノ性質上許容スヘカラサル所ナリトス　九　八五八

○經界確定ノ訴ニ就キ爲ス判決ハ創設的判決ニ非スシテ宣言的判決ニ過キサルカ故ニ原告所有ノ土地カ偶抵當權ノ目的タルコトアリトスルモ土地所有者ハ抵當權者ト共同スルニ非サレハ訴ヲ提起スルコト能ハサルモノト謂フヲ得ス　九　九五八

○土地ノ經界ヲ定ムルニハ其土地ノ如何ナル箇所カ經界ナルカヲ識別シ得ル程度ニ判示スルコトヲ必要トスルモノニシテ其判示ノ方法トシテ圖面ヲ利用スルハ裁判上何等ノ妨ケナシト雖モ單ニ係爭地ノ圖面ニ朱線ヲ施シ之ヲ以テ係爭地ノ經界ナリト表示シ其朱線カ果シテ現場ノ如何ナル箇所ニ該當スルカヲ識別シ得サルモノナルニ於テハ其圖面ヲ經界判示ノ方法ニ供スルニ當リ朱線ト現場トノ關係ヲ具體的ニ說明セサルヘカラス　一〇　六二八

○相隣地ノ經界確定ノ訴ハ一方ノ所有者其他ノ物權者ヨリ他ノ一方ノ所有者其他ノ物權者ニ對シテ提起スルコトヲ得ルモノニシテ一方ノ土地ノ賃借人ヲ相手方トシテ提起シ得サルモノト解スルヲ相當トスヘク又

縱令賃借人ニ對シテ勝訴ノ判決ヲ受ケタリトスルモ賃借人ノ賃借權ノ及フ範圍ヲ確定スルノ實益ナキハ勿論賃借地ノ所有者ニ何等ノ效力ヲモ及ホスモノニ非サルヲ以テ賃借人ヲ相手方トスル經界確定ノ訴ハ法律上利益ナキモノトス

同主旨判例四年七〇五頁

○爭アル所有權ヲ基本トシテ經界ノ確定ヲ求ムル訴訟ニ於テ裁判所カ言渡ス判決ハ兩隣地間ノ經界ヲ定ムト同時ニ相隣者ノ所有權ノ範圍ヲ確定スルモノナルカ故ニ他日更ニ所有權ノ範圍確定ノ訴ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス　一〇　一〇八一

同主旨判例四年七〇五頁

○境界確認ノ訴ニ於テハ裁判所ハ當事者ノ主張スル境界線ニ拘束セラルルコトナク其主張ノ範圍內ニ於テハ裁判所ノ眞實ナリト認ムル所ニ從ヒ境界線ヲ定ムルコトヲ得ルモノナレハ其認定ハ必スシモ當事者ノ主張スル境界線ニ一致スルコトヲ要セサルモノトス　一〇　一〇九一

（同主旨）

境界確定ノ訴ニ於テハ裁判所ハ當事者ノ主張ニ拘束セラルルコトナク自ラ眞實ナリト認ムル所ニ從ヒ境界ヲ確定スルコトヲ得ヘシト雖モ其境界ハ當事者ノ主張範圍內ニ於テ確定スヘキモノニシテ其範圍外ニ於テ確定スヘキモノニ非ス

相隣地間ノ經界線ヲ確定スル訴ニ在リテハ裁判所ハ審理ノ結果經界線カ當事者一方ノ主張ノ經界線ニ一致セサルト否トニ拘ハラス其正當ナリトスル經界線ヲ判決ニ依リ形成スルヲ要スルモノトス　一〇　四一一

境界確定ノ訴ハ相隣地間ノ境界線ヲ定ムル創設的判決ヲ求ムルモノニシテ裁判所ハ當事者ノ主張セル境界線ニ羈束セラルルコトナク自ラ其眞實ナリト認ムル所ニ從ヒ境界線ヲ定メ得ルモノトス　一〇　一〇〇

第一章　地方裁判所ノ訴訟手續

第一節　判決前ノ訴訟手續

『第百九十條』

（第百九十條）（聯）

○遺產相續回復ノ請求ハ遺產相續人タルコトヲ主張シテ相續財產ノ回復ヲ求ムルモノニシテ其財產中ニハ債權アリ物權アリ或ハ其他ノ財產權アルヘシト雖モ此等ノ權利ヲ必スシモ箇箇ニ行使スルコトヲ要セスシテ包括的ニ行使スルコトヲ得ルモノナレハ其請求ノ訴訟ニ於テモ訴訟ノ目的物トシテ遺產相續ノ目的タル財產ヲ必スシモ一一列擧スルコトヲ要セサルモノトス

同主旨判例六年二〇八頁

○民事訴訟法第百九十條第二號ニ所謂請求ノ一定ノ原因トハ請求ノ基ク法律關係ヲ特定スルコトヲ要スル意義ニシテ一箇ノ請求ニ付キテ必ス

シモ數箇ノ法律關係ヲ主張シ得サル旨趣ニ非ス故ニ苟クモ互ニ牴觸セサル以上ハ數箇各獨立セル法律關係ヲ主張シテ訴ノ原因ト爲スコトヲ妨ケサルモノトス　一〇　一九五一

同主旨判例四〇年三九四頁

○所有權ノ效力タル物上請求權ニ基キテ物件ノ引渡ヲ求ムルニ際シ他日物件ノ現存セサルニ至ル場合ヲ豫想シ豫備的ニ其換價金ノ支拂ヲ求ムルハ所謂申立ノ一定ヲ缺クモノニ非サルモノトス　一〇　二二九

（第百九十一條）

『第百九十一條』

○第三者カ民事訴訟法第五百四十九條ノ規定ニ依リ强制執行異議ノ訴ヲ提起スルニ當リ執行債權者ニ對シ該强制執行ニ基ク損害賠償ノ請求權ヲ有スル場合ニ同法第百九十一條ニ規定スル要件ニ適合スルトキハ之ヲ一箇ノ訴訟ニ併合スルコトヲ得ルモノトス　一〇　五五三

（第百九十五條）

『第百九十五條』

○被告カ權利拘束ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得ルハ同一當事者間ニ於ケル前訴ト後訴トカ其訴訟ノ目的物竝ニ請求ノ原因ニ於テ全然同一ナル場合ナラサルヘカラサルモノトス　九　一〇一九

○第一審ニ於テハ定期履行ノ賣買ト爲シ相手方ノ不履行ニ因リ契約ノ目的ヲ達セサレハ商法第二百八十七條ニ依リ當然解除セラレタリト主張シ第二審ニ於テハ賣買ノ目的物ハ特定物ニシテ相手方ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ履行不能ト爲リタレハ之ヲ解除スル旨主張スルモ等シク契約解除ヲ原因トシテ請求ヲ爲スモノナレハ之ヲ以テ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト謂フヲ得サルモノトス　一〇　一九五一

（第百九十六條）

『第百九十六條』

○占有回收ノ訴ニ依ル占有物返還ノ請求及ヒ損害賠償ノ請求ハ共ニ占有ヲ奪ハレタルコトヲ以テ原因ト爲スモノナレハ初メ占有物返還ノ請求ノミヲ起シ後更ニ損害賠償ノ請求ヲ加フルハ民事訴訟法第百九十六條ニ所謂訴ノ原因ヲ變更セスシテ訴ノ申立ヲ擴張シタルモノトス　八　六五七

○訴ノ申立ヲ減縮スルコトハ必スシモ一箇ノ訴ヲ提起シタル場合ノミニ限ルヘキモノニ非ス訴ヲ併合シタル場合ニ於テモ亦訴ノ減縮ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　一〇　三八一

○訴ノ申立ヲ減縮スル場合ニ於テ訴ノ取下ヲ包含スルコトアルハ明カニシテ當事者カ申立ヲ減縮シ土地經界確認ノ訴ヲ撤回シタルハ訴ノ取下ニ該當スルモノト解スヘキモノトス　一〇　三八一

○民事訴訟法第百九十六條第三號ニ所謂賠償ハ履行ニ代ハル損害賠償ノミナラス當初ノ請求カ消滅シ之ニ代ハリテ生シタル請求ノ如キ總テ之

ニ包含スルモノトス

『第百九十七條』

（第百九十七條）同主旨判例三四年九卷六九頁

○民事訴訟法第百九十七條ニ所謂訴ノ原因ニ變更ナシトスル裁判中ニハ訴ノ變更ナシトノ裁判ヲ包含スルモノト解スヘキモノトス　一〇　一九二五

『第百九十八條』

（第百九十八條）

○訴ノ申立ヲ減縮スル場合ニ於テ訴ノ取下ヲ包含スルコトアルハ明カニシテ當事者カ申立ヲ減縮シ土地經界確認ノ訴ヲ撤回シタルハ訴ノ取下ニ該當スルモノト解スヘキモノトス　一〇　二〇三〇

○訴ノ取下カ第一口頭辯論ノ開始後ナルトキハ民事訴訟法第百九十八條第一項ノ規定ニ依リ相手方ノ承諾ヲ要スヘキモノナルモ其承諾タルヤ法律上別ニ方式ノ定メナキヲ以テ默示ニテモ之ヲ爲シ得ルモノト解スヘキモノトス　一〇　三八一

『第二百六條』

（第二百六條）

○本案ニ付キ被告ノ口頭辯論始マリタル後ニ於テハ妨訴ノ抗辯ハ被告ノ有效ニ抛棄シ得ヘキモノナル以上ハ被告ノ過失ニ非スシテ本案ノ辯論前ニ主張スル能ハサリシコトヲ疏明セサル限リ之ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス　一〇　三八一

『第二百七條』

（第二百七條）

○民事訴訟法第四百二十二條第三號ニ依ル差戻判決ハ性質上中間判決ナレトモ妨訴ノ抗辯ヲ棄却スル判決ハ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做スヘキモノナルコトハ民事訴訟法第二百七條第二項ノ規定スル所ニシテ控訴審カ妨訴ノ抗辯ヲ棄却シタル第一審判決ヲ認容シ控訴ヲ棄却シタルモノナルトキハ其判決ノ實質ニ於テハ妨訴ノ抗辯ヲ棄却シタルモノニ外ナラサルカ故ニ右法條ノ適用ニ依リ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做シ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　九　一〇一九

『第二百九條』

（第二百九條）

○契約解除ノ意思表示ノ方法ニ付テハ法律上何等ノ方式ヲ要セサルモノナレハ解除權者ハ訴訟ノ繫屬中裁判所ニ於テ攻擊防禦ノ方法トシテ相手方ニ對シ之カ意思ヲ表示スルモ素ヨリ支障ナク此場合ニ於テハ解除ノ意思表示ハ訴訟行爲タルト同時ニ法律行爲タル性質ヲ有スルモノトス　八　二〇九六

○法律カ時效制度ヲ認メタル理由中ニハ當事者ヲシテ證據方法ノ提出ヲ容易ナラシムルコトヲ包含スルモノナルヲ以テ當事者カ一方ニ於テ法律行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタル旨ノ抗辯ヲ提出スルニ拘ハラス他方

ニ於テ時效ニ因リ所有權ヲ取得シタル旨ヲ主張スルコトヲ妨ケサルモノトス　九

○如上ノ如キ二箇ノ抗辯アリタル場合ニ於テ裁判所ハ必スシモ先ツ所有權カ法律行爲ニ因リ取得シタルモノニ非サルコトヲ確定シタル後ニ非サレニ時效ニ因リ所有權ヲ取得シタル旨ノ抗辯ヲ審査スル能ハサルモノニ非ス直チニ時效ニ因リ所有權ヲ取得シタリトノ抗辯ニ付キ審査ヲ爲シ該抗辯ヲ理由アリトスルトキハ必スシモ他ノ抗辯ニ付キ說明スルコトヲ要セス請求全部ヲ排斥シ得ルモノトス　九

（第二百十三條）

『第二百十三條』

○證書記載ノ事項カ後日ノ記入ニ係ルカ如キハ異常ノ事例ニ屬スルヲ以テ斯ル事實ヲ主張スル者ニ於テ立證ノ責任ヲ負擔スルモノトス　八

○鐵道ハ旅客ヨリ運送ヲ託サレタル手荷物ノ滅失毀損ニ因ル損害額即チ商法第三百四十條ニ依リ定ムヘキ損害額カ百圓以內ナルトキハ其額ヲ之ヲ超過スルトキハ百圓ヲ最高限度トシテ賠償スヘキヲ通則トシ唯其滅失毀損カ鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因ル場合ニ於テノミ商法第三百四十一條ニ從ヒ一切ノ損害ヲ賠償スヘキモノナレハ百圓ヲ超ユル損害額ヲ請求スル旅客ハ手荷物ノ滅失毀損カ鐵道ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因ルコトヲ證明スヘキモノトス　八

○賣買ノ目的物ヲ引渡スハ賣主ノ義務ナルヲ以テ其義務ヲ履行シタル事實ハ賣主ニ於テ之ヲ立證スルノ責任アルモノトス　八

○如上損害賠償請求權發生ノ原因タル特約ノ事實カ原告ノ立證ニ依リ證明セラレタル以上ハ其義務不履行ノ事實ノ如キハ原告ニ於テ立證スヘキ事項ニ非スシテ被告自ラ其特約ヲ履行シタル事實ヲ立證スル責任アルモノトス（民法第四百十五條八年一三四四頁參照）　八

○民法第百六十二條第二項ノ取得時效ヲ主張スル者ハ無過失ニ付キ立證スル責任アルモノトス　八

○甲乙二種ノ米利堅針二百萬本ノ引渡ヲ目的トスル契約ニ於テ債權者カ目的物ノ內甲四十萬本乙六十萬本ノ引渡ヲ受ケタルモ債務者ニ於テ殘甲四十萬本乙六十萬本ノ引渡ヲ爲ササル爲メ得ヘカリシ利益ヲ失ヒタルコトヲ主張シ債務不履行ヲ原因トシテ其損害賠償ヲ求ムルニ對シ債務者ハ引渡濟ノ百萬本ハ總テ乙ナル旨抗辯シ以テ債權者ノ主張ヲ爭ヒタルトキハ不履行ニ係ル目的物カ甲四十萬本乙六十萬本ナルコトヲ證明スヘキ責任ハ原告タル債權者ニ在ルモノトス　八

○原告カ請求ノ原因タル消費貸借ノ成立ヲ立證スル爲メ提出シタル證書

ノ成立ニシテ眞正ナル以上ハ消費貸借ノ成立ヲ肯定スルニ足ルヲ以テ原告ハ該證書ヲ提出シ其成立ノ眞正ナルコトヲ立證スルヲ以テ消費貸借ノ成立ニ關スル立證ノ責任ヲ盡シタルモノト謂フヘク消費貸借カ準消費貸借ナルコトノ如キハ被告カ金錢ノ現實ノ授受ナキコトヲ理由トシテ消費貸借ノ成立セサルコトヲ抗辯シ之ヲ立證シタル場合ニ於テ始メテ主張シ立證スヘキモノトス　八

○保險者カ重要ナル事實ヲ過失ニ因リ知ラサリシコトハ之ニ基キ保險者ニ保險契約解除ノ權利ナキコトヲ主張スル者ニ於テ立證セサルヘカラス　九　二一〇九

○意思能力ナキ未成年者ノ名義ヲ以テ爲シタル法律行爲ハ反證ナキ限リ其未成年者自身ノ爲シタルモノニ非スシテ適法ノ代表者ニ於テ之ヲ爲シタルモノト推定スヘキヲ以テ未成年者自身カ之ヲ爲シタルモノト主張スル者ニ於テ之ヲ立證スヘキモノトス　九　六五

○既存債務ノ目的タル金錢ヲ更ニ消費貸借ノ目的ト爲スコトヲ契約シタル事實ノ立證トシテ既存債務ニ關スル記載ナク單ニ金錢ノ貸借契約ヲ記載シタル證書ヲ提出シタルトキハ反證ナキ限リ其事實ハ一應證明セラレタルモノト謂フヘク既存債務ヲ否認シ從テ所謂準消費貸借契約ノ　九　八一二

不成立ヲ主張スル者ハ自ラ其事實ヲ立證スル責アルモノトス　九　八二三

○如上ノ場合ニ於テ普通會員タル保證人ニ對シ他ノ保證人カ保證責任ヲ負フヘキモノナルコトヲ主張セント欲セハ其特約アルコトヲ立證セサルヘカラサルモノトス（民法第三編第一章第三節第四款保證債務九年一一九三頁參照）　九　一一九三

○變造シタル手形ニ署名シタル者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定セラルルモノナルコトハ商法第四百三十七條第二項ニ規定スル所ナルヲ以テ手形カ變造ニ係ルコトカ立證セラレタルトキハ署名者ハ變造前ニ署名シタルモノト推定セラレ從テ一應變造後ノ文言ニ付キ其責ヲ免カルモノナルニ依リ手形上ノ權利ヲ主張スル者ニ於テ變造後ノ署名ニ係ルコトヲ立證スルニ非サレハ署名者ニ對シ變造後ノ文言ニ從ヒ其權利ヲ主張スルヲ得サルモノトス　九　一四五五

○代理人カ本人ノ爲ニスルコトヲ示ササル意思表示カ相手方ニ於テ代理人カ本人ノ爲ニスルコトヲ知リ又ハ知リ得ヘカリシモノトシテ本人ニ對シ效力ヲ生スヘキコトヲ主張スル場合ニ於テハ之ヲ主張スル者ニ於テ其知リ又ハ知リ得タリシモノナルコトヲ立證スル責任アルモノトス　九　一八九五

○民法第七百十五條第一項本文ニ該當スル事實ヲ主張シテ損害賠償ノ請

求ヲ爲ス者ハ其事實ヲ立證スルヲ以テ足リ同條但書ノ事實ハ損害ノ賠償ヲ免カレントスル者ニ於テ立證スヘキモノトス　九　一九二

同主旨判例三年八一八頁　○意思解釋ノ資料タルヘキ事實上ノ慣習存スル場合ニ於テハ法律行爲ノ當事者カ其慣習ノ存在ヲ知リナカラ特ニ反對ノ意思ヲ表示セサルトキハ之ニ依ル意思ヲ有セルモノト推定スルヲ相當トスヘキヲ以テ其慣習ニ依ル意思ノ存在ヲ主張スル者ハ特ニ之ヲ立證スルノ要ナキモノトス　一〇　一〇三八

同主旨判例四四年三一〇頁　○法律行爲アリタル場合ニ於テハ一應其行爲ノ有效ニ成立シタルモノト推定スルヲ相當トスヘキヲ以テ其要素ニ錯誤アリシ爲メ無效ニ歸シタリトノ事實ハ之ヲ主張スル者ニ於テ立證ヲ爲スノ責任アルモノトス　一〇　一八一八

（第二百十七條）

『第二百十七條』

○一定ノ時間内ニ出發驛ヨリ到着驛迄始終算數上ノ平均速度ヲ以テ電車ヲ運轉スルハ物理學上不可能ノ事ニシテ出發及ヒ到著ノ時ハ勿論線路ノ高低曲折等ニ際シテハ速度ヲ調節シ適當ノ區間ニ於テハ平均以上ニ速度ヲ增加シ緩急相補ヒ因テ以テ豫定ノ時間内ニ運轉スヘキモノナルコトハ電車運轉ニ關スル實驗法則ナリトス　八　二四〇

○甲カ乙ヲ教唆シタルコトヲ認ムヘキ證憑十分ナラストシテ無罪ノ判決アリタル以上ハ反證ナキ限リ甲ハ乙ニ對シ教唆ヲ爲ササリシモノト推測セラルヘキモノトス從テ乙カ裁判所ニ於テ自己ノ犯罪ハ甲ノ教唆ニ因ルト陳述シタルハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルモノト謂ハサルヘカラス　八　四二八

○印紙稅法其他ノ法律ニ印紙ヲ貼用スヘキ證書ニシテ之ヲ貼用セサルモノハ證據力ナキ旨ノ規定ナケレハ印紙ノ貼用ナキ證書ヲ以テ證據力ナシト謂フヲ得サルモノトス　八　五七〇

○契約書ニ使用セラレタル文字カ如何ナル意義ヲ有スルヤ又當事者カ如何ナル契約ヲ爲シタルヤハ事實認定ノ問題ニシテ事實裁判官ノ自由ナル裁量ニ屬スルモノニシテ裁判所カ契約ノ文詞ヲ解釋スルニ當リ證人ノ證言ヲ參酌シタルハ相當ナリトス　八　一五六二

○裁判所ニ提出セラレタル書證ノ成立ニ付キ當事者間爭ナキ以上ハ裁判所ハ其内容ノ眞否ニ付キ當事者ノ陳述ニ拘束セラルルコトナク自由ナル心證ヲ以テ之カ信憑力ノ有無ヲ判斷シ採テ以テ事實認定ノ資料ト爲スコトヲ得ルモノトス　八　一五八〇

○醫師ノ診斷書ハ醫師ノ職務上作成スルモノニシテ一私人ノ作成シタル證明書ト性質ヲ異ニスルモノナレハ裁判所ハ之ヲ眞正ニ成立シタリト認ムルトキハ訴訟提起後ニ作成セラレタル場合ト雖モ疾病ニ關スル判斷ノ證據ト爲スコトヲ得ルモノトス　八　一五九六

○證書ノ眞否ヲ決スルニ印章ノ對照ニ因ル場合ニ於テハ其對照物ヲ檢認シテ之カ異同ヲ鑑別スヘキハ當然ナリト雖モ證書ノ眞正ニ成立シタルコトヲ判定スルニハ必スシモ印章ノ對照ノミニ因ルキモノニ非スシテ其他ノ證據方法ニ因リテ之ヲ爲スコトヲ得ヘク斯ル場合ニ於テハ如上對照物タル印章ヲ檢認スルノ要ナキモノトス　同主旨判例三八年一七四六頁　八　二〇二九

○係爭貸借ノ成立時期ニ付キ被告ハ貸借證書ノ日附タル大正三年十二月二十九日ナリト主張シ原告ハ大正四年三月十八日ナリト主張セル場合ニ於テ其貸借ニシテ同一ナル限ハ裁判所カ證據ニ依リ大正四年二月中ニ右貸借成立セルコトヲ判示スルモ妨ケナク其成立ノ日附ニ付キ當事者ノ主張ニ拘束セラルルモノニ非ス　九　三一七

○證人ノ供述ノ一部ヲ採用シ他ノ一部ヲ排斥スルカ如キハ裁判所ノ自由ナル心證ニ基キ取捨判斷シ得ヘキ所ナリトス　九

○府令ヲ以テ人力車ノ賃金ヲ定メタル場合ト雖モ該府令ハ一種ノ法規タルニ止マリ人力車夫カ該地ニ於ケル賃料收入ニ關スル現實ノ狀態ヲ描寫セルモノニ非ス從テ府令ニ關係ナク物價賃金ノ一般的昂騰ヲ以テ人力車夫ノ收入判斷ノ資料ニ供スルモ違法ニ非ス　九　四五一

○宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メニ訊問セラレタル者ト雖モ等シク證人ナルヲ以テ宣誓ヲ爲サシメタル證人ノ供述トノ間ニ當然信憑力ニ差等ノ存スルモノニ非サレハ其採否ハ一ニ事實承審官ノ專權ニ屬スルモノトス　同主旨判例三八年一三二六頁　九　五六七

○公正證書ト雖モ裁判所カ他ノ事實證據ニ依リ其內容ニ異ナル事實ヲ認定スルヲ妨クルモノニ非ス　同主旨判例四年一五二〇頁　九　一二一四

○第一審ニ於テ爲シタル自白ト相容レサル事實ヲ第二審ニ於テ主張シタルトキハ縱令明カニツ其主張事實カ證明セラルルニ於テハ縱令第一審ニ於テ爲シタル自白カ其錯誤ニ出テタルコトヲ主張シ且ツ之カ立證ヲ爲スコトニ依リ取消ノ意思ヲ明示セストモ其反對事實ノ主張及ヒ之カ證明ヲ爲スコトニ依リ暗默ニ取消ノ意思ヲ表示シタルモノト解スヘキモノトス　九　一三五四

（同主旨）

第一審ニ於テ爲シタル自白ト相容レサル事實ヲ第二審ニ於テ主張シタルトキハ縱令明カニ第一審ノ自白ノ取消ヲ爲ササルモ暗默ニ其取消ノ意思ヲ表示シタルモノト謂フヘク而シテ明示ノ自白ト雖モ自白者ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得ヘク又其取消方法ノ明示ナルトキハ默示ナルトニ依リ取消ノ效力ニ消長ヲ及ホサルモノトス　九　六八七

當事者ノ一方カ爲シタル自白ノ取消ヲ爲スニハ必スシモ明カニ其自白ノ錯誤ニ出テタルコトヲ主張シ且特ニ之カ立證ヲ爲スコトヲ要セス苟モ其自白ニ係ル事實ト相容レサル事實ヲ主張シ且其主張事實カ證明セラルルニ於テハ先キニ爲シタル自白ハ自ラ暗默ニ取消サレタ

ルモノト解スルヲ相當トス

同主旨判例三九年一五四頁

○第三者ノ作成シタル上申書ヲ裁判所ニ於テ眞正ニ成立シタルモノト認ムルトキハ判斷ノ證據ト爲スコトヲ得ルモノトス

○事前ノ事實ヲ綜合シテ事後ノ事實ヲ推論スルハ論理ノ許容スル所ナリ

○本人訊問ニ於ケル供述ノ證據力ニハ法律上何等制限ナキヲ以テ其本人ニ利益ナル供述ナルト將又不利益ナル供述タルトヲ問ハス之カ採否ハ一ニ事實裁判官ノ專權ニ屬スルモノトス

同主旨判例二年五一頁

○當事者一方ノ自ラ作成シタル書面ニシテ相手方ノ否認シタルモノト雖モ事實裁判所カ其書面ノ記載事項ヲ他ノ證據ニ依リ眞實ナリト認メ得ルニ於テハ之ヲ他ノ證據ト相竢チテ作成者ニ利益ナル事實認定ノ資料ニ供スルヲ妨ケス而シテ該書面カ訴訟提起後ノ作成ニ係ルト否トハ之ヲ問ハサルモノトス

（同主旨）

訴訟當事者自ラ作成シタル書面ハ商業帳簿ノ如ク法律ニ特別ナル規定ノ存スルモノヲ除クノ外相手方ニ於テ其書面ノ成立ヲ否認シ其內容ヲ爭ヒタル場合ニハ作成者自ラ之ヲ證據トシテ提出スルモ法律上證據タルノ效力ヲ有スルモノニ非ス但裁判所カ他ノ適法ナル證據ニ依リテ右書面記載ノ事實ヲ眞實ナリト認メ相符チテ事實認定ノ資料ニ供スルハ毫モ妨クル所ニ非ス

九　六八七

九　一三九六

九　一四六一

九　一四六一

九　一四六一

一〇　九一〇

九　一四七八

○本人訊問ノ結果ハ相手方ノ申請ニ係リ且相手方ノ法定代理人ヲ訊問シタル場合ト雖モ裁判所カ之ニ措信シ得ヘクンハ相手方ノ利益ニ之ヲ採用シ得サルモノニ非ス

○建物存在ノ事實竝ニ其所有者カ建物ノ存スル土地ニ付キ賃貸借契約ヲ締結セル事實アルトキハ其賃貸借ハ建物所有ノ爲メニ爲シタルモノト推定スルヲ通常トス

○當事者カ建物ノ朽廢ニ至ル迄賃貸借ヲ存續セシムヘキコトヲ約シタル場合ニ於テ其存續期間カ二十年ヲ超過スルトキハ其賃貸借ハ民法第六百四條ニ依リ二十年ニ制限セラルヘキモ之カ爲メニ裁判所ニ於テ當事者ノ意思ヲ解釋シタル上建物朽廢ニ至ル迄存續セシムヘキ賃貸借ナリト認定スルノ妨ト爲ラサルモノトス

○選擧ニ關スル訴訟ニ於テ當事者雙方ノ主張シタル事實ニ依リ其請求ノ當否ヲ決スルコトヲ得ヘキトキハ投票其物ヲ實驗スルノ必要ナキモノトス

○被選擧人ノ氏名ヲ高橋金次郎又ハ「たかはしきんじろう」若クハ「タカハシキンジロウ」ト書記シタル投票ハ高橋金治郎ヲ指示シタモノト認メ斯ノ如キ投票若干ヲ同人ノ得票中ニ算入シタルコトヲ選擧長タル相

九　一六三五

九　一六九七

九　一六九七

九　一八〇〇

手方カ認ムルトキハ之カ當否ハ投票其物ヲ實驗セスシテ決シ得ヘキモノトス　九　一八〇〇

○衆議院議員ノ選擧ニ付キ其投票面ニ記載シタル被選擧人ノ氏名カ何人ヲ指示スルモノナリヤハ投票面ノ記載ト選擧當時ニ於ケル諸般ノ事情トヲ參酌シテ之ヲ決スルコトヲ妨ケサルモノトス　九　一八〇〇

○選擧當時高橋金治郎ハ其選擧區ニ於テ候補者トシテ運動ヲ爲シタルニ反シ高橋金次郎ハ毫モ此事ナカリシ事情ヲ參酌シ高橋金次郎ト書記シタル投票ハ畢竟高橋金治郎ノ誤記ニ外ナラサルモノト認メ之ヲ同人ノ得票中ニ算入スヘキモノト爲シタルハ至當ナリトス　九　一八〇〇

○第三者ノ作成ニ係ル書面ナル以上ハ相手方カ之ニ對シ不知ヲ以テ爭ヒタル場合ニ於テモ裁判所ハ縱令他ノ證據方法ニ依ラストモ其成立ノ眞正ナルコトヲ認メ得ヘキモノニシテ之ヲ以テ係爭事實ヲ判斷スルノ資料ト爲スコトヲ妨ケサルモノトス　九　一八七一

○同一被選擧人ノ氏名ヲ重複シテ二列ニ記載シタル場合ニ於テハ選擧人ニ於テ其記載ヲ正クシ被選擧人ノ氏名ヲ一層明確ナラシムル爲メニスルコトナキニアラサルモ又其記載自體ニ依リテ或事柄ヲ暗示スル爲メニスルコトナキニアラスシテ當該投票カ其何レニ屬スルヤハ事實裁判所ノ自由ナル心證ヲ以テ判斷スヘキ事項ナリトス　九　一九五五

○訴訟提起後ニ其訴訟ニ關スル係爭事實ニ付キ一私人ノ作成シタル證明書ハ相手方ニ於テ其內容ヲ是認セサルトキハ證據トシテ採用スヘキモノニ非ス　一〇　一七二

○裁判所ハ當事者ノ爲シタル事實上ノ主張カ眞實ナリヤ否ヤハ辯論ノ全旨趣及ヒ當事者ノ申立テタル證據調ノ結果ヲ斟酌シ自由ナル心證ヲ以テ判斷スヘキモノナルヲ以テ其主張カ裁判所ニ於テ顯著ナル事實ニ非サル以上ハ之カ主張ヲ爲ス當事者ニ於テ宜シク其證據ヲ提供スヘク裁判所ハ何等適切ナル證據方法ナキニ拘ハラス當事者一方ノ主張事實ヲ肯定シ得ヘキモノニ非ス　一〇　三九九

○訴訟當事者ノ一方カ訴外人ト共ニ作成シタル私署證書ハ其作成ニ付キ訴外人ノ關與シタル事蹟ノ存スル限リ其證據力ニ於テ訴外人ノ作成ニ係ル私署證書ト異ナルコトナキヲ以テ相手方ノ否認ニ依リ直ニ其證據力ヲ失フモノニ非スシテ之ヲ採用スルト否トハ事實裁判所ノ自由ナル心證ヲ以テ判斷スヘキ職權ノ範圍ニ屬スルモノトス　一〇　七二

○證人カ當事者ノ配偶者ナル場合ニ於テモ其證言ヲ信用スルト否トハ事實承審官ノ自由ナル心證判斷ニ屬スル所ニシテ而カモ他ノ證據ト相竢

同主旨判例三九年五五頁

ツニ非サレハ採用スヘカラサルモノニ非サルモノトス　一〇　七四一

○當事者カ證人訊問ヲ申請シ裁判所ハ之ヲ採用シタルモ其訊問前拋棄ノ申立ヲ爲シタルニ拘ハラス裁判所カ職權ヲ以テ該證人ヲ訊問シタル場合ニ於テ當事者カ其不當ヲ詰責シ異議ヲ留メタル場合ハ格別然ラサル以上ハ裁判所ハ右證人ノ證言ヲ採テ判斷ノ資料ト爲スコトヲ妨ケサルモノトス　一〇　八二三

同主旨判例七年一五三三頁

○證據ハ共通ナルヲ以テ裁判所カ當事者一方提出又ハ援用シタル證據ヲ其相手方ノ利益ニ採用スルモ不法ニ非サルモノトス　一〇　九一六

同主旨判例元年九七四頁

（同主旨）

當事者一方ノ提出シタル證據ハ他ノ一方ニモ共通ナルモノナレハ他ノ一方ニ於テ之ヲ援用セサル場合ニ於テモ裁判所ハ之ヲ其利益ノ證據ニ供スルコトヲ得ルモノトス

○手形債權ノ署名者ノ責任ハ一ニ手形ノ文言ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノナリト雖モ其文言ノ意義ヲ變更又ハ補充スルニ非サル限リハ裁判所ハ諸般ノ證據ニ依リ之ヲ判定シ得ルモノトス　一〇　一九七八

○公證人カ法律行爲ニ付キ作成シタル證書ハ當事者カ之ニ記載ノ如キ陳述ヲ爲シタル事ニ付キテハ反證ナキ限リ完全ナル證據力ヲ有スレトモ陳述ノ内容カ眞實ナリヤ否ヤノ問題ハ證書ノ證據力トハ何等關係スル所ナキモノトス　一〇　二一九

○必要的共同訴訟ニ非サル場合ニ於テモ共同訴訟人中一人ノ提出シタル證據ハ其内容カ他ノ共同訴訟人ニ影響ヲ及ホストキニ限リ其援用ヲ竢タスシテ右共同訴訟人ノ爲メニ判斷ノ資料ト爲スコトヲ妨ケサルモノトス　一〇　一三六九

○代理人カ小切手ヲ振出シタル場合ニ小切手面ニ本人ノ爲メニスルコトノ記載アルヤ否ヤノ事實ト代理人カ本人ノ爲メニ小切手振出ノ權限アルヤ否ヤ又ハ權限ナシトスルモ第三者カ振出ノ權限アリト信スヘキ正當ノ理由ヲ有セシヤ否ヤノ問題トハ全ク別箇ノ關係ニシテ前者ハ單ニ小切手ノ文言自體ニ依リテノミ決定スヘキモノナリト雖モ後者ハ代理ニ關スル一般ノ法則ニ依リ律スヘキモノナルヲ以テ諸般ノ證據方法ニ依リ判定スルコトヲ得ルモノトス　一〇　一六四六

○手形ノ振出又ハ引受署名トシテ「甲株式會社專務取締役」ト記載シアル文言ヲ以テ甲會社ノ代理人タル乙カ會社ノ爲メニ爲スモノナルコトヲ表示シテ振出及ヒ引受ヲ爲シタルモノト爲シタルハ手形文言ノ意義ヲ其儘解釋判斷シタルニ外ナラスシテ他ノ事由ニ依リ之ヲ變更シ又ハ補充シタルモノニ非ス　一〇　一七〇〇

○訴訟ノ當事者カ他ノ訴訟ニ於テ爲シタル事實上ノ供述ト雖モ之ヲ他ノ證據ト綜合シテ其當事者ノ利益ニ係爭事實ヲ判斷スルコトヲ妨ケサルモノトス　一〇　一七九四

○訴訟ノ提起後ニ於テ第三者カ當事者ヨリ訴訟上利益ナル事實ノ陳述ヲ聽取シ證人トシテ法廷ニ之ヲ供述シタリトスルモ其供述ハ證據タル效力ヲ有セサルモノト解スルヲ相當トス　一〇　一八四一

○當事者一方カ裁判上爲シタル自白ノ取消ヲ爲スニハ必スシモ特ニ其自白ノ錯誤ニ出テタルコトヲ主張立證シ且取消ノ意思ヲ明示スルヲ要セス苟クモ其自白ニ係ル事實ト相容レサル事實ヲ主張シ且其主張事實カ證明セラルルニ於テハ曩キニ爲シタル自白ハ錯誤ニ出テタルモノトシテ之カ取消ヲ爲シタルモノト解スルニ妨ケナキモノトス　一〇　一八七一

同主旨判例四年一五二〇頁

○外國公證人ノ作成シタル證明書ハ之ヲ一私人ノ作成シタル證明書ト看做スヘキ法規存セサルヲ以テ其公證人作成ノ證明書カ裁判所ニ證據トシテ提出セラレタル場合ニ於テモ證明書作成ノ資格ニ變更ヲ來タスコトナク其作成者ハ依然トシテ外國公證人ナリト謂フヘク從テ其證明書ハ一私人ノ作成シタルモノト異ナリ證據タル效力ヲ有スルモノトス　一〇　一八八二

○裁判所カ實驗則ニ關スル知識ヲ得ルニ付キテハ其方法ト材料ニ何等ノ制限ナシト雖モ或具體的事實ニ關スル知識ヲ得ルニ付キテハ原則トシテ當事者ノ提出シタル訴訟資料ニ據ルヘク又其證據方法ハ法律ニ規定セラレタル種類ヲ出ツルヲ得サルコト勿論ナリト雖モ證據方法ノ一タル書證ナルモノハ專ラ或具體的事實ニ關スル或人ノ報告ヲノミ其內容トスヘク意見又ハ感覺ノ發表ヲ內容トスルヲ得スト云フカ如キ制限ナキモノトス　一〇　一九二九

○如上ノ事項ヲ錄取セル文書ハ公證人カ其權限ニ於テ作成シタル文書ニ非サルヲ以テ公正證書トシテ其內容事項ニ付キ完全ナル證據力ヲ有スルモノト謂フヲ得サルモノトス（公證人法一〇年一九四二頁參照）　一〇　一九四二

○當事者本人ノ訊問ハ裁判所カ證據調ノ結果事實ノ眞否ニ付キ尙心證ヲ得ルニ十分ナラサルトキ之ヲ爲スモノニシテ當事者本人訊問ノ結果ニ依リ係爭事實ヲ判斷スルニ必スシモ他ノ證據ト相竢ツコトヲ要スルモノニ非ス　一〇　二〇五一

（第二百十八條）

『第二百十八條』

○或事實カ裁判所ニ顯著ナルヤ否ヤハ各箇ノ具體的ノ場合ニ付キテ裁判所之ヲ判斷スヘク一般的ニ定ムルコトヲ得スト雖モ一地方ニ於テ其存在ノ確實ナルコトニ付キ毫モ疑ヲ挾マサル程度ニ一般人ニ知了セラレ

又ハ一般ニ認識セラルルトキハ縱令裁判官カ其職務外ニ於テ之ヲ認識知了シタル場合ト雖モ尙之ヲ以テ裁判所ニ顯著ナル事實ナリト判示スルニ妨ケナキモノトス

『第二百十九條』（第二百十九條）

○地方慣習ノ存在ハ其存在ヲ主張スル當事者ノ證明スヘキモノニシテ裁判所ハ之ヲ調査スルノ職權ヲ有スルモ職責トシテ調査ヲ爲ササルヘカラサルモノニ非ス

『第二百二十條』（第二百二十條）

○即時ニ爲スコトヲ得サル證據調ハ疏明方法トシテ許サルヘキモノニ非サレハ新ニ證據調期日ヲ定メテ證人ヲ取調フヘキ申立ハ疏明方法トシテ許スヘカラサルモノトス

『第二百二十一條』（第二百二十一條）

○裁判上ノ和解ハ訴訟當事者カ係爭權利ニ付キ相互ニ讓歩シ以テ爭ヲ止ムル行爲ニシテ强制執行ノ債務名義タリ得ヘク此點ニ於テ確定判決ト同樣ノ效力ヲ有スト雖モ這ハ單ニ右和解ヲ以テ訴訟法上ノ行爲タル方面ヨリ觀察シタルモノニシテ和解ノ內容タル係爭權利ノ處分ニ付キ當事者雙方間ニ爲サレタル意思表示タル點ヨリ觀ルトキハ一箇私法上ノ

一〇　二二

九　六一四

八　二四〇四

行爲タル契約ノ性質ヲ具有シ當事者ノ一方ハ相手方ニ對シ行爲不行爲ヲ要求シ得ル私法上ノ效果ヲ發生スルト共ニ該契約ニ無效又ハ取消原因ノ存スル場合ハ民法ノ規定ニ依リ之ヲ無效トシ又ハ之カ取消ヲ爲シ得ルハ勿論其不履行ノ場合之ヲ解除シ得ルヤ否ヤモ亦民法ノ契約解除ニ關スル規定ニ從ヒ之ヲ決定シ得ルモノト謂ハサルヘカラス

『第二百二十二條』（第二百二十二條）

○判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ハ書面ニ基キ之ヲ爲スコトヲ要スルハ民事訴訟法第二百二十二條ノ規定スル所ナルヲ以テ當事者カ其申立ヲ書面ニ讓リテ之ヲ法廷ニ於テ申立テサルハ固ヨリ不法ナリト雖モ現ニ其申立ヲ爲シタル以上ハ縱令其申立ト內容ヲ等フスル書面カ辯論後ニ於テ提出セラレタリトテ之ヲ以テ直ニ前記訴訟法ノ規定ニ反スルモノト謂フヲ得ス

○假執行ノ宣言ヲ求ムル申立ハ民事訴訟法第二百二十二條ニ所謂判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ニ屬セサルカ故ニ相手方ヲシテ防禦ニ付キテノ準備ヲ爲サシムルカ爲メ豫メ之ヲ適當ナル時期ニ書面ヲ以テ通知スルノ必要ナク從テ同法第二百五十二條第一項第二號ニ所謂申立ニ屬セサルモノトス

同主旨判例四二年七九一頁

九　一七七二

一〇　一〇五八

第二節　判決

○判決ニ於テ相手方ノ反對給付ト引換ニ給付ヲ爲スヘキコトヲ命スルニハ其反對給付ハ法律ノ規定ニ基クト法律行爲ニ基クトヲ問ハサルノミナラス其性質如何ヲモ問フヲ要セサルモノニシテ唯引換ニ爲スヘキ給付タルコトヲ以テ足ルモノトス　八

（第二百二十七條）

『第二百二十七條』

○民事訴訟ニ於テ證書提出ノ義務ノ存否ニ付キ當事者間ニ爭アルトキハ裁判所ハ判決ヲ以テ其存否ヲ裁判スヘキモノナリト雖モ其裁判ハ必スシモ中間判決ニ依ルコトヲ要セス終局判決ノ理由ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　八　五八一

（第二百二十八條）

『第二百二十八條』

○賣買ニ因ル不動産ノ所有權移轉登記手續ト不履行ノ場合ニ於ケル損害賠償ヲ求ムル訴ニ在リテハ訴狀記載ノ係爭不動産數筆ノ實測反別及ヒ各不動産ニ對スル其割合ノ如キハ副位的請求ノ數額ヲ決スル標準タルニ止マルヲ以テ被告カ之ヲ爭フモ主タル請求ノ數額ニ爭アルモノト謂フヲ得サルモノトス　八　二六七

○第一審カ辯論ヲ請求ノ原因ニ制限シタルハ主タル請求及ヒ副位的請求ニ付キ其副位的請求ノ數額ニ對スル辯論ヲ分離シタルニ外ナラサルトキハ第二審カ請求ノ原因アリト認メタルニ拘ハラス主タル請求ニ對シテハ賣買豫約ハ終期ノ定メナキモノトシ原告ノ賣買完結ノ意思表示ニ因リ賣買ノ效ヲ生シタル旨ヲ判示シ直ニ一部ノ終局判決ヲ與ヘタルハ相當ナリ　九　二三七

（同主旨判例　大審院一九三九頁）

○民事訴訟法第二百二十八條ニ依リ請求ノ原因ニ關スル判決ヲ爲スニ當リテハ請求額ノ存否ヲ裁判スルコトヲ要シ而シテ之ヲ裁判スルニハ權利義務ノ發生ニ關スル事實ノミナラス其消長ニ影響ヲ及ホスヘキ一切ノ事情特ニ請求權ノ全部若クハ一部ヲ阻却シ又ハ之ヲ制限スヘキ一切ノ抗辯ニ付キテモ判斷ヲ爲シ專ラ數額ニ關スル判斷ヲ留保スル如ク爲ササルヘカラサルモノトス　一〇　六五〇

○債務不履行ニ關シ民事訴訟法第二百二十八條ニ基ク損害賠償請求ノ原因アリト爲スニハ其債務不履行ノ事實ヲ判斷スルニ止マラス之カ爲メニ必然損害ヲ生スヘキ事情アルコトヲ判斷シ因テ以テ之カ損害賠償ヲ請求スルノ權利アルコトヲ認定セサルヘカラサルモノトス　一〇　六

（第二百三十一條）

『第二百三十一條』

○商法第二百八十六條ノ如ク相當ナル期間ヲ定メテ催告ヲ爲スヘキ旨ノ

規定ハ催告ヲ受クル者ノ利益ヲ保護スルノ旨趣ニ出テタルモノナレハ若シ其催告カ相當ノ期間ヲ定メサルモノナルトキハ被催告者ハ其催告ノ無效ヲ主張スルコトヲ得ヘシト雖モ被催告者ニ於テ其期間ノ長短ニ付キ爭ハサルトキハ裁判所ハ進テ其期間ノ相當ナルヤ否ヲ審判スヘキモノニ非ス

同主旨判例四年七〇五頁

○境界確定ノ訴ニ於テ原告ノ指定セル境界線ハ單ニ判決ノ資料タル事實上ノ陳述ニ過キサレハ原告ノ主張シタル境界線ヲ正當ト認メサル場合ト雖モ其請求ヲ棄却スヘキモノニ非スシテ進テ其眞實ト認ムル所ニ從ヒ境界線ヲ定ムヘキモノトス　八

○甲カ乙トノ賣買契約ニ基キ自己ノ履行スヘキ代金ト引換ニ乙ニ對シ土地ノ所有權移轉登記手續ノ履行ヲ請求スルハ畢竟登記手續ノ履行ヲ請求スルコトヲ以テ主眼トスルモノナレハ審理ノ結果乙ノ抗辯ニ依リ右代金ノ數額カ甲ノ主張スル數額ト一致セサルモ裁判所ハ乙ノ主張スル數額ヲ認メ甲ノ請求ノ一部ヲ排斥シ乙ニ對シ代金引換ニ土地所有權移轉ノ登記手續ヲ爲スヘキコトヲ命シタレハトテ之ヲ以テ甲ノ申立ヲ超越シテ裁判ヲ爲シタルモノト謂フヲ得サルモノトス　八

（第二百三十二條）

『第二百三十二條』

一〇　二〇九三　八五九　六九八

○判事轉官ノ旨官報ニ登載スルモ官報ノ登載ハ一般人民ニ告知スルニ止マリ判事ニ於テ辭令書ノ交付其他ノ方法ニ依リ轉官ノ告知ニ接セサル限リハ該判事ニ對シテ其效力ヲ發生セサルヲ以テ依然判事ノ職務ヲ執ルコトヲ妨ケサルモノトス　九

（第二百三十五條）

『第二百三十五條』

○在廷シタル者ニ期日ヲ定メ出頭ヲ命シタルトキハ期日ノ呼出狀ヲ送達スルヲ要セサルハ民事訴訟法第百六十一條但書ノ規定スル所ニシテ同法第二百四十五條ニ依リ準用セラルル同法第二百三十五條ノ規定ニ依レハ其出頭命令ハ在廷セサル一方ノ當事者ニ對シテモ亦效力ヲ有スルニヨリ之ニ對シテモ亦呼出狀ノ送達ヲ要セサルモノト解スルヲ相當トス　一〇

○決定ノ言渡ハ當事者ノ在廷スルト否トニ拘ラス其效力ヲ有スルモノナレハ當事者雙方訴訟代理人出頭シテ口頭辯論ヲ爲シタル口頭辯論期日ニ裁判長ハ判決言渡期日ヲ指定シ當事者雙方訴訟代理人ニ同期日ニ出頭ヲ命シタルニ當事者雙方及ヒ其訴訟代理人出頭セス裁判所ハ其期日ニ判決言渡期日ヲ何年何月何日何時ト變更スル旨ノ決定ヲ爲シテ之ヲ言渡シタルトキハ其決定ハ當事者ノ在廷セサルニ拘ラス又其送達ヲ要

一八三五　一七〇五

セスシテ當事者ニ對シ效力ヲ生シタルモノトス　一〇　二〇〇二

『第二百三十六條』

○判決ニ掲クヘキ當事者ノ表示ハ當事者ノ何人ナルヤニ疑ナキ程度ニ於テスルヲ以テ足リ身分職業ハ必スシモ之ヲ掲クルコトヲ要セサルヲ以テ之ヲ掲ケサルモ當事者ノ何人ナルヤヲ甄別シ得ルニ於テハ判決ノ實體的確定力及ヒ執行力ニモ影響スル所ナケレハ身分職業記載ノ欠缺ハ常ニ上告ノ理由ト爲ルモノニ非ス　八　三七二

第二百三十六條同主旨判例三九年六一七頁

○判決書ニ當事者ノ住所ヲ掲ケシムルハ其人違ナキコトヲ確保センカ爲メニ外ナラサレハ表示セラレタル當事者其人ノ別人ニ非サルコトヲ認識シ得ル點ニ爭ナキ以上ハ縱令其住所ノ記載ノ偶眞實ニ一致セサルモノアリトスルモ直ニ之ヲ以テ民事訴訟法第二百三十六條ニ違反スル不法アリト爲スヲ得サルモノトス　八　一五八〇

○或契約カ當事者雙方ノ暗默ノ意思表示ニ依リ解除セラレタルコトヲ認ムルニハ申込及ヒ承諾ノ意思表示アリタルコトヲ推知スルニ足ルヘキ事實ヲ判示セサルヘカラス　八　一七六一

○法律カ判決ニ影響ヲ及ホスヘキ重要ナル爭點ヲ判文ニ摘示スヘキコトヲ命シタルハ裁判所ニ於テ事件ノ判斷ヲ爲スニ當リ其爭點ヲ看過シタルモノニ非サルヤノ疑ヲ惹起スヘキ虞アルニ因ルニ外ナラサレハ判文ノ理由中右爭點ニ付キ判斷ヲ與ヘタルモノナルコトヲ明カニスルニ足ルヘキ記載アル以上特ニ當事者ノ主張事實トシテ之ヲ判文ニ摘示スルノ要ナキモノトス　八　二〇一三

同主旨判例二年三一三頁

○民事訴訟法第二百三十六條第二號ニ「其提出シタル申立」トアルハ當事者ノ爲シタル證人喚問ノ申立ヲモ包含スルモノデレハ證人喚問ノ申立カ却下セラレタル場合ト雖モ判決ノ事實摘示中ニ其申立アリタル旨ヲ記載スルヲ相當トスレトモ其記載在ラサレハトテ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス　九　二三八

同主旨判例六年九二三頁

○民事訴訟法第二百三十六條第二號ニ所謂事實及ヒ爭點ノ摘示ヲ缺クモ常ニ上告ノ理由ト爲ルモノニ非ス其欠缺カ判決主文ニ影響スル場合ニ於テノミ上告ノ理由タルコトヲ得ヘキモノトス　一〇　三八一

同主旨判例三七年三七三頁

○請求ノ原因タル事實ヲ判決ニ摘示スルニハ必スシモ其事實ノ發生時期ヲ年月日ヲ以テ精密ニ明示スルコトヲ要スルモノニ非スシテ原因事實ヲ特定スルニ必要ナル限度ニ以テ其發生時期ヲ表示スルヲ以テ足レリトス　一〇　一七一

○甲カ執達吏ニ委任シテ丙ノ所有トシテ差押ヲ爲シタル物カ乙ノ所有ナ

リシカ爲メ甲ニ過失アリトシテ之ニ不法行爲ノ責任ヲ負擔セシメントスルニハ甲ニ於テ其差押物件所在ノ場所其他執行當時ノ狀況等ニ徵シ不注意ニ因リ差押ヲ繼續シタル事實ヲ說示セサルヘカラサルモノトス

○商法第二百七十三條第一項ハ債權者ノ爲メニノミ商行爲タル行爲ニ因リテ債務發生シタルトキハ債務者ハ連帶債務ヲ負擔スヘキモノニ非サルヲ以テ數人カ商行爲ニ因リ發生シタル債務ニ付キ連帶責任ヲ負擔スルコトヲ判斷スルニハ右數人ノ全員又ハ其一人ノ爲メニ商行爲タル行爲ニ因リ債務カ發生シタル事實ヲ認定セサルヘカラサルモノトス　一〇　一七四四

○通行人カ危險發生ノ虞アル範圍內ニ進入シタリト判定スルニハ通行人ノ智能體力ハ勿論其通行人カ如何ナル程度ノ距離ニ於テ電車線路ニ接近セルカヲ具體的ニ認定スヘキモノトス　一〇　二〇九五

○民事訴訟ニ於テ證書提出ノ義務ノ存否ニ付キ當事者間ニ爭アルトキハ裁判所ハ判決ヲ以テ其存否ヲ裁判スヘキモノナリト雖モ其裁判ハ必スシモ中間判決ニ依ルコトヲ要セス終局判決ノ理由ニ於テモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　八　二四〇

○裁判所カ證據ヲ信用セスシテ排斥スル場合ハ必スシモ其理由ヲ明示スルヲ要セサレハ之ヲ明示スル場合ニ於テモ證據ノ內容ヲ具體的ニ明示スルノ要ナキモノトス　八　二六七

○賣買契約解除一年後ノ時價ヲ標準トシテ損害ノ賠償ヲ請求スル場合ニ於テハ裁判所ハ須ク右ノ損害ト債務不履行トノ間ニ取引ノ觀念上因果關係アルモノト認ムヘキ特別ノ事由アルヤ否ヤニ付キ審理判斷ヲ爲ササルヘカラサルモノトス（民法第五百四十五條九年一二九八頁參照）　九　五五八

○運送人カ貨物引換證ヲ發行シタルトキハ運送貨物ニ對シ貨物引換證ノ所持人ノ爲メニ代理占有ヲ爲スト同時ニ自己ノ爲メニスル自主占有權ヲ有スルモノニシテ此占有權ハ到達地ニ於テ貨物引換證ト引換ニ運送品ノ引渡ヲ爲スニ至ル迄繼續スルモノトス從テ運送人ノ占有權カ其以前ニ於テ消滅セル事實ヲ認定センニハ特ニ其事由ヲ說明セサルヘカラス　九　一三九八

○如上ノ場合ニ於テ其保證ヲ以テ取締役個人ノ爲メニ爲サレタルモノニ非スシテ保險事業ノ遂行ニ必要ナル行爲ナリト判示スルニハ其然ル所以ノ具體的事實ヲ認定セサルヘカラサルモノトス（商法第四十四條一〇年一〇〇頁參照）　九　一四八五

○甲地ハ乙地ニ隣接シ甲地ニ瓦礫ヲ堆積シタル爲メ之ニ降リタル雨水カ乙地ニ流下スヘキ地勢ニ在リテ雨水流下ノ爲メ乙地及ヒ其建物ニ多少　一〇　一〇〇

浸水スルモ占有妨害ノ虞アル程度ノ浸水ヲ生セサルコトヲ判斷セントスルニハ甲地ニ右瓦礫ヲ積ムモ乙地トノ高低ノ差異僅少ニ過キサル事實ヲ確定スルカ又ハ甲地ニ排水路アル等ノ事實ヲ確定スルニ非サレハ理由不備ノ瑕疵ヲ免カレサルモノトス　一〇　二二

○判決ノ事實摘示中ニ當事者ノ提出及ヒ援用シタル證據ヲ明示セサルトキハ如何ナル證據ノ提出及ヒ援用アリシヤヲ知ルニ由ナク從テ如何ナル證據ニ對スル判斷ナルヤヲ知ルコト能ハサルカ故ニ理由ノ不備タルト同時ニ當事者ノ提出及ヒ援用シタル證據ヲ看過シテ事實ヲ確定シタルト其結果ニ於テ撰ム所ナキモノトス　一〇　七七〇

○火ハ吾人日常生活ニ必要缺クヘカラサルモノニシテ山林内ニ於テ伐木製材ニ從事スル人夫ノ如キモ其生活上必スシモ山林中ニ於テ火ヲ使用スル要ナキモノト云フコトヲ得ス從テ叙上人夫カ山林中ニ於テ火ヲ用ヒタル結果火ヲ失シタル場合ニ於テ人夫ノ使用者カ人夫ヲシテ絶對ニ山林中ニ於テ火ヲ用フルコトナカラシメサリシ事ヲ以テ人夫ノ監督ニ付キ過失アルモノト斷定スルニハ該山林中ニ於テハ人夫カ其生活上絶對ニ火ヲ使用スル必要ナキコトヲ說明スルノ要アルモノトス　一〇　一四四〇

○如上契約成立當時甲乙カ前借金トシテ丙ヨリ金圓ヲ受領シタル場合ニ於テ該金圓カ純然タル消費貸借ナリヤ將タ名義ハ貸借契約ナレトモ其眞意カ藝妓稼業ヲ爲サシムル對價トシテ金圓ヲ授受シ甲ニ不當ノ所行アルトキハ損害賠償トシテ同額ノ金圓ヲ支拂ハシムル意義ナリヤ若シ其意義前者ナリトセハ丙ハ藝妓稼業契約ノ效力如何ニ關係ナク前借金ノ返還ヲ請求シ得ヘシト雖モ其意義後者ナリトセハ無效ナリトスヘク從テ如上前借金返還請求權ノ有無ヲ定メントスルニハ其意義ヲ判定セサルヘカラサルモノトス（民法第九十條　一〇年一七七四頁參照）　一〇　一七七四

同主旨判例三年八九〇頁

○判決主文ハ如何ナル範圍ニ於テ當事者ノ申立ヲ認容シ若クハ排斥シタルヤヲ表示スレハ足リ其範圍ヲ指示スル爲メニハ必スシモ主文自體ニ於テスルコトヲ要セス記錄中ニ存スル他ノ文書ヲ引用スルモ妨ケナキモノトス　一〇　一〇〇三

○民法第百十條ハ代理權アル者カ其權限ヲ踰越シタル場合ニ關スル規定ニシテ全然代理權ナキ者ノ爲シタル行爲ニ適用スヘキモノニ非サルカ故ニ甲カ乙ヲ丙ノ代理人ナリト信スヘキ正當ノ事由アリトシ同條ニ依リ丙ヲシテ其責ニ任セシムル爲メニハ乙カ丙ヨリ代理權ヲ授與セラレ居タルコトヲ判示セサルヘカラサルモノトス　一〇　二〇二一

（第二百三十七條）

『第二百三十七條』

○民事訴訟法第二百三十七條第一項後段ハ訓示的規定ニ過キスシテ陪席判事差支ノ爲メ署名捺印スルコト能ハザル以上ハ必スシモ其差支ノ理由ヲ開示スルコトヲ要セサルモノトス　八　八一四

『第二百四十條』（第二百四十條）

○本案ニ付キ爲シタル裁判ト雖モ請求ノ存否ニ關セス權利保護要求ノ條件ヲ欠缺スル爲メ請求ヲ棄却セラレタル場合ニハ該判決ハ實質的確定力ヲ生スルモノニ非ス從テ原告ハ更ニ其條件ヲ充實シテ同一ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク相手方ハ之ニ對シ有效ニ一事不再理ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得サルハ勿論裁判所モ亦前訴訟ノ判決ノ既判力ニ因リ後訴訟ノ請求ヲ排斥スルコトヲ得サルモノトス　八　三〇一

○證據決定ハ訴訟指揮ニ關スル裁判ニシテ裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ヘキモノナレハ民事訴訟法第二百四十五條同第二百四十條所定ノ羈束力ヲ有セサルモノトス（同主旨判例三年五〇〇頁）　九　一九五五

『第二百四十一條』（第二百四十一條）

○裁判所カ假執行ノ宣言ヲ求ムル債權者ノ申立ヲ看過シタルトキハ債權者ハ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得ルモ右宣言ノ脱漏ヲ理由トシテ上告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス　八　五三七

○當事者ノ主張事實ノ記載ヲ脱漏シタル場合ハ民事訴訟法第二百四十一條ニ所謂著シキ誤謬ヲ以テ目スヘカラサルモノナレハ同條ニ依ル更正決定ヲ以テ之ヲ補正スルコトヲ得サルモノトス　八　一七五二

○債權差押命令又ハ轉付命令ハ債權者ノ申請ニ因リテ發スルモノナルカ故ニ一旦執行裁判所カ其申請ニ基キ之カ命令ヲ發シタル後ニ在リテモ債權者ニ於テ右申請書ニ記載シタル請求金額ハ誤テ多額ニ計算シタルヲ以テ其金額ノ表示ヲ更正セラレタキ旨ノ申立ヲ爲シタルトキハ執行裁判所ハ民事訴訟法第二百四十一條ノ法意ニ鑑ミ當然先キニ爲シタル決定ノ更正ヲ爲スヘキモノトス　九　二一六六

○判決中當事者ノ氏名ノ誤記ノ如キハ更正ノ手續ヲ竢ツニ非サレハ之ヲ判斷スルコトヲ得サルモノニ非ス　九　二二〇二

『第二百四十四條』（第二百四十四條ノ司主旨判例五年一三八二頁）

○確定判決ノ效力ハ其判決ヲ受ケタル當事者及ヒ其一般承繼人ニ限リ拘束力ヲ有シ判決アリタル訴訟物ノ特定承繼人ハ判決ノ效力ヲ否定スルコトヲ得ルモノトス　八　六一

○本案ニ付キ爲シタル裁判ト雖モ請求ノ存否ニ關セス權利保護要求ノ條件ヲ欠缺スル爲メ請求ヲ棄却セラレタル場合ニハ該判決ハ實質的確定

力ヲ生スルモノニ非ス從テ原告ハ更ニ其條件ヲ充實シテ同一ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘク相手方ハ之ニ對シ有效ニ一事不再理ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得サルハ勿論裁判所モ亦前訴訟ノ判決ノ既判力ニ因リ後訴訟ノ請求ヲ排斥スルコトヲ得サルモノトス　八

○創設的判決ハ私權ヲ設定シ變更シ又ハ消滅セシムルモノナレハ其判決ハ訴訟上ノ效力ヲ生スルト同時ニ實體上ノ效力ヲ生スルモノトス從テ訴訟當事者以外ノ第三者ニ對シテモ效力ヲ生スルモノト謂ハサルヘカラス　八　三〇一

同主旨判例五年一三八二頁

○認定的判決即チ確認判決及ヒ給付判決ハ確定スルモ特別ノ明文ナキ限リ訴訟ノ當事者及ヒ其一般承繼人以外ノ者ニ對シテハ縱令其者カ當事者ノ特定承繼人タル場合ニ於テモ既判力ヲ及ホササルモノトス　八　二〇三

○請求ニ關スル異議ノ訴訟事件ト執行文付與ニ對スル異議ノ事件トハ全然別箇ノ事件ニシテ後者ハ前者中ニ包含セサルモノナルヲ以テ强制執行異議事件ニ付キ爲シタル原告ノ訴却下ノ闕席判決確定シタルモ之カ爲メニ一事不再理ノ原則ニ依リ執行文付與ニ對スル異議事件ニ付キ執行文ヲ取消ス旨ノ裁判ヲ爲スコトヲ得サルモノニ非ス　八　二〇三

○判決ハ其主文ニ包含スルモノニ限リ確定力ヲ有スルモノナルコト民事訴訟法第二百四十四條ニ依リ明カナルヲ以テ確定判決ニ因ル既判力ノ抗辯ハ前訴訟ニ於テ確定判決ヲ經タルモノニシテ其主文ニ於テ拒否セラレタルモノト同一ノ請求カ後ノ訴訟ニ於テ再ヒ訴訟ノ目的物ト爲リ又ハ攻擊防禦ノ方法ト爲リタル場合ニ之ヲ提出スルコトヲ得ルモノトス　九　一三三一

同主旨判例六年一八一〇頁

○如上ノ場合ニ於テ請求カ同一ナリトスルニハ當事者請求ノ原因竝ニ其目的物カ同一ナルコトヲ謂フモノナルカ故ニ既ニ其請求ノ原因竝ニ目的物ヲ異ニスル以上ハ縱令其請求權ノ發生シタル前提事實ニ關スル主張カ同一ナリトスルモ其前提事實タル權利關係カ前訴訟ニ於テ民事訴訟法第二百十一條ニ從ヒ申立ノ擴張又ハ反訴ノ提起ニ依リ確定判決ヲ受ケタルモノニ非サル限リハ之ニ對シテ既判力ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得サルモノトス　一〇　四六八

○甲乙間ニ於テ甲ハ乙ニ對シ遺產相續ニ因ル所有權移轉登記抹消手續ヲ請求スル權利ナキ旨ノ裁判確定シタリトスルモ乙ノ先代丙ニ遺產相續權アルコトヲ確定シタリト認ムルヲ得サルモノトス　一〇　四六八

○判決ハ其主文ニ包含スルモノニ限リ確定力ヲ有スルモノナレハ第一審判決主文ニ何等ノ宣明ナキ請求ニ付テハ縱令其理由中ニ之ヲ棄却スル　一〇　一〇七一

旨ノ説明アルモ未タ判決ナキモノト解スルヲ相當トスルヲ以テ追加裁判ヲ以テ判決ヲ補充セラレタルニ非スシテ之ニ對シ直ニ爲シタル控訴ハ許スヘカラサルモノトス　一〇　一三四一

○判決ハ其主文ニ包含スルモノニ限リ確定力ヲ有スルモノニシテ主文ニ包含スルモノハ訴訟ノ目的タル權利又ハ法律關係ナルヲ以テ確定判決ハ訴訟ノ目的タル權利又ハ法律關係ノ存否ニ限リ既判力ヲ有スルモノトス　一〇　一九〇三

（第二百四十五條）同主旨判例三年五〇〇頁

○利息金ノ請求事件ニ關スル第一審判決ニ於テ其元本債權ハ既ニ辨濟セラレタルコトヲ肯定シタルモ該判決ニ對シ原告ヨリ控訴ヲ爲シ控訴審ニ於テ右利息請求ニ付テハ一事再理ヲ求ムルモノトシ其請求ノ内容ヲ審究スルコトナク控訴ヲ棄却シタルトキハ元本債權ノ辨濟セラレタル點ニ付テハ確定判決アルニ非サルモノトス　一〇　二一八八

同主旨判　九　一九五五

『第二百四十五條』

○證據決定ハ訴訟指揮ニ關スル裁判ニシテ裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ヘキモノナレハ民事訴訟法第二百四十五條同第二百四十條所定ノ羈束力ヲ有セサルモノトス　一〇　一八二五

○在廷シタル者ニ期日ヲ定メ出頭ヲ命シタルトキハ期日ノ呼出狀ヲ送達スルヲ要セサルハ民事訴訟法第百六十一條但書ノ規定スル所ニシテ同法第二百四十五條ニ依リ準用セラルル同法第二百三十五條ノ規定ニ依レハ其出頭命令ハ在廷セサル一方ノ當事者ニ對シテモ亦效力ヲ有スルニヨリ之ニ對シテモ亦呼出狀ノ送達ヲ要セサルモノト解スルヲ相當トス　一〇　二〇〇三

例四〇年一一〇六頁

○決定ノ言渡ハ當事者ノ在廷スルト否トニ拘ラス其效力ヲ有スルモノナレハ當事者雙方訴訟代理人出頭シテ口頭辯論ヲ爲シタル口頭辯論期日ニ裁判長ハ判決言渡期日ヲ指定シ當事者雙方訴訟代理人ニ同期日ニ出頭ヲ命シタルニ當事者雙方及ヒ其訴訟代理人出頭セス裁判所ハ其期日ニ判決言渡期日ヲ何年何月何日何時ト變更スル旨ノ決定ヲ爲シテ之ヲ言渡シタルトキハ其決定ハ當事者ノ在廷セサルニ拘ラス又其送達ヲ要セスシテ當事者ニ對シ效力ヲ生シタルモノトス

第三節　闕席判決

『第二百四十九條』

（第二百四十九條）

○訴訟行爲ヲ爲スヘキ代理權ヲ有セサル者カ口頭辯論續行期日ニ訴訟代理人トシテ出頭スルモ當事者カ出頭シタルノ效果ヲ生セサルヲ以テ相手方ニ於テ闕席判決ノ申立ヲ爲シ得ヘキモ相手方ハ之カ申立ヲ爲ササ

ルモノナレハ裁判所ハ闕席判決ハ勿論對席判決ヲモ言渡スコトヲ得サルモノナルニ右ノ期日ニ於テ口頭辯論ヲ閉チ直ニ指定シタル期日ニ於テ對席判決トシテ裁判ヲ言渡シタルハ訴訟手續ニ違背セル不法ノ裁判ナリトス

（第二百五十一條）

『第二百五十一條』

○訴訟行爲ヲ爲スヘキ代理權ヲ有セサル者カ口頭辯論續行期日ニ訴訟代理人トシテ出頭スルモ當事者カ出頭シタルノ效果ヲ生セサルヲ以テ相手方ニ於テ闕席判決ノ申立ヲ爲シ得ヘキモ相手方ハ之カ申立ヲ爲ササルモノナレハ裁判所ハ闕席判決ハ勿論對席判決ヲモ言渡スコトヲ得サルモノナルニ右ノ期日ニ於テ口頭辯論ヲ閉チ直ニ指定シタル期日ニ於テ對席判決トシテ裁判ヲ言渡シタルハ訴訟手續ニ違背セル不法ノ裁判ナリトス

一〇　一〇六八

（第二百五十二條）

『第二百五十二條』

○假執行ノ宣言ヲ求ムル申立ハ民事訴訟法第二百二十二條ニ所謂判決ヲ受クヘキ事項ノ申立ニ屬セサルカ故ニ相手方ヲシテ防禦ニ付キテノ準備ヲ爲サシムルカ爲メ豫メ之ヲ適當ナル時期ニ書面ヲ以テ通知スルノ必要ナク從テ同法第二百五十二條第一項第二號ニ所謂申立ニ屬セサル

一〇　一〇六九

モノトス

（第二百五十五條）

『第二百五十五條』

○闕席判決ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ許サス從テ其抗告ニ付キ爲シタル決定ニ對シテ更ニ抗告ヲ爲スコトモ亦之ヲ許ササルモノトス

一〇　一〇五八

（第二百六十條）同主旨判例三〇年二卷一四頁

『第二百六十條』

○闕席判決ニ對シ故障ノ申立アリタル場合ニ於テ之ヲ適法ナリトスルトキハ別段ノ宣言ヲ要セス直ニ闕席前ノ程度ニ復シ新辯論ヲ進行セシムヘキモノトス

九　一五九六

第五節　證據調ノ總則

○本人訊問ヲ爲シタル後ニ至リテハ當事者ヨリ證據ヲ提出スルコトヲ得サル旨ノ規定ナケレハ其後ニ於テ各當事者ノ提出シタル證據ヲ以テ許スヘカラサルモノト爲スヲ得サルモノトス

八　一〇四四

○受命判事又ハ受託判事ノ面前ニ於テ爲ス前證據調施行ノ完結セサル間ト雖モ當事者ノ申請ニ基キ口頭辯論期日ヲ指定シ該期日ニ於テ更ニ他ノ證據調ヲ命スルコトヲ得ヘク前證據調ヲ完了シ其結果ヲ得タル後ニ非サレハ常ニ必スシモ他ノ證據調ヲ必要トスルヤ否ヲ決スルコト能ハサルモノニ非ス

八　一七四

○證據決定ハ訴訟指揮ニ關スル裁判ニシテ裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ヘキモノナレハ民事訴訟法第二百四十五條同第二百四十條所定ノ羈束力ヲ有セサルモノトス　（同主旨判例三年五〇〇頁）

○裁判所ノ部員ノ變更前ニ當事者ノ爲シタル證人訊問ノ申請及ヒ之ニ基キ爲シタル裁判所ノ證據決定ハ部員變更後ニ於テモ其效力ヲ有スルモノトス　（同主旨判例六年八二二頁）

『第二百七十四條』

○當事者ノ申立テタル證據中其調フヘキ限度ハ裁判所ニ於テ定ムヘキモノナレハ裁判所カ當事者ノ申立ニ係ル證人ノ申立ヲ制限シ其取調ヲ爲ササルモ不法ニ非ス　（同主旨判例四一年一七三頁・同主旨判例三九年一五五九頁）

○檢證ハ裁判所カ必要ト認ムルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲シ得ヘク縱令當事者ノ申請アルモ裁判所カ他ノ證據ニ依リ十分ナル考覈ヲ得更ニ檢證ノ必要ヲ認メサルトキハ其證據方法カ當事者ノ爲メ唯一ノ立證タルニ拘ハラス之ヲ許可セサルコトヲ得ルモノトス　（第二百七十九條）

『第二百七十九條』

○民事訴訟法第二百七十九條第一項ノ規定ハ必スシモ證據決定ノ裁判長タリシ判事カ囑託書ヲ發スルコトヲ要スル旨趣ニ非サレハ他ノ判事ト

九　一〇　八　一〇

一九五五　六七七　二　二五二

雖モ當時裁判長タル以上囑託書ヲ發スルコトヲ得ルモノトス

○民事訴訟法第二百七十九條第二項ノ證據書類受領通知ニ關スル規定ハ一ノ訓示規定ニ過キサルヲ以テ縱令裁判所書記カ其手續ヲ履踐セサリシトスルモ之ニ依リ訴訟手續ヲ無效タラシムルモノニ非サルモノトス　（第二百八十七條）

『第二百八十七條』

○第一審受訴裁判所ノ判事カ自ラ檢證ノ現場ニ就キ檢證中當事者ノ申請ニ因リ其現場ニ在リタル者ヲ證人トシテ訊問シタルトキハ其證人訊問ハ第一審受訴裁判所カ自ラ之ヲ爲シタルモノニ外ナラサレハ檢證ノ現場ニ臨ミテ之ヲ爲シタルカ爲メ民事訴訟法第二百八十七條第一項ニ所謂受訴裁判所ニ於ケル證據調タルコトヲ失ハサルモノトス　（同主旨判例四年六九八頁）

○受訴裁判所ニ於テ爲ス證據調ノ期日ハ同時ニ口頭辯論ヲ續行スル期日ナルヲ以テ其期日ニ於テ證據調ト口頭辯論トヲ同時ニ併行スルコトヲ得ヘク從テ證據調中未タ之ヲ終了セサルトキト雖モ口頭辯論ヲ續行スルコトヲ妨ケサルモノトス　（同主旨判例七年一八七五頁）

第六節　人證

○訴訟代理人タル者ヲ當該訴訟ニ於テ證人ト爲スヲ許ササル旨ノ規定ナケレハ第一審ニ於テ訴訟代理人タリシ者ヲ證人トシテ訊問スルモ之ヲ

八　九　九　九

一六八一　一三五四　一〇三五　一〇三五

不法ナリト謂フヲ得サルモノトス　八　一七一〇

○取締役ハ自ヲ會社ヲ代表セサル訴訟ニ於テハ證人タル資格ヲ有スルモノトス　九　二一七

（同主旨判例三八年三〇九頁）

○宣誓ヲ爲サスシテ供述シタル者モ宣誓ヲ爲シタル上供述シタル者ト同シク證人ニシテ其供述ヲ證言ト稱スヘキモノトス　一〇　一六九八

（同主旨判例七年一六〇七頁）

『第二百九十九條』

（第二百九十九條）

○民事訴訟法第二百九十九條第一項第二號ニ所謂家族ノ關係ニ因リ生スル財産事件ニ關スル事實ハ證人訊問ノ目的ト爲リタル事項カ證人ノ家族關係ニ因リ生スル財産關係ヲ指示スルモノニシテ訴訟當事者ノ訴訟事件カ家族關係ヨリ生スル財産關係ナルノ謂ニ非サルヲ以テ訊問事項カ證人ノ家族關係ニ因リ生シタル財産關係ナル場合ニ於テハ其證人ハ當事者ノ親族ナルトキト雖モ證言ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス　一〇　四三九

（同主旨判例六年一五八七頁）

○民事訴訟法第二百九十九條第三號ニ所謂證人トシテ立會ヒタル場合ニ於ケル權利行爲ノ成立及ヒ旨趣トハ證人カ後日裁判上ノ證人トシテ爲ルカ爲メニ又ハ行爲ノ方式上必要アルカ爲メニ立會ヒタル權利行爲ノ成立及ヒ旨趣ノ證人訊問ノ事項ト爲リタル場合ヲ指示スルモノナレハ訊問事項カ斯ル事項ナル場合ニ於テハ其證人ハ當事者ノ親族ナルトキト雖モ證言ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス　一〇　四三九

（同主旨）

民事訴訟法第二百九十九條第三號ニ證人トシテ立會ヒタル場合トアルハ證人カ證書作成ノ方式上必要ナリトシテ立會ヒタルモノノ外後日ノ證據ト爲ルヘキ目的ニテ立會ヒタル場合ヲ指稱スルモノトス

『第三百五條』

（第三百五條）

○證人忌避ノ申請ニ付キ其原因ナシト宣言シタル決定ニ對シ適法ナル期間內ニ即時抗告ヲ爲サス若クハ爲シタルモ棄却セラレ其決定カ確定シタル以上ハ爾後同一ノ證人ニ對シ同一ノ事實理由ノ下ニ再ヒ之カ忌避ノ申請ヲ爲スコトヲ得サルモノトス　八　二〇三七

○忌避ノ原因アリト宣言シタル決定ニ對シテハ直接上訴スルハ勿論決定自身ノ違法ナルコトヲ理由トシテ決定後ニ言渡サレタル判決ヲ攻擊スルコトヲ得サルモノトス　九　一

（同主旨判例四一年九五〇頁）

○忌避ノ原因アリトスル裁判ニ對シテハ上訴ヲ爲スヲ得サルコト民事訴訟法第三百五條第二項ニ規定スル所ナレハ該裁判ハ終局判決前ニ爲シタルモノナルモ上告裁判所ノ判斷ヲ受クヘキ限リニ非ス　九　一三二四

『第三百六條』

（第三百六條）

○證人ノ携帶セル呼出狀ハ訴訟記錄ニ編綴シ置クヘキモノニ非サルノミナラス證人ノ人違ナラサルコトハ必スシモ呼出狀ヲ携帶セルコトニ依リテ確ムルヲ要セサルヲ以テ證人呼出狀カ訴訟記錄中ニ存セサルノ故ヲ以テ其人違ナラサルコトヲ確メサルモノト斷スルヲ得サルモノトス　八　一四七九

○宣誓ヲ爲サシム可キ證人ニ之ヲ爲サシメスシテ訊問シタル場合ニ於テモ其證言ハ當然無效ニ非サルモノトス　一〇　一九一三

（第三百十條）『第三百十條』

○裁判所カ民事訴訟法第三百十條ニ違背シ宣誓ヲ爲サシムヘカラサル者ニ宣誓ヲ爲サシメテ訊問シタル場合ト雖モ當事者カ其訊問ノ際若クハ遲クトモ之ニ接續スル口頭辯論ニ於テ異議ヲ述ヘサル限ハ責問權ヲ拋棄シタルモノニシテ後ニ至リ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス　九　三五四

○宣誓ヲ爲サスシテ供述シタル者モ宣誓ヲ爲シタル上供述シタル者ト同シク證人ニシテ其供述ヲ證言ト稱スヘキモノトス　一〇　一六九八

（第三百二十條）『第三百二十條』

○裁判所カ證據決定ヲ施行セス又之カ取消ヲ爲サスシテ口頭辯論ヲ終結セントスルニ當リ申請當事者ニ於テ之カ異議ヲ述ヘサルトキハ申請ヲ拋棄シタルモノト解スヘキモノトス　九　一三五四

第七節　鑑定

○鑑定ハ裁判所ノ考覈ヲ補助スルモノニ過キサレハ當事者ノ申出アルモ裁判所ハ必要ト認メサルトキハ唯一ノ證據方法タルト否トヲ問ハス之ヲ採用セサルコトヲ得ルモノトス　八　五三

（同主旨判例七年一一五頁）

（第三百二十二條）『第三百二十二條』

○數名ノ鑑定人ヲ訊問スル場合ニ於テハ必スシモ各別ニ之ヲ爲スコトヲ要セサルモノナルコトハ民事訴訟法第三百二十二條第三百三十條第二項ノ規定ニ依リ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキモノトス　九　一一六〇

（第三百三十條）『第三百三十條』

○數名ノ鑑定人ヲ訊問スル場合ニ於テハ必スシモ各別ニ之ヲ爲スコトヲ要セサルモノナルコトハ民事訴訟法第三百二十二條第三百三十條第二項ノ規定ニ依リ之ヲ推知スルコトヲ得ヘキモノトス　九　一一六〇

（第三百三十一條）『第三百三十一條』

○鑑定人ノ選定及ヒ其員數ノ指定ハ受訴裁判所ニ於テ之ヲ爲スヲ原則トスレトモ民事訴訟法第三百三十一條ニ依レハ受訴裁判所ハ鑑定人ノ任命ヲ受託判事ニ委任スルコトヲ得ヘク之ヲ委任セラレタル受託判事ハ

鑑定人ノ選定及ヒ其員數ノ指定ヲ爲スノ權ヲ有スルヲ以テ受訴裁判所カ受託判事ヲシテ其選定ヲ爲サシムル爲メ之カ任命ヲ委任シ且ツ其際併セテ之カ員數ノ指定ヲ委任スルコトヲ得ヘキモノトス

第八節　書證

○訴訟當事者自ラ作成シタル書面ハ商業帳簿ノ如ク法律ニ特別ナル規定ノ存スルモノヲ除クノ外相手方ニ於テ其書面ノ成立ヲ否認シ其內容ヲ爭ヒタル場合ニハ作成者自ラ之ヲ證據トシテ提出スルモ法律上證據タルノ效力ヲ有スルモノニ非ス但裁判所カ他ノ適法ナル證據ニ依リテ右書面記載ノ事實ヲ眞實ナリト認メ相待チテ事實認定ノ資料ニ供スルハ毫モ妨クル所ニ非ス

○證書ニ署名捺印セル者ノ中ニ大正二年一月二十五日死亡シタル者アルトキハ該證書ハ僞造其他ノ事由存セサル限リハ其作成ニ付キ右死亡ノ日ヨリ確定日附アル私署證書トシテ完全ナル效力ヲ有シ大正三年以後ノ作成ニ係ルモノト云フヲ得サルモノトス

○如上ノ事項ヲ錄取セル文書ハ公證人カ其權限ニ於テ作成シタル文書ニ非サルヲ以テ公正證書トシテ其內容事項ニ付キ完全ナル證據力ヲ有スルモノト謂フヲ得サルモノトス（公證人法一〇年一九四二頁參照）

九　一七八五

九　一四七八

一〇　二〇九

一〇　一九四二

（第三百四十九條）

『第三百四十九條』

○公正證書ノ謄本ヲ以テ原本ニ換フルコトニ付キ當事者ノ合意アリ且其成立ニ爭ナキ以上ハ擧證者ハ原本ヲ提出スルノ要ナキモノトス

（第三百五十四條）

『第三百五十四條』

○當事者ノ提出シタル書證ノ謄本ハ必スシモ記錄ニ添附スルコトヲ要スルモノニ非サレハ之カ謄本ノ添附ナキ故ヲ以テ書證ノ提出ヲ明確ニシタル口頭辯論調書ノ記載ヲ虛僞ナリト謂フコトヲ得サルモノトス

第十節　當事者本人ノ訊問

（第三百六十條）

『第三百六十條』

○裁判所カ當事者ノ提出シタル許スヘキ證據ヲ取調ヘタル後事實ノ眞否ニ付キ心證ヲ得ルニ足ラサルトキハ當事者本人ヲ訊問スルコトヲ得ルモノトス

○本人訊問ニ於ケル供述ノ證據力ニハ法律上何等制限ナキヲ以テ其本人ニ利益ナル供述ナルト將又不利益ナル供述タルトヲ問ハス之カ採否ハ一ニ事實裁判官ノ專權ニ屬スルモノトス

○本人訊問ノ結果ハ相手方ノ申請ニ係リ且相手方ノ法定代理人ヲ訊問シタル場合ト雖モ裁判所カ之ニ措信シ得ヘクンハ相手方ノ利益ニ之ヲ採

一〇　一六四六

八　一〇四四

九　一四六一

用シ得サルモノニ非ス

○當事者本人ノ訊問ハ裁判所カ證據調ノ結果事實ノ眞否ニ付キ尙ホ心證ヲ得ルニ十分ナラサルトキ之ヲ爲スモノニシテ當事者本人訊問ノ結果ニ依リ係爭事實ヲ判斷スルニ必スシモ他ノ證據ト相竢ツコトヲ要スルモノニ非ス

第二章　區裁判所ノ訴訟手續

第一節　通常ノ訴訟手續

（第三百七十七條）

『第三百七十七條』

○民事訴訟法第三百七十七條ハ應訴期間ヲ規定シタルモノニシテ區裁判所カ闕席判決ニ對スル故障ニ付キ口頭辯論ノ新期日ヲ定ムル場合ニ適用セラルヘキモノニ非ス

（第三百八十一條）

『第三百八十一條』

○裁判上ノ和解ハ訴訟當事者カ係爭權利ニ付キ相互ニ讓歩シ以テ爭ヲ止ムル行爲ニシテ强制執行ノ債務名義タリ得ヘク此點ニ於テ確定判決ト同樣ノ效力ヲ有スト雖モ這ハ單ニ右和解ヲ以テ訴訟法上ノ行爲タル方面ヨリ觀察シタルモノニシテ和解ノ內容タル係爭權利ノ處分ニ付キ當事者雙方間ニ爲サレタル意思表示タル點ヨリ觀ルトキハ一箇私法上ノ行爲タル契約ノ性質ヲ具有シ當事者ノ一方ハ相手方ニ對シ行爲不行爲ヲ要求シ得ル私法上ノ效果ヲ發生スルト共ニ該契約ニ無效又ハ取消原因ノ存スル場合ハ民法ノ規定ニ依リ之ヲ無效トシ又ハ之カ取消ヲ爲シ得ルハ勿論其不履行ノ場合之ヲ解除シ得ルヤ否ヤモ亦民法ノ契約解除ニ關スル規定ニ從ヒ之ヲ決定シ得ルモノト謂ハサルヘカラス

第二節　督促手續

（第三百八十七條）

『第三百八十七條』

○支拂命令申請書ニ當事者ノ表示ニ誤記アルモ他ノ書類ニ依リ誤記ナルコト分明ナル以上ハ必スシモ裁判所ハ一一更正ノ手續ヲ爲ササルモ正當ナル當事者ノ記載アリタルモノトシテ書面ノ效力ヲ判斷スルコトヲ得ヘク從テ右支拂申請書カ相手方ニ送達セラレタルトキハ有效ニ權利拘束ノ效力ヲ生スヘク當事者間ニ口頭辯論ノ開始セラレタルトキハ相手方ハ正當ナル當事者タルコトヲ認メテ應訴シタルモノト認ムルヲ相當トス

（第三百九十一條）

『第三百九十一條』

○民事訴訟法第三百九十一條第二項ニ所謂通知書ノ送達アリタル日ヨリ

反對判例二年三六一頁

起算シトハ其日カ期間ノ初日ナルコトヲ意味スルモノニシテ通則ニ從ヒ其日ハ期間ニ算入セサルモノト解スルヲ相當トス　一〇　一五九七

第三編　上訴

第一章　控訴

○當事者ハ第一審ニ於テ爲シタル事實上ノ申述ヲ第二審ニ於テ補充シ又ハ更正シ得ルモノナレハ第二審裁判所ハ其補充又ハ更正セラレタル當事者ノ陳述ヲ基礎トシテ裁判ヲ爲スヘキモノトス　八　二一二

○第一審裁判所カ訴訟物ヲ財產權上ノ請求ニ非スト爲シタル場合ト雖モ第二審裁判所ハ之ニ拘束セラルルコトナク自由ナル意見ヲ以テ判斷スルコトヲ得ルモノトス　八　一七七七

○地方裁判所カ併合ノ要件ヲ具備セサル訴ニシテ本來區裁判所ノ事物ノ管轄ニ屬スルモノヲ自己ノ管轄ニ屬スルモノトシテ他ノ適法ナル訴ト分離セス其儘本案ノ審理裁判ヲ爲シタルトキハ其裁判ニ對スル控訴裁判所ニ於テハ該訴訟併合ヲ以テ不適法ナリトシテ辯論ノ分離ヲ命スルコトヲ得レトモ區裁判所ノ事物ノ管轄ニ屬スル訴ニ付テハ管轄違ノ理由ニ依リ之ヲ却下スルコトヲ得サルモノトス　八　二三二四

○控訴審ニ於ケル訴訟手續カ第一審ニ於ケル訴訟手續ノ續行ナルニモセヨ判決ハ口頭辯論ニ基キテ爲スヘキモノナレハ控訴裁判所ハ第一審ニ提出セラレタルニ止マリ控訴審ニ提出セラレサル抗辯ニ付キ判斷ヲ爲スヘキモノニ非ス　九　五三

○第二審判決ノ主文ニハ闕席判決ヲ廢棄シタル記載アルノミニシテ第一審判決ヲ廢棄シタル記載ナシトスルモ控訴人ノ控訴ヲ理由アリト爲シ其一定ノ申立ニ基キ第一審判決ト反對ナル判決ヲ爲シタルトキハ第一審判決ヲ廢棄シタル旨趣ヲ包含スルモノト謂ハサルヘカラス　九　三六一

○第一審ニ於テ甲カ乙ニ對シ金五百圓ヲ支拂ハシムヘキ請求ヲ爲シタルモ裁判所カ其內金百七十三圓三十五錢ノ請求ノミヲ認容シ他ハ之ヲ排斥シタルカ故ニ甲ハ控訴ノ申立ヲ爲シタルトキハ右不服ヲ申立ラレタル一審判決ノ部分ハ啻ニ其數額ニ於テノミナラス原因ノ有無ニ付テモ未タ確定セサルモノナルヲ以テ控訴裁判所カ一審裁判所ノ排斥シタル數額ノ部分ニ付キ其原因ノ存否ヲ判斷シタルハ相當ナリトス　九　九八三

○第一審判決ノ主文ニ本訴竝ニ反訴ニ基キ甲ト乙トヲ離婚ストアルハ甲ノ本訴ニ於テ主張シタル離婚請求權ヲ是認スルト同時ニ乙ノ反訴ニ依

リ主張シタル離婚請求ノ理由アルコトヲ認メ各其請求ニ副ヘル裁判ヲ爲シタルニ外ナラサルヲ以テ二箇ノ獨立シタル主文ヲ包含スルモノナレハ甲カ乙ノ反訴ニ於テ主張スル離婚ノ請求ヲ爭フ場合ニ於テハ判決中其不利益ナル部分ニ對シテ控訴ヲ提起シ得ヘキモノトス

（第三百九十八條）同主旨判例三年九一五頁

『第三百九十八條』

○民事訴訟法第三百九十八條但書ニ所謂懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキトハ裁判所カ闕席判決ヲ爲スヘカラサル場合ニ之ヲ爲シタルコトヲ理由トスルトキヲ指稱シ訴訟委任ヲ受ケタル辯護士カ辭任シ而モ其旨ヲ本人ニ通知セサリシカ爲メ本人ニ於テ期日ヲ懈怠セサルヘキ處置ヲ講スルヲ得ス遂ニ指定期日ニ出頭スルヲ得サリシカ如キ理由ハ之ニ包含セサルモノトス

（同主旨）民事訴訟法第三百九十八條但書ニ所謂懈怠ナカリシトハ裁判所カ事實上又ハ法律上ノ點ニ於テ不法ニ懈怠ヲ認メ闕席判決ヲ爲シタル場合ヲ指稱スルモノニシテ呼出狀ノ送達ヲ受ケタル訴訟代理人カ口頭辯論期日前ニ辭任シ當事者本人カ呼出アリタルコトヲ知ラサリシ爲メ期日ニ出頭セス闕席判決ヲ爲シタルカ如キ場合ヲ包含セサルモノトス

○民事訴訟法第三百九十八條但書ニ所謂懈怠ナカリシコトヲ理由トストハ裁判所ニ於テ當事者カ期日ニ出頭シタルニ拘ハラス出頭セサルモノ

九　一二八八

八　六八五

八　三四

トシ又ハ合式ノ呼出ナキニ拘ハラス期日ヲ怠リタルモノトシ闕席判決ヲ爲シタルカ如キ闕席判決ヲ爲スヘカラサル場合ニ之ヲ爲シタルコトヲ理由トスルノ謂ナレハ當事者ニ於テ俄然病氣ニ罹リ出頭スルコト能ハサリシカ爲メ裁判所カ闕席判決ヲ爲シタルカ如キ場合ヲ包含セサルモノトス

（第四百條）

『第四百條』

○民事訴訟法第四百條第三項ハ唯最初ノ判決ニ對スル控訴期間經過セサル間ニ追加ノ補充判決アリタルトキハ最初ノ判決ニ對スル控訴期間モ追加裁判ノ送達アリタルトキヨリ新ニ開始スヘキモノトシ因テ當事者カ本判決及ヒ補充判決ニ對シ控訴ヲ申立タル場合ニ於テ控訴判決ノ抵觸ヲ避ケンコトヲ期シタルニ止マリ敢テ之カ爲メ最初ノ判決ニ對シ進行シタル控訴期間ヲ既往ニ遡及シ滅却セシムル旨趣ニ非サレハ補充判決ノ送達迄ニ進行セル控訴期間内ニ提起シタル本判決ニ對スル控訴ハ適法有效ナルモノトス

（第四百一條）同主旨判例三九年三五九頁

『第四百一條』

○控訴狀ニハ控訴ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ記載スルコトハ控訴狀ノ法定要件ナレトモ其陳述ノ記載ハ文字通リニ之ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非スシ

八　一八二〇

八　九〇八

ヲ控訴ヲ爲スコトノ旨趣カ控訴狀ノ文意ニ照シテ明カナルトキハ其要件ハ充實セラレタルモノトス

（第四百十二條）

『第四百十二條』

○控訴裁判所ハ當事者ノ援用セサル第一審ノ證人ノ證言ヲ斟酌シ裁判スヘキモノニ非ス　一〇

○控訴判決ノ基本ト爲リタル口頭辯論調書ニ「當事者雙方ハ訴訟關係ヲ表明シ證據調ノ結果ニ付キ辯論ヲ爲シタリ」トアルハ當事者雙方カ原審ニ於テ主張及ヒ答辯シタル事實關係ヲ表明シ且提出又ハ援用シタル證據ニ關シ其結果ニ付キ辯論ヲ爲シタリトノ謂ニシテ之ヲ以テ第一審ニ於テ提出又ハ援用シタル證據ヲ原審ニ於テモ提出又ハ援用シタルモノト謂フヲ得ス　八　一〇三八　一五三三

（第四百十六條）同主旨判例四二年六一四頁

『第四百十六條』

○控訴ハ不利益ノ判決ヲ受ケタル者ニ於テ爲スヘキモノナレハ訴ノ申立ヲ是認セラレタル原告ハ訴ノ申立ヲ擴張スルカ爲メニ控訴又ハ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得スト雖モ民事訴訟法第四百十六條ニ從ヒ控訴審ニ於テ訴ノ申立ヲ擴張スルハ第一審ニ於テ訴ノ申立全部ヲ是認セラレタル原告ト雖モ被告ヨリ控訴ヲ爲シタル場合ニ於テ控訴又ハ附帶控訴ノ方法ニ依ラスシテ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス　八　一〇　五一四

○如上ノ場合ニ於テ原告ヨリ控訴又ハ附帶控訴ナキニ拘ハラス第一審判決カ被告タル控訴人ノ不利益ニ變更セラルルコトトナリ民事訴訟法第四百二十五條ノ原則ニ反スルノ結果ヲ免カレスト雖モ這ハ法カ控訴又ハ附帶控訴ニ依ラスシテ訴ノ申立ヲ擴張スルコトヲ許シタルニ伴フ例外ナリトス　一〇　五一四

○相殺ノ抗辯ハ民事訴訟法第四百十六條ニ所謂新ナル請求ニ外ナラサレハ第二審ニ於テ相殺ノ抗辯ヲ提出スルニハ同條ノ規定ニ則リ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサリシコトヲ疏明スルヲ要スルモノトス　一〇　一二三

○債權完濟アリタル爲メ相殺ノ抗辯ヲ提出セサリシ事由ハ第二審ニ於テ提出シタル相殺ノ抗辯ヲ第一審ニ於テ提出シ能ハサリシコトヲ以テ其過失ニ非ストスルヲ得サルモノトス　一〇　一二三

（第四百十八條）

『第四百十八條』

○民事訴訟法第四百十八條ハ第一審ニ於テ爲シタル裁判上ノ自白ニ關スル規定ナレハ自白以外ノ陳述ニ適用スルコトヲ得サルモノトス　八　二一二

同主旨判

○第一審裁判所ニ於ケル自白ハ第二審裁判所ニ於テ之ヲ援用スルニ非サ

レハ裁判所ハ相手方ノ利益ノ爲メ之ヲ判斷ノ資料ニ供セサルヘカラサル責務ヲ有スルモノニ非ス（例元年一〇三五頁）

『第四百二十二條』（第四百二十二條）

○民事訴訟法第四百二十二條第三號ニ依ル差戻判決ハ性質上中間判決ナレトモ妨訴ノ抗辯ヲ棄却スル判決ハ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做スヘキモノナルコトハ民事訴訟法第二百七條第二項ノ規定スル所ニシテ控訴審カ妨訴ノ抗辯ヲ棄却シタル第一審判決ヲ認容シ控訴ヲ棄却シタルモノナルトキハ其判決ノ實質ニ於テハ妨訴ノ抗辯ヲ棄却シタルモノニ外ナラサルカ故ニ右法條ノ適用ニ依リ上訴ニ關シテハ終局判決ト看做シ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ルモノトス（第四百二十三條）（同主旨判例四年三二三頁）

『第四百二十三條』

○第一審ノ訴訟手續ニ違背アリタル場合ニ於テ事件ノ差戻ヲ爲スヘキヤ否ヤハ控訴審ノ自由ニ決スルコトヲ得ルモノトス

○第一審判決ノ理由ノ當否ヲ問ハス第一審判決ノ正當ナル以上ハ民事訴訟法第四百二十三條ヲ適用スル場合ノ外ハ第二審裁判所ハ第一審判決ヲ取消スヘキモノニ非ス（第四百二十四條）

『第四百二十四條』

○第二審ニ於テ言渡スヘキ判決ハ其主文カ第一審判決主文ト異ナラサル限リハ事實摘示ニ於テ第一審判決ト差異アルモ之ヲ廢棄スヘキモノニ非ス（同主旨判例七年二一七四頁）

○控訴裁判所ニ於テ言渡スヘキ第二審判決カ第一審判決ト其理由ヲ異ニスル場合ト雖モ其言渡スヘキ裁判ノ結果カ同一ニ歸スルトキハ第一審判決ヲ廢棄セスシテ控訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス（同主旨判例三年一〇八五頁）（第四百二十五條）

『第四百二十五條』

○經界ノミニ爭アル確定訴訟ニ於テハ第一審裁判所ハ必スシモ當事者ノ主張スル所ニ拘束セラルル所ナク其自由ナル心證ニ基キ經界線ヲ確定シ得ヘキモノナリト雖モ第一審裁判所カ一度確定シタル經界線ハ不服ノ申立ニ依リ始メテ變更シ得ヘキモノナルカ故ニ相手方カ附帶控訴ノ申立ニ依リ之カ變更ノ申立ヲ爲ササルニ拘ハラス控訴人ノ變更申立ノ範圍外ニ渉リ其不利益ニ第一審裁判ヲ變更スルコトハ控訴申立ノ性質上許容スヘカラサル所ナリトス

○如上ノ場合ニ於テ原告ヨリ控訴又ハ附帶控訴ナキニ拘ハラス第一審判決カ被告タル控訴人ノ不利益ニ變更セラルルコトトナリ民事訴訟法第四百二十五條ノ原則ニ反スルノ結果ヲ免カレスト雖モ這ハ法カ控訴又